

熊本地震による熊本県立大学災害復旧工事 (第II期)

図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
	【 意匠図 】		【 意匠図 】		【 意匠図 】
A-01	建築改修工事特記仕様書 (その1)	A-21	(環境共生学部北棟・南棟) 1階平面図	A-41	(アリーナ) 屋根伏図 (参考図)
A-02	建築改修工事特記仕様書 (その2)	A-22	(環境共生学部北棟・南棟) 2階平面図	A-42	(プール) 1階平面図
A-03	建築改修工事特記仕様書 (その3)	A-23	(環境共生学部北棟・南棟) 3階平面図	A-43	(プール) プールサイド日除け 1階平面図
A-04	建築改修工事特記仕様書 (その4)	A-24	(環境共生学部北棟・南棟) 4階平面図	A-44	(プール) プールサイド日除け屋根伏図
A-05	建築改修工事特記仕様書 (その5)	A-25	(環境共生学部北棟・南棟) 5階平面図	A-45	(プール) プールサイド日除け標準図・断面図
A-06	工事概要表・共通事項・付近見取図	A-26	(環境共生学部北棟・南棟) 6階平面図・屋根伏図 (参考図)	A-46	(小峯クラブハウス) 配置図
A-07	下地補修特記仕様書	A-27	(環境共生学部北棟・南棟) 南棟 西側立面図・東側立面図	A-47	(小峯グラウンド) 配置図
A-08	配置図	A-28	(大ホール) 地階平面図 (参考図)	A-48	(図書館) 1階平面図 (参考図)
A-09	(講義棟1号館) 1階平面図	A-29	(大ホール・講義棟2号館・総合管理学部棟) 1階平面図	A-49	(図書館) 2階平面図
A-10	(講義棟1号館) 2階平面図	A-30	(大ホール・講義棟2号館・総合管理学部棟) 2階平面図	A-50	(図書館) 3階平面図
A-11	(講義棟1号館) 屋根伏図 (参考図)	A-31	(大ホール・講義棟2号館・総合管理学部棟) 3階平面図	A-51	(図書館) 4階平面図
A-12	(小ホール・文学部棟) 1階平面図	A-32	(講義棟2号館・総合管理学部棟) 4階平面図	A-52	(図書館) 屋根伏図 (参考図)
A-13	(小ホール・文学部棟) 2階平面図	A-33	(総合管理学部棟) 5階平面図・屋根伏図	A-53	外構図
A-14	(小ホール・文学部棟) 3階平面図	A-34	(グローバルセンター) 1階平面図		
A-15	(文学部棟) 4階平面図	A-35	(グローバルセンター) 2階平面図		
A-16	(文学部棟) 屋根伏図 (参考図)	A-36	(グローバルセンター) 屋根伏図 (参考図)		
A-17	(環境共生学部西棟) 1階平面図	A-37	(キャリアセンター) 1階平面図		【 電気設備図 】
A-18	(環境共生学部西棟) 2階平面図	A-38	(キャリアセンター) 屋根伏図 (参考図)	E-01	(小ホール・文学部棟) 電灯設備 2階平面図
A-19	(環境共生学部西棟) 3階平面図	A-39	(アリーナ) 1階平面図		
A-20	(環境共生学部西棟) 4階平面図・屋根伏図	A-40	(アリーナ) 2階平面図 (参考図)		

3	1 降雨等に対する養生方法(とい共)	※ 改修仕様3.1.3(a)(1)~(3)による ()	[3.1.3]
	2 既存防水の処理	既存保護層の撤去 ・ 行う (範囲・指示による) ・ 行わない 既存防水層の撤去 ・ 行う (範囲・指示による) ・ 行わない 露出防水層表面の仕上げ塗膜除去 ・ 行う (M4AS・M4ASI・M4C・M4DI・L4X) ・ 行わない	[3.2.3~4] [3.2.6]
	3 既存防水層の下部補修	補修箇所形状、長さ、数量等 ※ 指示による ()	[3.2.6]
	4 アスファルト防水	表3.1.1 [3.3.3] [表3.3.3~表3.3.10] 表3.3.1 [3.3.3] [表3.3.3~表3.3.10] 表3.3.2 [3.3.2] 表3.3.3 [3.3.2~3] [3.3.5] [表3.3.3~表3.3.10] 表3.3.4 [3.3.2~3] [3.3.5] [表3.3.3~表3.3.10]	[表3.1.1] [3.3.3] [表3.3.3~表3.3.10]
	5 改質アスファルトシート防水	表3.1.1 [3.4.2~3] [表3.4.1~3]	[表3.1.1] [3.4.2~3] [表3.4.1~3]
	6 合成高分子系ルーフィングシート防水	表3.1.1 [3.5.2~3] [表3.5.1~2]	[表3.1.1] [3.5.2~3] [表3.5.1~2]
	7 塗膜防水	表3.1.1 [3.6.3] [表3.6.1~2]	[表3.1.1] [3.6.3] [表3.6.1~2]
	8 脱気装置	※ 主材料製造所の指定する製品 ()	[3.3.3] [3.4.3] [3.5.3]
	9 ルーフドレン	材質 ※ 改修仕様3.8.2による ※ 指示による ()	[3.8.2] [表3.8.2]
	10 改修用ドレン	・ 設ける (POAS, POASI, POD, PODI, POS, POSI, POX工法の場合) 主材料製造所の指定する製品	[3.2.6]
	11 シーリング	シーリング改修工法の種類 ・ シーリング充填工法 [3.7.4] ・ シーリング再充填工法 [3.7.6] ・ 拡張シーリング再充填工法 [3.7.6] ・ プリッジ工法 [3.7.7] ・ ボンドグレーカー張り [3.7.7] ・ エッジング材料張り 接着性試験 ・ 簡易接着性試験 [3.7.8] ・ 引張接着性試験 (部位) ・ 2面接着とする範囲 ※ 「金属と金属」及び「金属とガラス」 ()	[3.1.4] [表3.1.2] [3.7.4] [3.7.6] [3.7.6] [3.7.7] [3.7.8]
	12 とい	表3.8.2 [表3.8.1] 表3.8.2 [表3.8.1] 表3.8.2 [表3.8.1] 表3.8.2 [表3.8.1]	[3.8.2] [表3.8.1]
	13 アルミニウム製笠木	部材の種類 ・ 押出し250形 ・ 押出し300形 ・ 押出し350形 ・ 板折り曲げ形 (本体幅(mm) (), 板厚(mm) ※ 2 ()) 表面処理 ・ A-1 ・ A-2 ・ B-1 ・ B-2 ・ C-1 ・ C-2 ・ D 笠木の下部補修 ・ 行う ・ 行わない 行う場合の工法 ※ 指示による ()	[3.9.2] [表3.9.1] [3.9.2] [表3.9.1] [3.9.2] [表3.9.1] [3.9.2] [表3.9.1]
	14 保証書の提出	防水工事は責任施工とし、保証書を防水工事施工者及び請負者の連名にて提出すること アスファルト防水 改質アスファルトシート防水 合成高分子系ルーフィングシート防水 塗膜防水 …………… 10年間保証	[3.8.2] [表3.8.1]
	15 事後調査	竣工後2年目に施工箇所の事後調査を指示にしたがって実施する	[3.8.2] [表3.8.1]

4	1 ひび割れ部改修工法	○ コンクリート打放し仕上げ ○ モルタル塗り仕上げ ○ タイル張り仕上げ	[4.1.4] [4.2.2] [4.3.4]
	2 欠損部改修工法	○ コンクリート打放し仕上げ ○ モルタル塗り仕上げ ○ タイル張り仕上げ	[4.1.4] [4.2.2] [4.3.7]
	3 浮き部改修工法	○ コンクリート打放し仕上げ ○ モルタル塗り仕上げ ○ タイル張り仕上げ	[4.1.4] [4.2.2] [4.3.7]
	4 モルタル塗替え	モルタル ※ 改修仕様4.2.2(a)による () 脱気装置 (性能は塗膜材料等品質性能表による) 既製目地材 ・ 使用しない ・ 使用しない	[4.2.2] [4.4.9]
	5 タイル張り	表3.1.1 [3.6.3] [表3.6.1~2]	[3.1.1] [3.6.3] [表3.6.1~2]
	6 下地処理	表3.1.1 [3.6.3] [表3.6.1~2]	[3.1.1] [3.6.3] [表3.6.1~2]
	7 仕上塗材仕上げ	表3.1.1 [3.6.3] [表3.6.1~2]	[3.1.1] [3.6.3] [表3.6.1~2]
	8 ステンレス建具	表3.1.1 [3.6.3] [表3.6.1~2]	[3.1.1] [3.6.3] [表3.6.1~2]
	9 木製建具	表3.1.1 [3.6.3] [表3.6.1~2]	[3.1.1] [3.6.3] [表3.6.1~2]
	10 遮断材	表3.1.1 [3.6.3] [表3.6.1~2]	[3.1.1] [3.6.3] [表3.6.1~2]
	11 シーリング	表3.1.1 [3.6.3] [表3.6.1~2]	[3.1.1] [3.6.3] [表3.6.1~2]
	12 とい	表3.1.1 [3.6.3] [表3.6.1~2]	[3.1.1] [3.6.3] [表3.6.1~2]
	13 アルミニウム製笠木	表3.1.1 [3.6.3] [表3.6.1~2]	[3.1.1] [3.6.3] [表3.6.1~2]
	14 保証書の提出	表3.1.1 [3.6.3] [表3.6.1~2]	[3.1.1] [3.6.3] [表3.6.1~2]
	15 事後調査	表3.1.1 [3.6.3] [表3.6.1~2]	[3.1.1] [3.6.3] [表3.6.1~2]

5	1 改修工法	・ かみせ工法 ・ 撤去工法 ・ 指示による	[5.1.3]
	2 防火戸	・ 適用する (指示による) ・ 適用しない	[5.1.4]
	3 アルミニウム製建具	表3.1.1 [3.6.3] [表3.6.1~2]	[3.1.1] [3.6.3] [表3.6.1~2]
	4 樹脂製建具	表3.1.1 [3.6.3] [表3.6.1~2]	[3.1.1] [3.6.3] [表3.6.1~2]
	5 網戸等	表3.1.1 [3.6.3] [表3.6.1~2]	[3.1.1] [3.6.3] [表3.6.1~2]
	6 鋼製建具	表3.1.1 [3.6.3] [表3.6.1~2]	[3.1.1] [3.6.3] [表3.6.1~2]
	7 鋼製笠建具	表3.1.1 [3.6.3] [表3.6.1~2]	[3.1.1] [3.6.3] [表3.6.1~2]
	8 ステンレス建具	表3.1.1 [3.6.3] [表3.6.1~2]	[3.1.1] [3.6.3] [表3.6.1~2]
	9 木製建具	表3.1.1 [3.6.3] [表3.6.1~2]	[3.1.1] [3.6.3] [表3.6.1~2]
	10 遮断材	表3.1.1 [3.6.3] [表3.6.1~2]	[3.1.1] [3.6.3] [表3.6.1~2]
	11 シーリング	表3.1.1 [3.6.3] [表3.6.1~2]	[3.1.1] [3.6.3] [表3.6.1~2]
	12 とい	表3.1.1 [3.6.3] [表3.6.1~2]	[3.1.1] [3.6.3] [表3.6.1~2]
	13 アルミニウム製笠木	表3.1.1 [3.6.3] [表3.6.1~2]	[3.1.1] [3.6.3] [表3.6.1~2]
	14 保証書の提出	表3.1.1 [3.6.3] [表3.6.1~2]	[3.1.1] [3.6.3] [表3.6.1~2]
	15 事後調査	表3.1.1 [3.6.3] [表3.6.1~2]	[3.1.1] [3.6.3] [表3.6.1~2]

6	1 降雨等に対する養生方法(とい共)	※ 改修仕様3.1.3(a)(1)~(3)による ()	[3.1.3]
	2 既存防水の処理	既存保護層の撤去 ・ 行う (範囲・指示による) ・ 行わない 既存防水層の撤去 ・ 行う (範囲・指示による) ・ 行わない 露出防水層表面の仕上げ塗膜除去 ・ 行う (M4AS・M4ASI・M4C・M4DI・L4X) ・ 行わない	[3.2.3~4] [3.2.6]
	3 既存防水層の下部補修	補修箇所形状、長さ、数量等 ※ 指示による ()	[3.2.6]
	4 アスファルト防水	表3.1.1 [3.3.3] [表3.3.3~表3.3.10] 表3.3.1 [3.3.3] [表3.3.3~表3.3.10] 表3.3.2 [3.3.2] 表3.3.3 [3.3.2~3] [3.3.5] [表3.3.3~表3.3.10] 表3.3.4 [3.3.2~3] [3.3.5] [表3.3.3~表3.3.10]	[表3.1.1] [3.3.3] [表3.3.3~表3.3.10]
	5 改質アスファルトシート防水	表3.1.1 [3.4.2~3] [表3.4.1~3]	[表3.1.1] [3.4.2~3] [表3.4.1~3]
	6 合成高分子系ルーフィングシート防水	表3.1.1 [3.5.2~3] [表3.5.1~2]	[表3.1.1] [3.5.2~3] [表3.5.1~2]
	7 塗膜防水	表3.1.1 [3.6.3] [表3.6.1~2]	[表3.1.1] [3.6.3] [表3.6.1~2]
	8 脱気装置	※ 主材料製造所の指定する製品 ()	[3.3.3] [3.4.3] [3.5.3]
	9 ルーフドレン	材質 ※ 改修仕様3.8.2による ※ 指示による ()	[3.8.2] [表3.8.2]
	10 改修用ドレン	・ 設ける (POAS, POASI, POD, PODI, POS, POSI, POX工法の場合) 主材料製造所の指定する製品	[3.2.6]
	11 シーリング	シーリング改修工法の種類 ・ シーリング充填工法 [3.7.4] ・ シーリング再充填工法 [3.7.6] ・ 拡張シーリング再充填工法 [3.7.6] ・ プリッジ工法 [3.7.7] ・ ボンドグレーカー張り [3.7.7] ・ エッジング材料張り 接着性試験 ・ 簡易接着性試験 [3.7.8] ・ 引張接着性試験 (部位) ・ 2面接着とする範囲 ※ 「金属と金属」及び「金属とガラス」 ()	[3.1.4] [表3.1.2] [3.7.4] [3.7.6] [3.7.6] [3.7.7] [3.7.8]
	12 とい	表3.8.2 [表3.8.1] 表3.8.2 [表3.8.1] 表3.8.2 [表3.8.1] 表3.8.2 [表3.8.1]	[3.8.2] [表3.8.1]
	13 アルミニウム製笠木	部材の種類 ・ 押出し250形 ・ 押出し300形 ・ 押出し350形 ・ 板折り曲げ形 (本体幅(mm) (), 板厚(mm) ※ 2 ()) 表面処理 ・ A-1 ・ A-2 ・ B-1 ・ B-2 ・ C-1 ・ C-2 ・ D 笠木の下部補修 ・ 行う ・ 行わない 行う場合の工法 ※ 指示による ()	[3.9.2] [表3.9.1] [3.9.2] [表3.9.1] [3.9.2] [表3.9.1] [3.9.2] [表3.9.1]
	14 保証書の提出	防水工事は責任施工とし、保証書を防水工事施工者及び請負者の連名にて提出すること アスファルト防水 改質アスファルトシート防水 合成高分子系ルーフィングシート防水 塗膜防水 …………… 10年間保証	[3.8.2] [表3.8.1]
	15 事後調査	竣工後2年目に施工箇所の事後調査を指示にしたがって実施する	[3.8.2] [表3.8.1]

熊本県建築改修工事特記仕様書	建築士事務所名	一級 建築士事務所 熊本県 知事登録 555 号 株式会社 太宏設計事務所	工事名称	熊本地震による熊本県立大学災害復旧工事(第II期)
	設計者氏名	一級 建築士 大臣 登録第 133907 号 管理建築士 福島正継 印		図面名称

6 内装改修工事	33 カーテン	・再使用する ・新設する	[2. 3. 1] [5. 1. 6] (20. 2. 14) (表20. 2. 1)	形式	開閉操作	ひだの種類	きれ端の種類 品質、特殊加工	
	34 カーテンレール	・再使用する ・新設する	[5. 1. 6] (20. 2. 14)	材質 ※ アルミニウム製及びアルミニウム合金の押出し成形品 (アルマイト仕上げ) ・ステンレス製	形状 ・角形	・ ()		
	35 カーテンボックス	・再使用する ・新設する	[5. 1. 6]	材質 ・アルミニウム製既製品 (・シルバー・着色) ・鋼製 ・木製				
	36 コーナービート (壁ボード出隅 保護金物)	材質	※ アルミニウム押出成形材 ※ シルバー ・ () ・ () ・ コーナー保護金物付ジョイントテープ					
	37 天井見切縁	材質	・アルミニウム押出材 ※ 塩化ビニル製 ※ 塩化ビニル製 ・ ()					
	38 点検口	形式	材質	寸法	形式	備考		
	天井	・アルミニウム製 ・ 600角	・ 450角 ・ 600角	・ 一般形	・ 蝶付き			
	床	・アルミニウム製目地 ・ステンレス製目地	・ 450角 ・ 600角					
性能は建築材料等品質性能表による								

7 塗装改修工事	1 材料	ホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ () [7. 1. 3]	防火材料 ※ 室内の壁、天井の塗装仕上げ材は防火材料とし、建築基準法に基づく基材同等の認定表示のあるものとする ・ 次の箇所を除き防火材料とする (箇所:)
	2 下地調整	既存塗膜の除去範囲 (塗替えてR2種の場合) ※ 塗替え面積30%とする () ※ 図示による	下地調整 [7. 2. 2~7] [表7. 2. 1~7] ひび割れ部の補修
	3 錆止め塗料塗り		
	4 塗装		

塗装面		塗料の種類		工種の種類	
鉄鋼面	EP-G 以外	塗替え	A種	・ A種	・ B種
		新規鉄鋼面見え隠れ	A種	※ A種	※ B種
	EP-G	塗替え	B種	・ A種	・ B種
		新規鉄鋼面見え隠れ	B種	※ A種	※ B種
EP-G 以外	塗替え	※ A種	※ B種	※ C種	
	鋼製金具等	※ A種	※ B種	※ C種	
EP-G	塗替え	C種	・ A種	・ B種	・ C種
	鋼製金具等	C種	※ A種	※ B種	※ C種

塗装の種類		工種の種類	
合成樹脂 調合ペイント 塗料 (SOP)	木部(屋外)	・ A種	・ B種
	木部(屋内)	・ A種	・ B種
	鉄鋼面	・ A種	・ B種
	瓦葺めっき鋼面	・ A種	・ B種
	瓦葺めっき鋼面 (鋼製金具以外)	・ A種	・ B種
	・ クリヤックー塗り(CL)	・ A種	・ B種
	・ フタル酸樹脂エナメル塗り(FE)	・ A種	・ B種
	・ アクリル樹脂系非水分散型 塗料塗り(NAD)	・ A種	・ B種
	鉄鋼面	・ A種	・ B種
	瓦葺めっき鋼面	・ A種	・ B種
耐水性 塗料塗り (DP)	コンクリート面	・ A-1種	・ A-2種
	押出成形セメント板面	・ B-2種	・ C-1種
	木部(屋内)	・ A種	・ B種
	鉄鋼面(屋内)	・ A種	・ B種
つや有 合成樹脂 エマルジョン ペイント 塗り (EP-G)	瓦葺めっき鋼面(屋内)	・ A種	・ B種
	モルタル面	・ A種	・ B種
	プラスチック面	・ A種	・ B種
	コンクリート面	・ A種	・ B種
合成樹脂 エマルジョン ペイント 塗り (EP)	せつこうボード面	・ A種	・ B種
	その他ボード面等	・ A種	・ B種
	合成樹脂エマルジョン ペイント塗り(EP)	・ A種	・ B種
	合成樹脂エマルジョン ペイント塗り(EP-T)	・ A種	・ B種
合成樹脂 エマルジョン ペイント 塗り (UC)	・ ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)	・ A種	・ B種
	・ ラッカーエナメル塗り(LE)	・ A種	・ B種
	・ オイルステイン塗り(OS)	・ A種	・ B種
	・ 木材保護塗料塗り(WP)	・ A種	・ B種

8 の 1 耐震改修工事 共通事項	1 (一般事項) 適用範囲	工事内容 [8. 1. 1] ・ 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事 ・ 鉄骨プレースの設置工事 ・ 柱補強工事 (溶接金網巻き工法又は溶接閉鎖フープ巻き工法) ・ 柱補強工事 (鋼板巻き工法又は帯板巻き付け工法) ・ 柱補強工事 (連続縦筋補強工法) ・ 耐震スリット新設工事 ・ 免震改修・耐震改修工事
	2 (施工調査) 施工計画調査	工事種別 [8. 1. 1][8. 1. 2] ・ 施工調査 (施工計画調査、施工数量調査、調査のための破壊部分の補修) ・ 撤去工事 (設備機器配管及び仕上げの取り壊し、撤去 (下地の一部又は全てを含む)、構造体のはつり) ・ 鉄骨工事 ・ あと施工アンカー工事 ・ コンクリート工事 ・ 鉄骨工事 ・ グラウト工事 ・ 連続縦筋補強工事 ・ スリット新設工事 ・ 免震改修・耐震改修工事
	3 施工数量調査	施工計画調査 [1. 2. 2][1. 2. 4][1. 3. 1][1. 5. 1] 項目 内容 記載事項等 施工数量調査 [1. 2. 2][1. 2. 4][1. 3. 1][1. 5. 2] 項目 内容 記載事項等

8 の 2 耐震改修工事 撤去工事	1 (既存部分の撤去等) 既存仕上げ等の撤去	既存仕上げ等の撤去 [8. 19. 2][8. 20. 2][8. 21. 2][8. 22. 2] 撤去の範囲 ・ 図示による ・ 新設のコンクリート、モルタル、グラウト材、鉄骨、連続縦筋に接する部分 ・ 既存コンクリート撤去範囲に面する部分
	2 既存構造体の撤去	既存構造体の撤去 [8. 19. 2][8. 20. 2][8. 21. 2][8. 22. 2] 撤去の範囲 ※ 図示による () 撤去する既存コンクリート内にあった鉄筋及び鉄骨の処理 [8. 19. 2][8. 20. 2][8. 21. 2][8. 22. 2] 本工事の範囲として図示された設備機器及び配管、壁等の撤去及び処分 ・ 設備機器及び配管、壁等の撤去及び処分は本工事の範囲とし、 撤去範囲 ※ 図示による ()
	3 (既存部分の処理) 既存構造体コンクリートの表面目荒らし	既存構造体コンクリートの表面目荒らし [8. 19. 3][8. 20. 3][8. 21. 3] 目荒らし範囲 ※ 既存コンクリートとの打継ぎ面全面 ※ 既存コンクリートとモルタル又はグラウト材の充填部の接合面 ※ 図示による () 目荒らし強度 ※ 平均深さ5~10mmで最大深さ15mm程度の凹凸を100mm間隔程度で施す ※ 図示による ()

8 の 3 耐震改修工事 鉄筋工事	1 (鉄筋工事材料) 鉄筋	材質 [表8. 2. 1] による (5. 2. 1)(表5. 2. 1)[8. 2. 1][表8. 2. 1] 種別 径 (mm) ・ SD295A ・ SD345 ・ SD390
	2 溶接金網	網目の形状寸法及び鉄線の径 (5. 2. 2)[8. 2. 2] 網目の形状寸法 鉄線の径
	3 (鉄筋の加工及び組立て) 鉄筋の加工及び組立て一般事項	鉄筋の継手 (5. 3. 4)(表5. 3. 2)[8. 3. 4] 種別 接合方法 径 (mm) ・ 直継手 ※ ガス圧接 () ・ 重ね継手 ※ ガス圧接 () ・ その他 ※ 重ね継手 ※ ガス圧接 ()
	4 (各部の配筋) 柱の配筋	筋骨の組立ての形の種類 (別図2. 2)[8. 3. 4][図8. 3. 4] ・ H形 () ・ W-I形 W-II形 W-III形 ()
	5 梁の配筋	あばら筋の種類、径及び間隔 (別図3. 2) ※ 図示による ()

8 の 3 耐震改修工事 鉄筋工事	6 壁の配筋	壁の配筋の種類 (別図4. 1)[8. 3. 7] ※ 図示による () 壁配筋の定着長さ [8. 3. 7] 定着部 図示 ※ 定着部図示 ※ 図示 ・ 定着長さ (L2) ・ 定着部を指示した範囲以外全て
	7 壁の開口補強	一般壁の開口部補強 [8. 3. 7](別図4. 3) ※ 図示による () 耐震壁の開口部補強 ・ A形 ・ B形 ※ 図示による ()
	8 スラブの配筋	スラブの配筋種類及び厚さ (表5. 1)(別図5. 1) ※ 図示による ()
	9 (ガス圧接) ガス圧接	圧接完了後の試験 (5. 4. 9)[8. 3. 8] 超音波探傷試験 行う。 ・ 行わない。 割接補強筋の適用 [8. 19. 6] [8. 20. 7] 種類 材料 材種 径 本数、ピッチ 適用箇所 ※ スパイラル筋 ※ 鉄筋コンクリート ※ SR235 ※ 6φ ※ スパイラルの径 (mm) ※ 図示 用棒筋 ※ 鉄筋 ※ 9φ ※ スパイラルのピッチ (mm) < > ※ はしご筋 ※ 鉄筋コンクリート ※ SD295A ※ D10 壁内方向筋 < > 用棒筋 (異形鉄筋) ・ 壁面外方向筋 < >

8 の 4 耐震改修工事 コンクリート工事	1 (コンクリート工事一般事項) コンクリートの種類及び強度	普通コンクリートの設計基準強度 (6. 2. 2) [8. 1. 4] 設計基準強度 f_c (N/mm ²) 適用範囲 ・ 21 ・ () 軽量コンクリートの設計基準強度 (6. 2. 2) (6. 10. 1) (表6. 10. 1) [8. 1. 8] [8. 9. 1] [表6. 9. 1] 設計基準強度 f_c (N/mm ²) 種別 適用範囲 ・ 21 ・ 1種 ・ 2種
	2 レディミクストコンクリートの種別	※ I種 ・ II種 (表6. 2. 1) [表8. 1. 1]
	3 (普通コンクリート) 普通コンクリート	セメントの種類 ※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 () 上記普通ポルトランドセメントは、JIS R 5210 (ポルトランドセメント) に示された規定の他、右表の規定に適合しなげなければならない。全アルカリの算出は、JIS R 5210 ポルトランドセメント(低アルカリ形)による。 水和熱 (1/g) 7B - 28日 - 全アルカリ (%) 0. 75以下 塩素 (%) 0. 035以下
	4 (場所打ちコンクリート壁の増設工事、溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法) コンクリートの打込み工法等	部位毎のコンクリートの打設工法の指定 [8. 19. 8] [8. 21. 5] 補強工法 打設工法 部位 場所打ちコンクリート壁の増設工事 ・ 流込み工法 [8. 19. 8 (a)(1)(b)] ・ 全ての増設壁 ・ 図示 ・ 圧入工法 ・ 全ての増設壁 ・ 図示 ・ 工法指定なし ・ 全ての増設壁 ・ 図示 ・ () 鉄筋コンクリート ・ 流込み工法 [8. 19. 8 (a)(1)(b)] ・ 全ての増設壁 ・ 図示 ・ 圧入工法 ・ 全ての増設壁 ・ 図示 ・ 工法指定なし ・ 全ての増設壁 ・ 図示 ・ () 柱の溶接金網巻き及び溶接閉鎖フープ巻き工法 ・ () ・ ()

8 の 5 耐震改修工事 あと施工アンカー工事	1 (あと施工アンカー) あと施工アンカーの材料	種類 [8. 2. 4] ・ 金属系 ・ 非金属系 ・ 接着系 ・ あと施工アンカーの性能確認試験 ・ 実施する。 ※ 実施しない。 試験方法 ・ (社) 日本建築あと施工アンカー協会とあと施工アンカー標準試験法による () 試験対象のあと施工アンカー ・ 図示による () 試験数 ()
	2 金属系	セットの方式 ※ 本体打込み式 (・ 改良型 ・ 従来型) 埋込み深さ ※ 図示 () 引張耐力 ※ 図示 () せん断耐力 ※ 図示 ()
	3 非金属系	埋込み深さ ※ 図示 () 引張耐力 ※ 図示 () せん断耐力 ※ 図示 ()
	4 接着系	カプセル径 ※ 有線系 ・ 無線系 () 埋込み深さ ※ 図示 () 引張耐力 ※ 図示 () せん断耐力 ※ 図示 ()
	5 あと施工アンカーの性能確認試験	あと施工アンカーの性能確認試験 ・ 実施する。 ※ 実施しない。 試験方法 ・ (社) 日本建築あと施工アンカー協会とあと施工アンカー標準試験法による () 試験対象のあと施工アンカー ・ 図示による () 試験数 ()

8 5 耐震改修工事 あと施工アンカー工事	2 あと施工アンカーの施工	あと施工アンカーの施工確認試験 ・ 実施する。 ・ 実施しない。 [8.11.5] 確認試験方法及び試験数 ※ [8.11.5] による。 ・ () 確認強度 ※ アンカーの鋼材による引張荷重、またはコンクリート破綻による引張荷重 (埋め込み及びへりあきの影響を受ける場合は低減した荷重) の小さい値の2/3とする。 (検査済の場合は、付着破壊の荷重も考慮する) ・ () 穿孔前の埋込み配管等の調査 ※ あと施工アンカー施工部分全て ・ () [8.11.2] 範囲 ※ 表示による ・ () 方法 ※ 鉄筋探知機(金属探知機)により検査し、鉄筋、配管等の位置に墨を出しを行う。 ・ はつり出しによる。 ・ () 場所打ちコンクリート壁の打増部に用いる既存部とのシアコネクタ [8.2.4] [8.3.4] 種類 ※ 金属系あと施工アンカーの異形建築アンカー ・ 接着系あと施工アンカーの異形建築アンカー ・ 径(mm) ※ D10 長さ(mm) ※ 増打厚40 ・ () 形込み長さ(mm) ※ Sd (d: シアコネクタの径) 以上 () 間隔(mm) ※ 500×500 シアコネクタとセパレーターの兼用 ※ 兼用してもよい。 ・ 兼用しない。 ・ () [8.7.8]
	3 シアコネクタ	

8 6 耐震改修工事 鉄骨工事	1 (鉄骨工事一般事項) 鉄骨製作工場	(7.1.3)[8.1.5] ・ 監督員の承認する工場 ・ 建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター又は(株)全国鉄骨評価機構の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める、下記のグレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 ・ H ・ M ・ R ・ J グレード ・ 下記の条件を満たしている工場 イ) WES8103 1級 () 名以上 2級 () 名以上 ロ) NDIUT Ⅱ種 () 名以上 Ⅲ種 () 名以上 ハ) 超厚板製鋼機 () 台以上 ニ) 鉄骨製作管理技術者 1級 () 名以上 2級 () 名以上 ホ) 半自動溶接技術者 下向及び横向で板厚 ()mmの資格を有するもの () 名以上 ヘ) 手溶接技術者 下向及び横向で板厚 ()mmの資格を有するもの () 名以上
	2 施工管理技術者 (鉄骨材料)	鉄骨製作管理技術者の運用 (7.1.4)[8.1.5] 適用 ・ しない。 ・ する。
	3 鋼材	材質 [表8.2.7] による (7.2.1)[表7.2.1] [8.2.7] [表8.2.7]
	4 高力ボルト	高力ボルトの運用 (7.2.2)[8.2.9] ※ トルシヤ形高力ボルト (認定セットの種類 ※2種 (S10T) ・ ()) ・ 溶接止めつき高力ボルト (認定セットの種類 ※1種 (P&T相当) ・ ())
	5 仮組	仮組の実施 (7.3.10)[8.12.9] ・ 実施する () ・ 実施しない。
	6 技能資格者	溶接作業における技能資格者の技量付加試験 (7.6.3)[8.14.3] ・ 実施する () ・ 実施しない。
	7 溶接条件	入熱、パス間温度の溶接条件 (7.6.10)[8.14.10] 適用箇所 ・ 図示による ・ 柱、梁、プレース接合部の完全溶け込み溶接部
	8 溶接部の試験	完全溶け込み溶接部の超音波探傷試験 (7.6.11)(7.6.12) [8.14.11][8.14.12] 工事現場での場合 ※ 全数試験とする ・ (7.6.11 (B)) による。 平均出荷品質限界 (AOQL) ※4.0% ・2.5% 検査水準 ※第6水準 ・ () ロットの構成 () 工事現場溶接の場合 ※ 全数試験とする ・ (7.6.11 (B)) による。 平均出荷品質限界 (AOQL) ※4.0% ・2.5% 検査水準 ※第6水準 ・ () ロットの構成 ()
	9 (耐火被覆) 耐火被覆材の種類及び性能	耐火被覆材の種類 (7.9.2)(7.9.3)[8.17.2][8.17.3] 耐火被覆材の種類 耐火被覆材の種類 (7.9.7)[8.17.7] ・ 使用箇所 ・ 図示 ・ フラス張りモルタル塗り (7.9.7)[8.17.7] ・ 図示 ・ 耐火材貼付け (7.9.4)[8.17.4] ・ 図示 ・ 吹付けロックワール ・ 乾式 ・ 半乾式 ・ 湿式ロックワール ・ ・ 耐火板張り (7.9.5)[8.17.5] ・ 図示
	所要性能 所要性能 構造区分 適用範囲 ・30分耐火 ・ 図示 ・1時間耐火 ・ 図示 ・ 図示 ・ 図示	

8 7 耐震改修工事 グラウト工事	1 (グラウト工事) モルタル及びグラウト材	構造用モルタル ※ [8.2.6] 及び [8.2.11] による。 ・ () 無収縮モルタル材 ※ [7.2.9] 及び [8.2.11] による。 ・ () グラウト材 ※ [8.2.11(C)] による (性能は、建築材料等品質性能表による)
	2 (現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事及び鉄骨プレースの設置工事等) 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法	[8.19.9] 増設の現場打ち鉄筋コンクリート壁と既存構造体との取合部の処理方法 部 位 処理方法 備考 ・増設壁の上部 ※グラウト材を注入 ※寸法は図示による ・

8 8 耐震改修工事 連続繊維補強工事	1 連続繊維補強シート等による工事	連続繊維による補強、補修工法 ※ (財)建築防災協会の評価を受けた工法とする。 ・ () [8.21.7]
	2	炭素繊維 ・ アラミド繊維 ・ ガラス繊維 ・ () [8.2.12] ※ 一方方向繊維又は一方シート ・ 二方向繊維 ・ () 炭素繊維の材質 引張強度 (含浸硬化後) ・ 3,400MPa以上 ・ 2,900MPa以上 ・ () ヤング係数 (含浸硬化後) ・ 230GPa程度 ・ () 炭素繊維シートの巻き数 ※ 図示 ・ 1巻き ・ 2巻き ・ ()
	3 連続繊維補強シートの施工準備	仕上げモルタルの除去 ※ 既存構造体面まで除去する。 ・ モルタル除去は行わない。 ・ () 既存モルタルの圧縮強度測定 ・ 行う () ・ 行わない。 柱の隅部部の面取り ※ 工法の評価内容により、半径は20mm又は30mmとする。 ・ () [8.21.7]
	4 炭素繊維シートの施工	炭素繊維の目付量 ※ 図示 ・ 200g/m ² ・ 300g/m ² ・ () 炭素繊維シートの巻き数 ※ 図示 ・ 1巻き ・ 2巻き ・ ()
	5 連続繊維補強材の強度試験	引張強度試験 ・ 実施する (JIS K 7073 に準拠する) ※ 実施しない。試験数 () 付着強度試験 ・ 実施する (JIS A 6909 に準拠する) ※ 実施しない。試験数 ()

8 9 耐震改修工事 スリット新設工事	1 (耐震スリット新設) スリットの種類	耐震スリットの種類及び形状 [8.22.1][8.22.2] 完全スリットの種類 一般型 一面せん断型 記号 ※ 図示 ※ 図示 形状 ※ 図示 ※ 図示 幅W(mm) ※ 図示 ※ 図示 既存鉄筋 ・ 既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい の処理 ・ 切断してよい 部分スリットの種類 片側スリット 両面スリット 記号 ※ 図示 ※ 図示 形状 ※ 図示 ※ 図示 幅W(mm) ※ 図示 ※ 図示 目地部の残存厚さ ts (mm) ・ 壁厚の1/2以下かつ70mm以下 ・ 壁厚の1/2以下かつ70mm以下 既存鉄筋 ・ 存置する ・ 存置する の処理 ・ 既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・ 切断してよい
	2 スリットの施工	スリット部の配管等の調査 [8.22.2] 範囲 ※ スリット新設部に伴う鉄筋コンクリートの壁の範囲全て。 方法 ※ 鉄筋探知機 (金属探知機) により探査し、鉄筋、配管等の位置に墨出しを行う。 ・ はつり出しによる。 ・ () スリットの逃げ位置 壁上部 ・ 梁との接合部 ・ () 壁の柱きわ部 ・ 柱の仕上げを逃がしたきわ部 ・ () 壁下部部 ・ 床仕上げ上部 ・ 床体上部 ・ ()

8 10 その他工事		※ 免震改修、制震改修に関する仕様は、図示する。
------------------	--	--------------------------

9 環境配慮 (グリーン) 改修工事	1 アスベストの処理	[9.1.1] とりこ工事等に先立ち、飛散性アスベストの除去工事を行う。 処理方法 施工箇所 ※ 除去処理 ・ 封じ込め処理 ・ 封じ込め処理 飛散物などの保全技術 ・ 技術審査証明事業により証明された業者及び工法とする。 分析によるアスベスト含有調査 ・ 行う ・ 行わない アスベスト粉じん濃度測定 ・ 行う ・ 行わない 測定時期 測定名称 測定場所 測定点 備考 処理作業前 測定1 処理作業室内 ※各室共 60㎡以下 2点 60㎡～300㎡ 以下 3点 測定2 調査対象室外部の付近 2点 大気 処理作業中 測定3 処理作業室内 ※に同じ 測定4 負圧、除じん装置の排気口 2点 大気 (風速1m/s 以下の位置) 測定5 処理作業室外シート養生付近 2点 処理作業後 (シート養生中) 測定6 処理作業室内 2点 シート除去後処理 測定7 処理作業室内 ※に同じ 作業後1週間以内 測定8 調査対象室外部の付近 2点 大気 測定点合計 () 点
	2 アスベスト含有成形板の処理等	[9.1.3(b)(2)] ※ プラスチック2重袋による密封処理 ・ () アスベスト含有建材の取り扱いについては、石綿障害予防規則 (平成17年2月24日厚生労働省令21号) を遵守すること。 アスベスト成形板の種類等 [9.1.5] 種類 厚さ(mm) 備考 ・化粧せつこうボード ・9.5 ・ ・ビニル床タイル ・2.0 ・ ・化粧タイル板 ・6.0 ・ 外断熱及び断熱材打込み工法 [9.3.2] [9.5.2] 種類 種別 厚さ(mm) 施工箇所 ・押出法ポリスチレンフォーム ・保熱板 (2種b) ・25 ・ ・保熱板 (3種b) ・25 ・ ・接合部分 ・硬質ウレタンフォーム ・ 既存外壁の処置 [9.3.3] 下地面の清掃 ・ 行う 下地面欠損部の改修工法 () 通気層 ・ 有 (厚さ) ・ 無 断熱材現場発泡工法 [9.5.3] 種別 厚さ(mm) 施工箇所 ・A種1 ・25 ※窓廻り等の断熱材補修部分、ルーフドレン廻りの床取手等、部分的に後張りとしなければならない箇所 ・A種2 ・ ・A種3 ・ ・B種1 ・ ・B種2 ・

9 環境配慮 (グリーン) 改修工事	3 断熱材	[9.3.2] [9.5.2] 外断熱及び断熱材打込み工法 種類 種別 厚さ(mm) 施工箇所 ・押出法ポリスチレンフォーム ・保熱板 (2種b) ・25 ・ ・保熱板 (3種b) ・25 ・ ・接合部分 ・硬質ウレタンフォーム ・ 既存外壁の処置 [9.3.3] 下地面の清掃 ・ 行う 下地面欠損部の改修工法 () 通気層 ・ 有 (厚さ) ・ 無 断熱材現場発泡工法 [9.5.3] 種別 厚さ(mm) 施工箇所 ・A種1 ・25 ※窓廻り等の断熱材補修部分、ルーフドレン廻りの床取手等、部分的に後張りとしなければならない箇所 ・A種2 ・ ・A種3 ・ ・B種1 ・ ・B種2 ・
	4 屋上緑化	屋上緑化懸垂システム ・ 行う ・ 行わない [9.6.2] 芝、地被類の種類 () 見切り材 () 排水管 () マルチング材 () 風圧力に対応した固定方法 () [9.6.3] かん水装置 ・ 設ける ・ 設けない 種類 ()

9 環境配慮 (グリーン) 改修工事	5 透水性アスファルト舗装	[9.7.8] 路床の構成及び仕上げ ・ 透層層 厚さ (mm) ※ # ・ () ・ 凍上抑制層 厚さ (mm) ※ # ・ () ・ フィルター層 厚さ (mm) 車道部 ※ # ・ () 歩道部 ※ # ・ () 路床安定処理 ※ 行う (補助材料) ・ (行わない) 塵土の種類 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 C種の場合 (塵埃発生量 () m ³) 発生場所 () 路床土の支持力比 (CBR) 試験 ・ 行う。 ・ 行わない。 路床の締固め度試験 ・ 行う。 ・ 行わない。 砂の粒状試験 ・ 行う 発生土の処理 ※ 構外指示の場所 搬入場所 () 搬出距離 () km ・ 構内指示の場所 (・ 敷きならし ・ たい積) 舗装材料及び仕上げ ・ 再生クランシヤラン ・ クランシヤラン軟質スラグ ・ () 路盤厚さ (mm) 車道部 ※ # ・ () 歩道部 ※ # ・ () 路盤の締固め度試験 ・ 行う。 ・ 行わない。 舗装材料及び仕上げ [9.7.5][9.7.6] 車道部 ※ ボリマー改質アスファルト I Ⅱ種 厚さ ※ # ・ () 歩道部 ※ ストレートアスファルト 厚さ (mm) ※ # ・ () 透水性アスファルト混合物の抽出試験 ・ 行う。 ・ 行わない。 [9.7.9]
	6 電気設備工事	工事区分 別表-1の記入上の注意 該当箇所は●(黒塗り)とし該当しない工事内容及び区分は斜線除去すること 別表-1 設備工事の工事区分表 工 事 内 容 建築工事 電気設備工事 機械設備工事 その他 電気関係 配電盤 ・ 制御盤の基礎 屋内 ○ 屋外 ○ 屋上 ○ 自家発電機基礎 (アンカーボルトを除く) ○ テレビアンテナ基礎 () ○ 避雷針の基礎 () ○ 屋内設備 (梁台、アンカーボルトを除く) ○ 屋上設備 () ○ 屋外設備 () ○ 梁台、アンカーボルト 特記した基礎 ○ 開口部 梁、床、壁 貫通スリーブ 補強を要しないもの ○ 梁、床、壁 補強を要するもの ○ 貫通部延伸 補強を要しないもの ○ 極差鉄骨下地、壁、補強を要するもの ○ 天井ボード製の切込 補強を要しないもの (70kV以下は除く) ○ 遠送形電線、補強を要するもの ○ 端子盤等の延伸 補強を要しないもの ○ 上記開口部の補強 ○ 上記開口部の突出し ○ スリーブの穴埋め (型枠の穴埋めを含む) ○ フリーアクセスフロア用配線器具 ○ 点検口 床、壁、天井 ○ 外部取付ガリ ダクト、チャンパーの接続用フランジを含む ○ 湯沸室のフード ○ 換気扇の取付枠 ○ 見切り材 () ○ 脱 脂 台 排水トラップ共 ○ 防 油 堤 オイルクーバスタングの防油堤 自家専用 ○ タテ割機 空調用 ○ 床下水槽のマンホールなど 雨水 ○ 屋外排水管 汚水、雑排水 ○ 雨水立管 (たてどい) ○ トイレ手すり ○ 化粧がすみ ○ はめ込形洗面器用カウンター (前板付) ○ ガスボンベ転倒防止用の横 自動ドア及び電動シャッターなどの制御部と 操作スイッチ間の配管配線及び操作スイッチ ○ 防火用レリーズ ○ 電線槽 ○ 配線及びびふた ○ 機器などへの接続 (1次側) ○ 機器付属の制御盤以降の2次側の配線配管 (接地共) ○ 機器付属の制御盤への電源供給配管配管 ○ 自動制御盤と動力盤との電源供給の取り配管配線 ○ 自動制御盤と動力盤との操作回路の取り配管配線 ○ 天井吊り形FCU、個別パッケージ、全熱交換ユニット等の機器 と付属操作スイッチとの取り配管 (接地共) ○ 天井吊り形FCU、個別パッケージ、全熱交換ユニット等の機器 と付属操作スイッチとの取り配管 ○ 天井吊り形FCU、個別パッケージ、全熱交換ユニット等の機器 と付属操作スイッチの埋込ボックス ○ 個別パッケージの室内機、室外機の取り配管 (接地共) ○ 煙感知器から運動制御盤を経て防煙ダンパに至る配管配線 ○ 小便器用節水装置の制御盤以降の2次側の配管配線 ○ ガス漏れ検知器 ○ 電気錠及び通電金具 ○ (O) 電気錠 ○ (O) エレベーター出入口三方弁 (金属製) ○ (O) エレベーター出入口三方弁 (非金属) ○ (O) シャワーユニット、バスユニット、洗濯機パン ○ (O) ボード ・ Tバー ○ システム天井 照度ライン設置プレート ○ 空調ライン設置プレート ○

熊本市建築改修工事特記仕様書	建築士事務所名	一級 建築士事務所 熊本県 知事登録 555 号 株式会社 太宏設計事務所	工事名称	熊本地震による熊本県立大学災害復旧工事(第II期)
	設計者氏名	一級 建築士 大臣 登録第 133907 号 管理建築士 福島正継 印	図面名称	建築改修工事特記仕様書(その5) 図面番号 A-05

工事概要表

工事名称	熊本地震による熊本県立大学災害復旧工事（第Ⅱ期）	
工事場所	熊本県熊本市東区月出3丁目1番100号（キャンパス） 熊本県熊本市東区小峯3丁目2613-1（小峯クラブハウス、小峯グラウンド）	
延床面積 構造階数	講義棟1号館：1,851.90㎡	鉄筋コンクリート造 2階建
	小ホール・文学部棟：2,948.85㎡	鉄筋コンクリート造 4階建
	環境共生学部西棟：6,037.19㎡	鉄筋コンクリート造 4階建
	環境共生学部北棟・南棟：5,576.39㎡	鉄筋コンクリート造 5階建
	大ホール・講義棟2号館・総合管理学部棟：9,754.19㎡	鉄筋コンクリート造 5階建
	グローバルセンター：1,549.72㎡	鉄筋コンクリート造 2階建
	キャリアセンター：512.78㎡	鉄筋コンクリート造 平屋建
	アリーナ：2,486.76㎡	鉄筋コンクリート造 2階建
	小峯クラブハウス：外構	
	図書館：3,847.04㎡	鉄筋コンクリート造 4階建
工事概要	キャンパス内：外構	
	講義棟1号館（内部）：コンクリートクラック補修	
	講義棟1号館（外部）：渡り廊下欠損部補修、エキスパンションジョイント取替え	
	小ホール・文学部棟（内部）：コンクリートクラック補修、内装ポート補修	
	小ホール・文学部棟（外部）：渡り廊下欠損部補修、エキスパンションジョイント取替え、鉄骨渡り廊下躯体接続部補強	
	環境共生学部西棟（内部）：コンクリートクラック補修、壁欠損部補修、内装ポート補修	
	環境共生学部西棟（外部）：壁欠損部補修、エキスパンションジョイント取替え	
	環境共生学部北棟・南棟（内部）：コンクリートクラック補修、エキスパンションジョイント取替え	
	環境共生学部北棟・南棟（外部）：エキスパンションジョイント取替え	
	大ホール・講義棟2号館・総合管理学部棟（内部）：コンクリートクラック補修、内装ボード補修、壁欠損部補修、ピーコン補修、タイル補修、モルタル浮き補修	
	大ホール・講義棟2号館・総合管理学部棟（外部）：エキスパンションジョイント調整、タイル補修、ピーコン補修	
	グローバルセンター（内部）：コンクリートクラック補修、タイル補修	
	キャリアセンター（内部）：コンクリートクラック補修、壁欠損部補修	
	アリーナ（内部）：コンクリートクラック補修	
	プール：プールサイド日除け復旧、ネットフェンス倒れ直し	
	小峯クラブハウス：インターロッキング復旧、地盤陥没部復旧	
	小峯グラウンド：防球ネットワイヤー調整	
	図書館（内部）：コンクリートクラック補修、内装ボード補修、サッシ部漏水補修	
	外構：タイル補修	

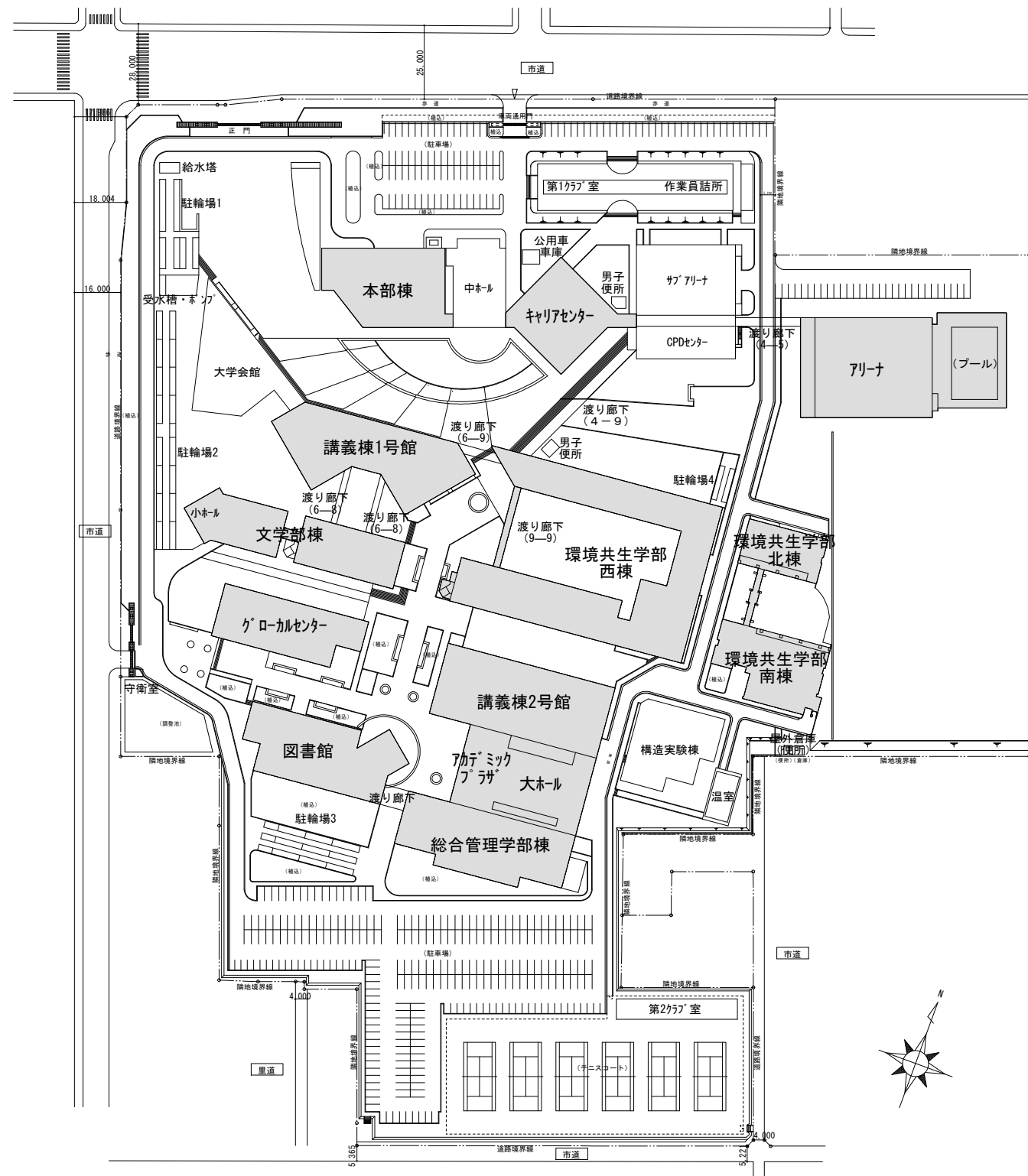
共通事項

1	工事着手に先立ち現地確認を実施し、学校関係者にヒアリングを行った上で総合施工計画書を作成すること。
2	総合施工計画書には工事使用範囲、及び作業動線、学校使用者の動線を記入した図面を添付すること。
3	工事関係者と学校使用者の動線が重複する箇所の安全配慮を十分に行うこと。
4	学校行事のヒアリングを行い、工事工程の管理を十分に行うこと。
5	各種工事着手に先立ち、施工計画書を作成し、監理者の承認を受けること。
6	本工事に使用する材料は、原則として全てF☆☆☆☆の規格に適合するものとする。
7	工事範囲以外の建物の部分、又は既存工作物等を破損した場合は現況復旧とする。
8	仕上げ材料の選定にあつては施工前に監理者及び発注者と十分協議の上決定すること。
9	工事中に汚染や損傷の恐れのある材料及び箇所は、適切な方法で養生すること。
10	工事着手前に施工数量調査を行い、施工図（立面図・展開図）を作成して参考数量との比較を行うこと。
11	足場、養生等の仮設物についても補助対象となる為、仮設計画図・実施数量の提出を行うこと。
12	工事写真は、図面に記載している改修番号毎に着手前、施工中、施工後の記録を残すこと。
13	工事写真には工事名、位置、年月日入りの小黒板、及び撮影対象には主要寸法が読みとれる目盛を入れること。
14	施工前に施工調査を行い、改修部分のマーキングを行い監督員の検査を受けること。
15	マーキング状況は、全数写真管理すること。
16	復旧にあたり、工法の変更を行う場合は事前に監督員の承認を受けること。
17	完成写真は監督員の指示により撮影し、工事写真帳に貼付け、ファイル綴じの上、監督員に2部提出すること。
18	完成写真は、改修部分が改修前と対比できる様に整理すること。
19	復旧にあたり、仕上げは既存仕上げ（若しくは同等品）に合わせる。



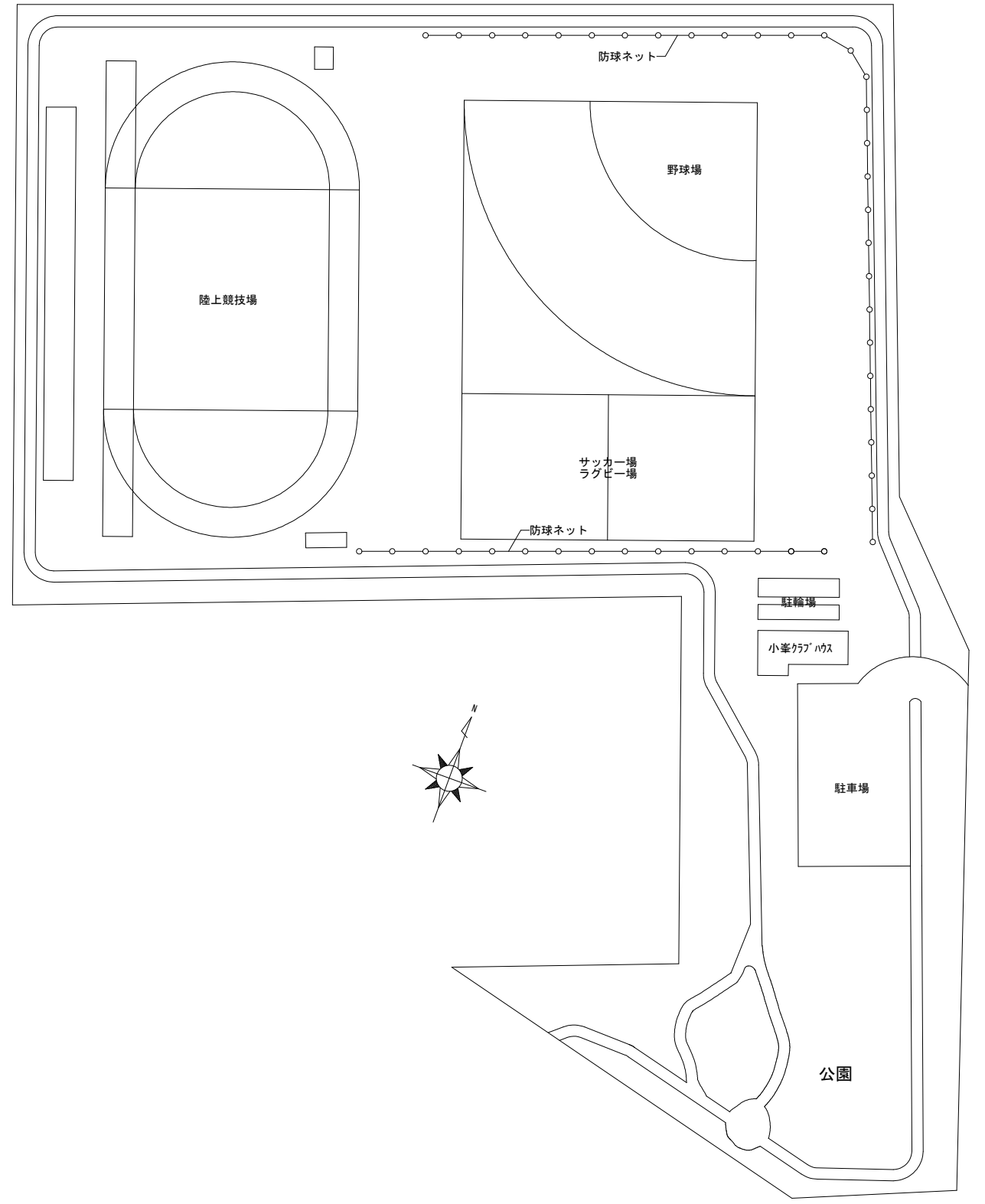
付近見取図

クラック補修	エポキシ樹脂注入工法(自動式低圧注入)	コンクリート欠損補修①	無収縮モルタル補修工法(浅い欠損)	コンクリート欠損補修②	無収縮モルタル補修工法(深い欠損)	モルタル欠損補修	ポリマーセメントモルタル充填工法				
<p>表面処理</p> <ul style="list-style-type: none"> ひび割れに沿って5cm程度の幅で、ディスクサンダーやワイヤブラシなどでレイタンスや塵埃を除去する。油脂分はシンナーを含んだウエスでふきとる。 <p>取付けパイプの接着</p> <ul style="list-style-type: none"> 取付けパイプをひび割れの中心位置にシール材で取付ける。座金部の4つの穴よりシール材が出てくるまで押しつける。 <p>シーリング・硬化養生</p> <ul style="list-style-type: none"> シール材でひび割れ部をシールする。その後、シール材の硬化養生を行う。 <p>注入用器具の取付け</p> <ul style="list-style-type: none"> 取付けパイプに注入用器具の接続パイプをはめ込む。 <p>注 入</p> <ul style="list-style-type: none"> 所定の配合比で混合攪拌した樹脂を注入用器具の注入口から圧入する。注入用器具のゴムチューブが、注入量制限筒の内面いっぱい膨らんだら注入を止め、次の注入口に移る。 <p>注入材の養生</p> <ul style="list-style-type: none"> 樹脂の硬化養生を行う。硬化は、ゴムチューブに触れるだけで確認できる。 <p>仕 上 げ</p> <ul style="list-style-type: none"> 取付けパイプを取り除いた後、シール部をディスクサンダーで平坦に仕上げます。必要のある場合は、塗装する。 	<p>欠損範囲の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> テストハンマー等で、打診し浮きの状況と範囲を調べてマーキングする。 <p>ハツリ・清掃</p> <ul style="list-style-type: none"> 電動カッターで欠損部周辺に溝を掘ってから電動ハツリ等で浮き等がある部分を撤去する。ハツリ取った部分をブロアー等で清掃を行う。 <p>下地調整材塗布</p> <ul style="list-style-type: none"> 下地調整材を塗布する。 <p>型枠建込み</p> <ul style="list-style-type: none"> 躯体表面に型枠を取り付ける。躯体と型枠のすき間にはすき間テープを貼り、漏れ止めを施す。型枠の合板には注入口と空気抜きを設ける。 <p>無収縮モルタル圧入</p> <ul style="list-style-type: none"> 無収縮モルタル材に水を入れ攪拌し、モルタルポンプ等にて圧入を行う。 <p>硬化養生</p> <ul style="list-style-type: none"> 圧入後、無収縮モルタルが硬化するまで型枠を存置しておく。硬化後脱枠を行う。 	<p>欠損範囲の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> テストハンマー等で、打診し浮きの状況と範囲を調べてマーキングする。 <p>ハツリ・清掃</p> <ul style="list-style-type: none"> 電動カッターで欠損部周辺に溝を掘ってから電動ハツリ等で浮き等がある部分を撤去する。ハツリ取った部分をブロアー等で清掃を行う。 <p>下地調整材塗布</p> <ul style="list-style-type: none"> 下地調整材を塗布する。 <p>型枠建込み</p> <ul style="list-style-type: none"> 躯体表面に型枠を取り付ける。躯体と型枠のすき間にはすき間テープを貼り、漏れ止めを施す。型枠の合板には注入口と空気抜きを設ける。 <p>無収縮モルタル圧入</p> <ul style="list-style-type: none"> 無収縮モルタル材に水を入れ攪拌し、モルタルポンプ等にて圧入を行う。 <p>硬化養生</p> <ul style="list-style-type: none"> 圧入後、無収縮モルタルが硬化するまで型枠を存置しておく。硬化後脱枠を行う。 	<p>施工範囲の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 監督員と協議の上施工範囲を確認する。 <p>脆弱部の除去</p> <ul style="list-style-type: none"> 欠損部周辺の脆弱部をハンマー等で軽い打撃を与えて除去する。 <p>下地処理等</p> <ul style="list-style-type: none"> 下地部分はワイヤブラシ等で汚れやほこりを除去し、清掃する。 <p>接着増強材塗布</p> <ul style="list-style-type: none"> 予め調合したポリマーセメントペースト同等品、製造所仕様で施工。 <p>樹脂モルタル充填</p> <ul style="list-style-type: none"> ポリマーセメントモルタル同等品を充填。材料の混練、塗り回数、養生日数は製造所特記とする。 <p>表面仕上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> 表面をコテで仕上げます。 <p>養 生</p> <ul style="list-style-type: none"> 各層とも急激な乾燥をさけ、適切に養生させます。 <p>清 掃</p> <ul style="list-style-type: none"> 仕上げ状態、段差の有無及び片付けを確認する。 								
<p>模式図(参考図)</p>	<p>模式図</p>	<p>模式図</p>	<p>模式図</p>								
<p>特記</p> <ul style="list-style-type: none"> エポキシ樹脂注入剤は、クラック幅に合わせて仕様を変更すること。 <table border="1"> <tr> <th>使用材料</th> <th>クラック幅 (mm)</th> </tr> <tr> <td>低粘度</td> <td>0.1~0.5</td> </tr> <tr> <td>中粘度</td> <td>0.3~1.5</td> </tr> <tr> <td>高粘度</td> <td>0.5~2.0</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 施工完了後、コア抜きによる注入状況の検査を行う。(改修仕様4.3.4による。) 	使用材料	クラック幅 (mm)	低粘度	0.1~0.5	中粘度	0.3~1.5	高粘度	0.5~2.0	<p>特記</p> <ul style="list-style-type: none"> 1回に練る量は20分以内に使い切る量にする。 モルタルの温度は10℃~35℃の間になるように、混練水の温度を調節して練ること。 規定の数量を超過すると、モルタルが分離したり、規定の強度が得られなくなるため注意すること。 無収縮モルタルを練る時は、袋の全量を使い切るようにすること。 破袋または一度開封して放置された製品は使わないこと。 必要に応じて、モルタルが適当にしまった時点でコテ仕上げを行うこと。 養生は、急激な乾燥が起きないように濡れた布等で覆うなどして直射日光や風が直接当たらないように注意すること。 	<p>特記</p> <ul style="list-style-type: none"> 1回に練る量は20分以内に使い切る量にする。 モルタルの温度は10℃~35℃の間になるように、混練水の温度を調節して練ること。 規定の数量を超過すると、モルタルが分離したり、規定の強度が得られなくなるため注意すること。 無収縮モルタルを練る時は、袋の全量を使い切るようにすること。 破袋または一度開封して放置された製品は使わないこと。 必要に応じて、モルタルが適当にしまった時点でコテ仕上げを行うこと。 養生は、急激な乾燥が起きないように濡れた布等で覆うなどして直射日光や風が直接当たらないように注意すること。 	<p>特記</p> <ul style="list-style-type: none"> 混練不足は、ひび割れの原因となるので、よく攪拌すること。 混練水量は正確に計量を行うこと。 凝結時間に注意の上、施工すること。 速硬タイプの為、一度に施工可能な分にて混練を行うこと。 一度硬化が始まったモルタルの練り直しは行わない。 夏季の気温が高い日は、粉体及び練混ぜ水の温度が上がり過ぎないように適切な処置を行うこと。
使用材料	クラック幅 (mm)										
低粘度	0.1~0.5										
中粘度	0.3~1.5										
高粘度	0.5~2.0										
<p>Pコン欠損補修</p> <p>速硬性ポリマーセメントモルタル補修</p>	<p>浮きタイル補修</p> <p>アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</p>	<p>タイル欠損補修</p> <p>タイル部分張替工法</p>									
<p>ケレン・清掃</p> <ul style="list-style-type: none"> 下地のレイタンス、脆弱部、埃等をワイヤブラシ等を用いてケレン・清掃・除去を行う。 <p>防錆剤の塗布</p> <ul style="list-style-type: none"> セパレーターに防錆剤を塗布する。錆が発生している場合は、ワイヤブラシ等でケレン・清掃を行ったから防錆剤を塗布する。 <p>水湿し</p> <ul style="list-style-type: none"> 除去・清掃後、下地に十分な水湿しを行い、湿潤状態にする。 <p>混練・塗付け</p> <ul style="list-style-type: none"> 充填材を製品の施工要領に沿って混練し、指先などで下地により密着するように充填を行う。 <p>仕上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> 塗付けた材料の水引を見計らって、金ごて等で平滑にする。 	<p>浮きの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 施工前調査にて範囲確認、健全部へ10cm幅広くマーキングを行う。 <p>穿孔位置の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> アンカーピン本数 一般部分 13本1.2穴/m²、指定部分 20本2.0穴/m²(見上げ(天井)部分) 狭幅部(幅200mm以下)は5本 5穴/m²。 <p>穿 孔</p> <ul style="list-style-type: none"> ピン直径より2mm程大きい直径とする。躯体中に30mm/程度のピンの定着長を取る深さとする。 <p>清 掃</p> <ul style="list-style-type: none"> 清掃はハンドブロアー、Qガン等を用いる。 <p>エポキシ樹脂充填</p> <ul style="list-style-type: none"> 注入量は25cc/1穴とする。 打音による浮き代判定から樹脂の粘度を選定する。 <p>アンカーピン挿入</p> <ul style="list-style-type: none"> アンカーは、SU S304全ネジ皿付ステンレスピンとする。ピンの長さは、モルタル厚みにより異なるが30mmの躯体定着長を確保すること。ピンの径は、4mm以上とする。 <p>表面処理清掃</p> <ul style="list-style-type: none"> ピンの体積により流出するエポキシ樹脂を利用し、ピンを被い仕上材に合わせた仕上げとする。 	<p>確 認</p> <ul style="list-style-type: none"> テストハンマー等を用いてタイル浮き・剥離等(改修範囲)の状況を確認し、張替え範囲を決定する。 <p>タイル除去</p> <ul style="list-style-type: none"> タイル張り仕上げの撤去(はつり落とし)を行う。張付けモルタルまで除去する。 <p>水洗い・清掃</p> <ul style="list-style-type: none"> タイル撤去範囲の水洗い、清掃を行う。(改修下地の清掃) <p>不陸調整</p> <ul style="list-style-type: none"> タイル撤去に伴う、タイル下地の不陸調整を行う。ポリマーセメントモルタル等、断面修復用モルタルを使用する。 <p>補修タイル張</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存タイルの部分張替えを行う。仕上げ状態、段差の有無を確認する。 <p>酸洗い・清掃</p> <ul style="list-style-type: none"> 張替え範囲の酸洗い、清掃を行う。 									
<p>模式図</p>	<p>模式図</p>	<p>模式図</p>									
<p>特記</p> <ul style="list-style-type: none"> 混練不足は、ひび割れの原因となるので、よく攪拌すること。 混練水量は正確に計量を行うこと。 凝結時間に注意の上、施工すること。 速硬タイプの為、一度に施工可能な分にて混練を行うこと。 一度硬化が始まったモルタルの練り直しは行わない。 夏季の気温が高い日は、粉体及び練混ぜ水の温度が上がり過ぎないように適切な処置を行うこと。 	<p>特記</p> <ul style="list-style-type: none"> アンカーピンの固定は夏季は、15時間、冬季は24時間程度は衝撃を与えぬこと。 モルタル層間剥離が予想されるためステンレスピンは皿付が望ましい。 エポキシ樹脂の粘度は、浮き代と温度により決定する。 エポキシは、JIS A 6024とする。 ステンレスピンは、SU S304 全ネジ皿付とする。 樹脂注入材の広がりやハンマー打診を確認すること。 	<p>特記</p> <ul style="list-style-type: none"> 改修用タイルについて、既設タイルと同一品がない場合、手配可能な同等品を選定し、監督員の承認を受けること。 									
<p>工事名称</p> <p>熊本地震による熊本県立大学災害復旧工事(第Ⅱ期)</p>	<p>図面名称</p> <p>下地補修特記仕様書</p>	<p>縮尺</p> <p>—</p>	<p>株式会社</p> <p>太宏設計事務所</p>	<p>一級建築士建設大臣登録第133907福島正徳</p> <p>熊本県知事登録第555号</p>	<p>校 関</p>	<p>日 付</p>	<p>番 号</p> <p>A-07</p>				

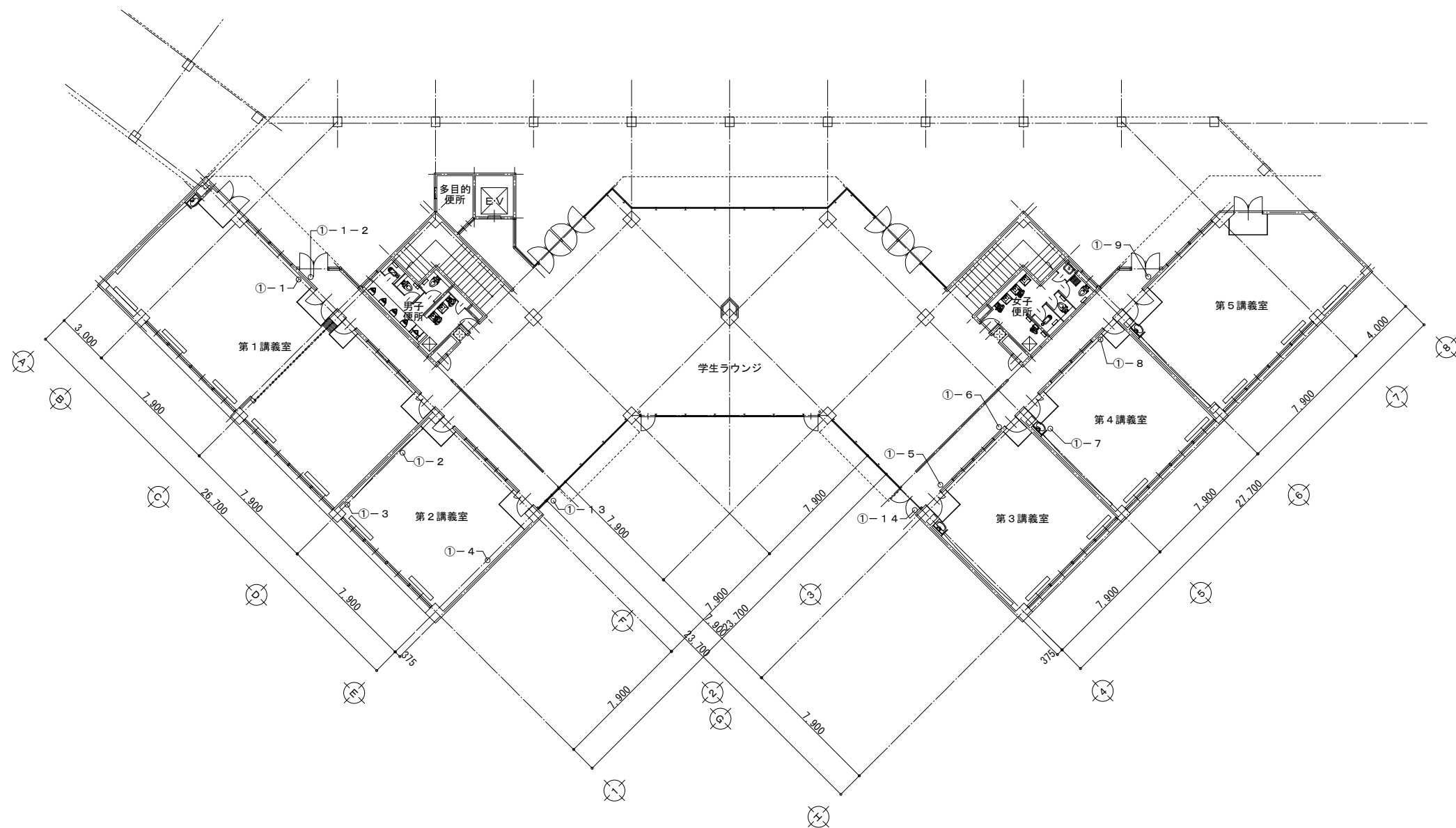


配置図 (月出)

凡例
 対象建物を示す。



配置図 (小峯)



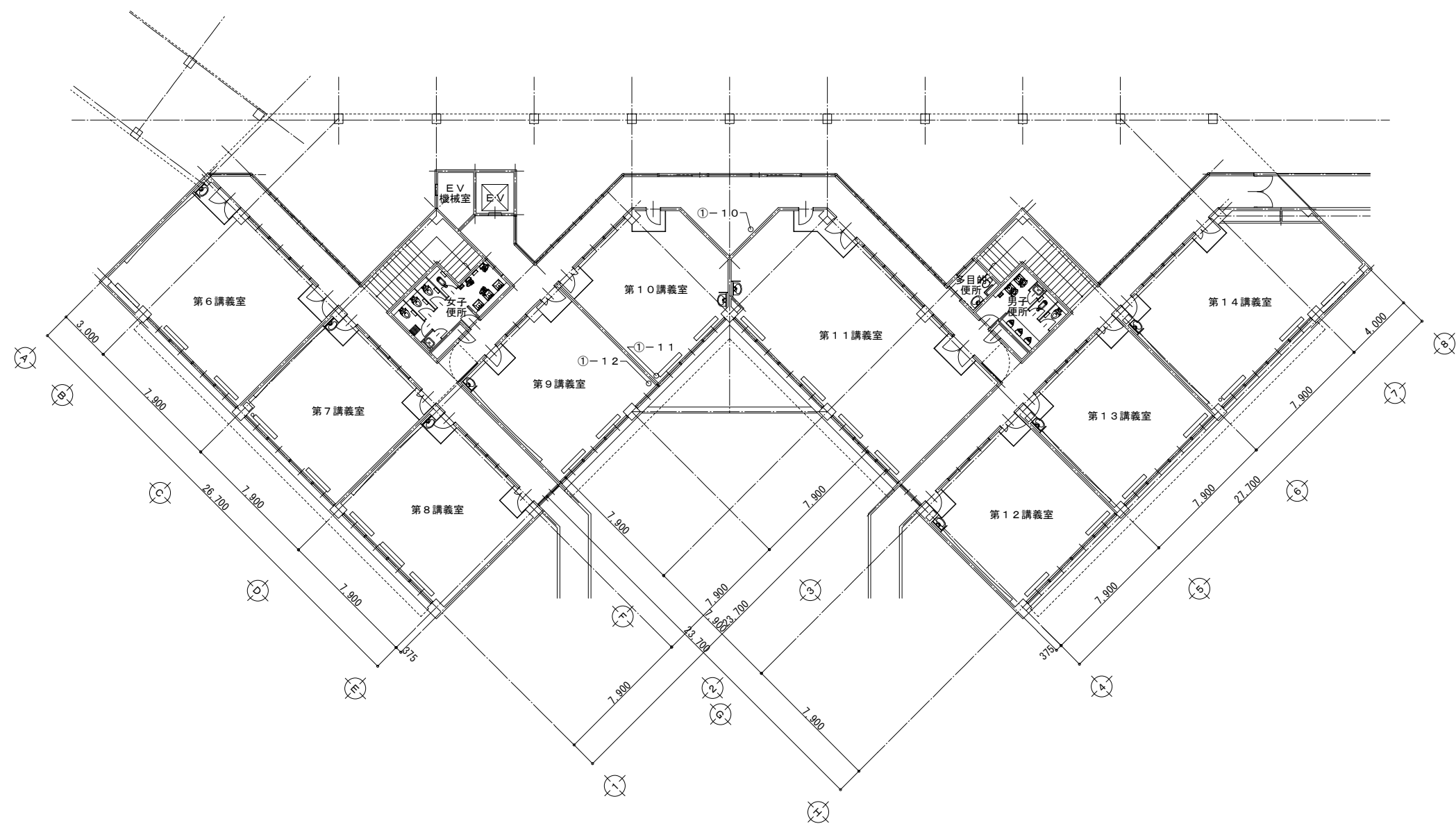
1階平面図

熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
①-1	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	5.40	m ²
①-1-2	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	2.73	m ²
①-2	コンクリートクラック 0.30mm	エポキシ樹脂注入 E P 塗装	3.40 23.70	m m ²
①-3	コンクリートクラック 0.55mm	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (①-2に含む)	2.20 -	m m ²
①-4	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	23.70	m ²
①-5	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	1.60	m ²
①-6	コンクリートクラック 0.30mm	エポキシ樹脂注入 E P 塗装	1.90 1.60	m m ²

熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

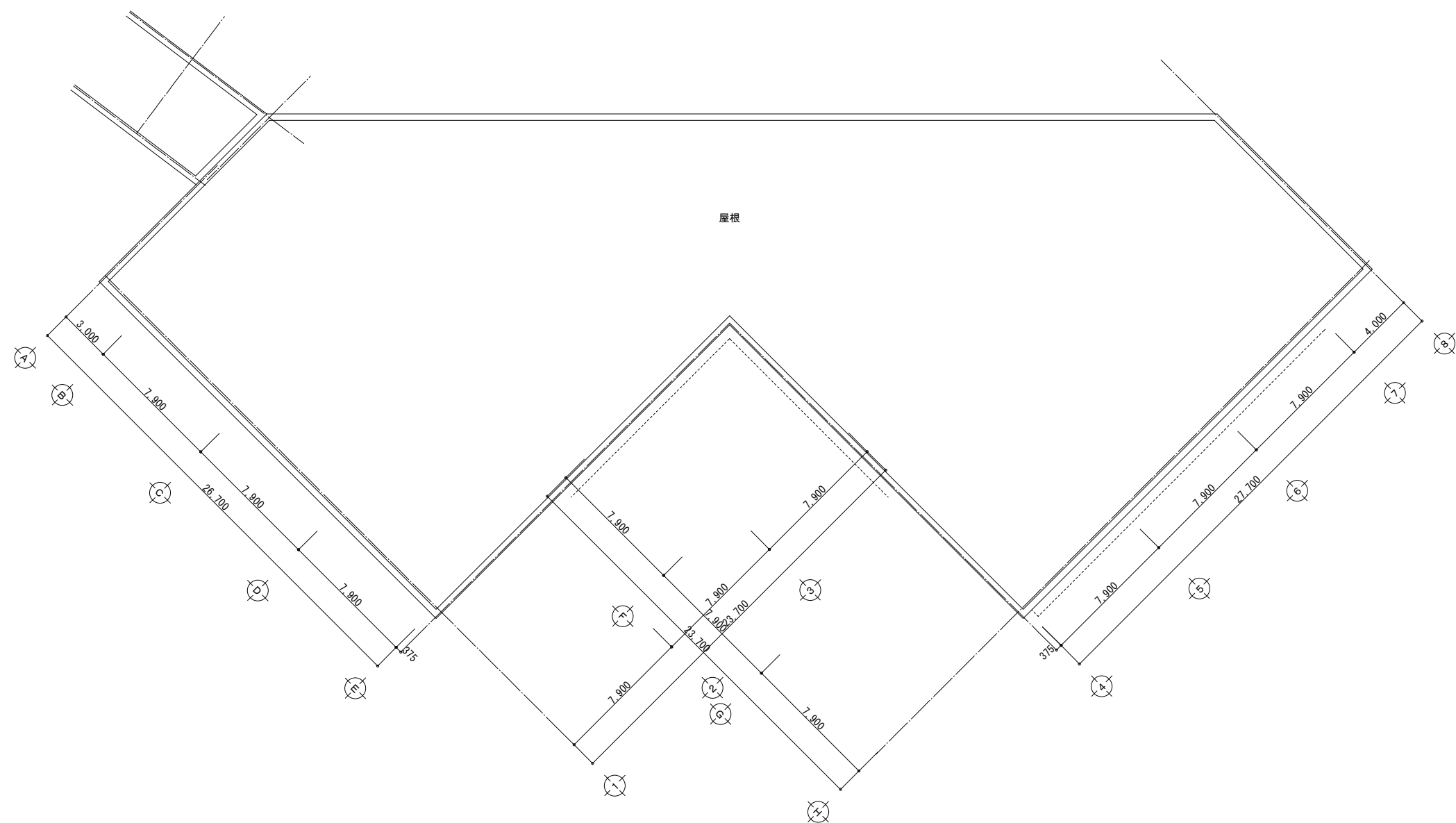
査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
①-7	コンクリートクラック 0.30mm	エポキシ樹脂注入 E P 塗装	4.60 11.02	m m ²
①-8	コンクリートクラック 0.30mm	エポキシ樹脂注入 E P 塗装	4.30 1.60	m m ²
①-9	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	5.73	m ²
①-13	エキスパンションジョイント破損 (2階床) 渡り廊下接続部亀裂	エキスパンションジョイント カバー取替 (W=150) 床 欠損部補修 (300×300以下) 複層塗材 E	1.60 1.00 4.00	m 箇所 m ²
①-14	渡り廊下接続部亀裂	欠損部補修 (150×150以下) 複層塗材 E	1.00 4.00	箇所 m ²



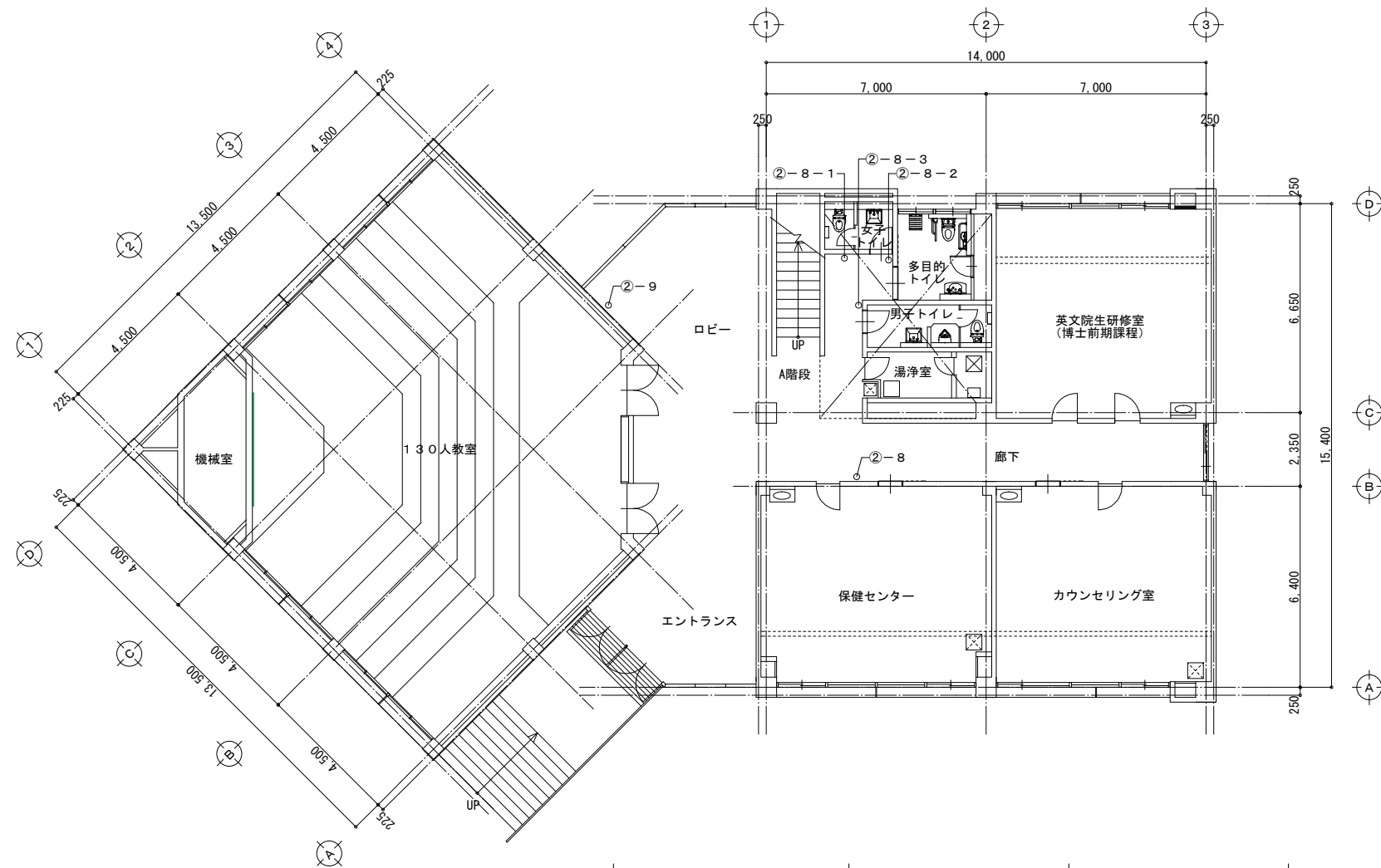
2階平面図

熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
①-10	コンクリートクラック 0.30mm未満	EP塗装	11.96	m ²
①-11	コンクリートクラック 0.40mm	エポキシ樹脂注入	1.40	m
		EP塗装	1.80	m ²
①-12	コンクリートクラック 0.40mm	エポキシ樹脂注入	1.40	m
		EP塗装	11.96	m ²

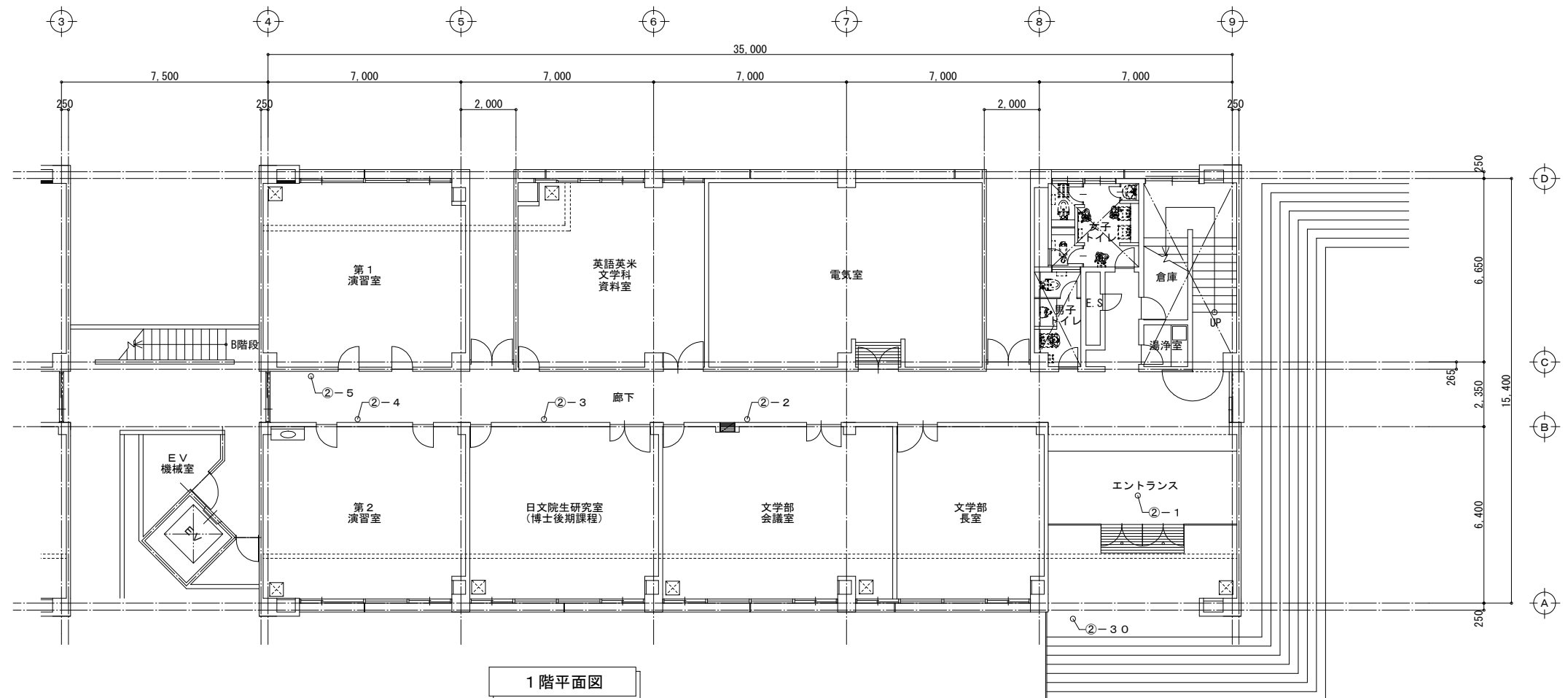


屋根伏図

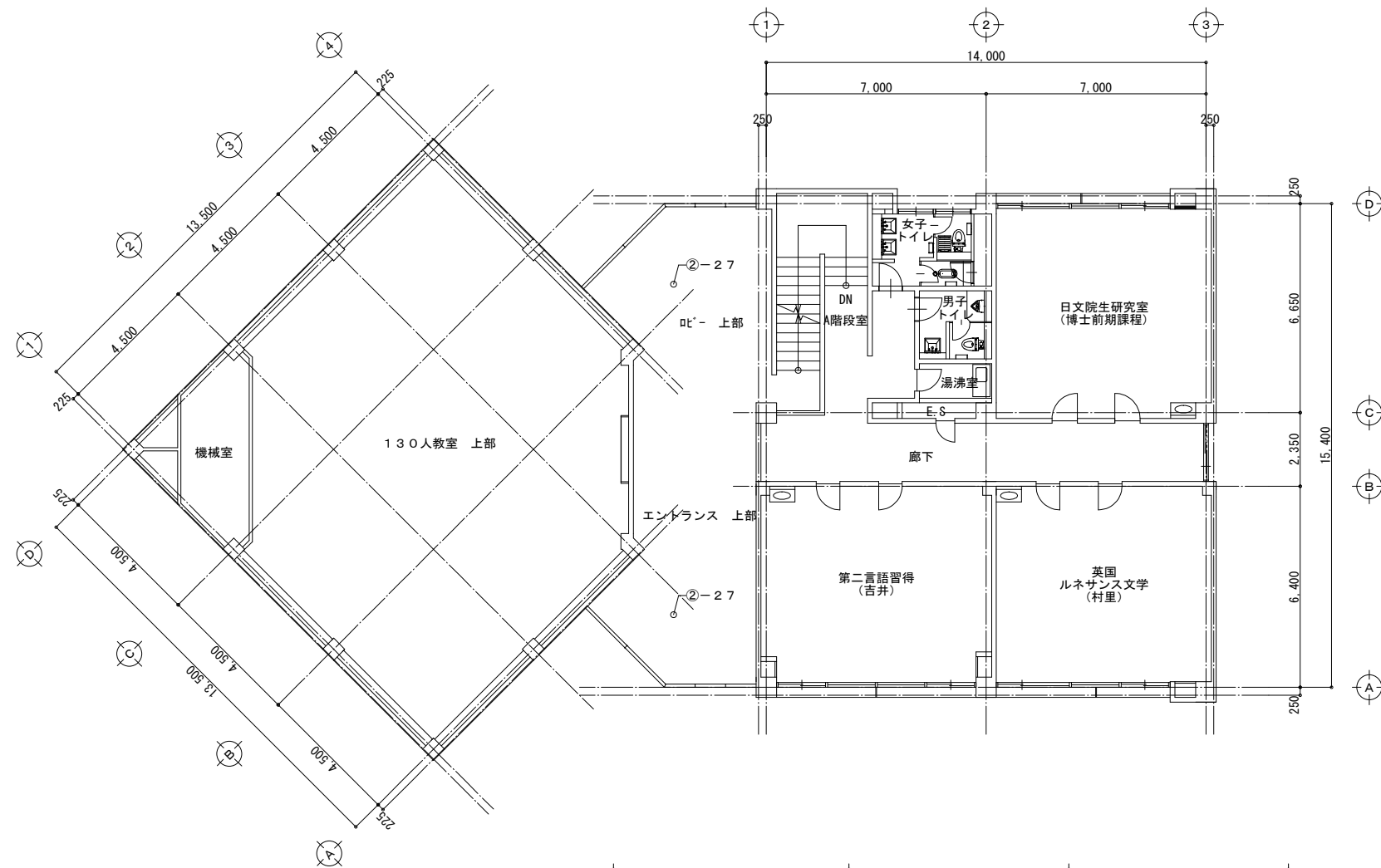


熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
②-1	コンクリートクラック 0.35mm	エポキシ樹脂注入	5.00	m
		E P 塗装	7.00	m ²
②-2	コンクリートクラック 0.40mm	エポキシ樹脂注入	4.50	m
		E P 塗装	9.24	m ²
②-3	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	9.24	m ²
②-4	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	7.26	m ²
②-5	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	4.95	m ²
②-8	コンクリートクラック 0.30mm	エポキシ樹脂注入	1.20	m
		E P 塗装	2.42	m ²
②-8-1	コンクリートクラック 0.65mm	エポキシ樹脂注入	1.60	m
		E P 塗装	2.42	m ²
②-8-2	コンクリートクラック 0.45mm	エポキシ樹脂注入	1.10	m
		E P 塗装	1.10	m ²
②-8-3	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	0.88	m ²
②-9	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	5.89	m ²
②-30	渡り廊下壁アンカーボルト	鉄骨補強	2.00	箇所

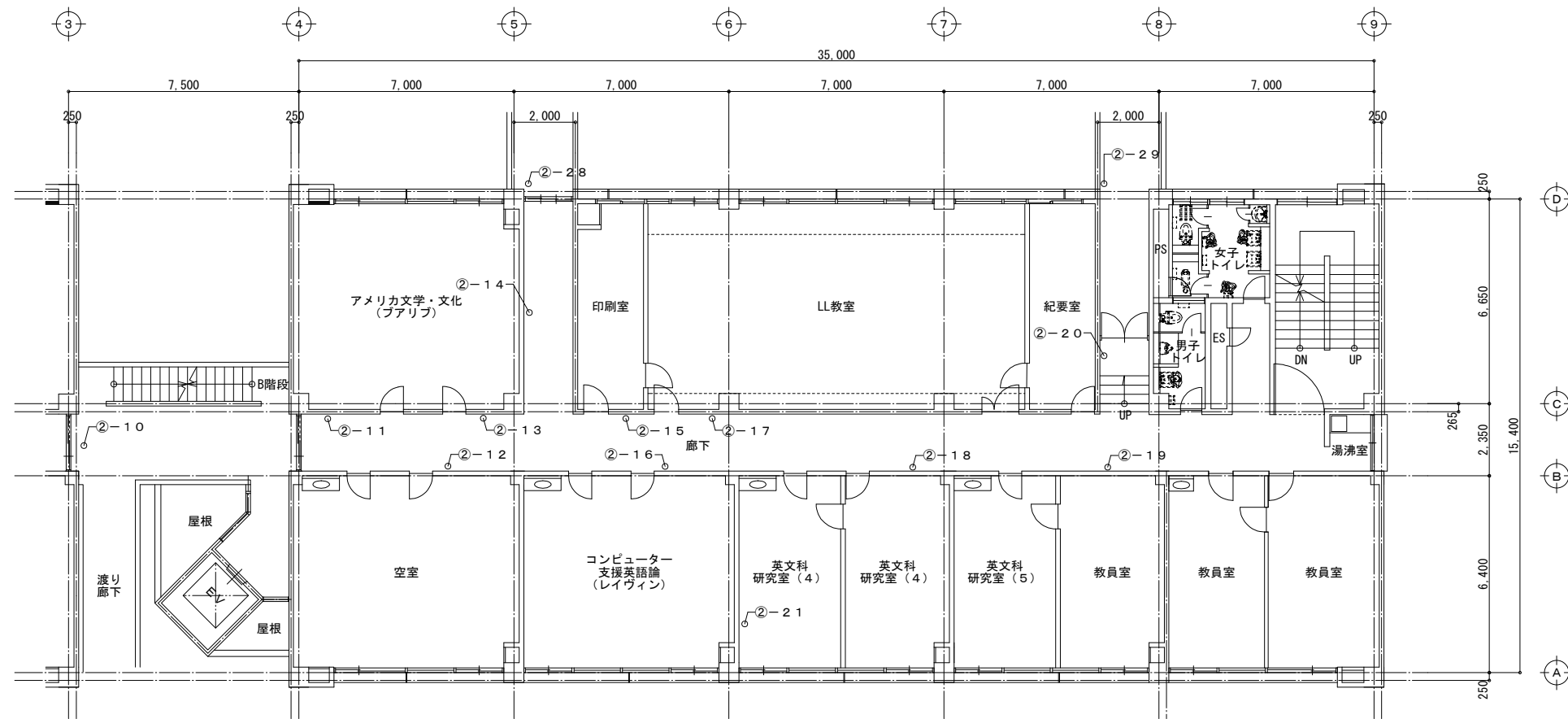


1階平面図

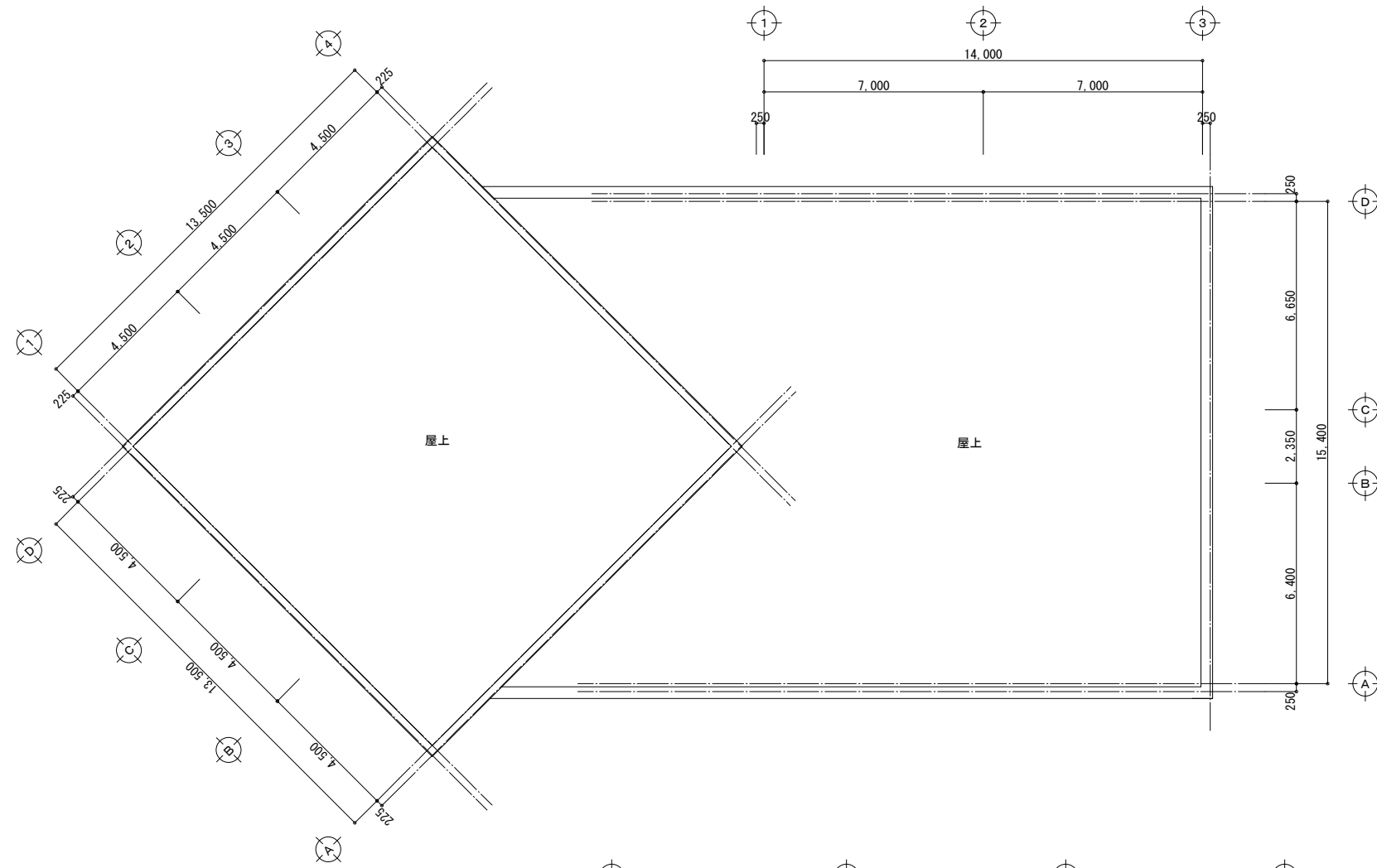


熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
②-10	エクスパンションジョイントカバー破損	エクスパンションジョイントカバー取替 (W=150) 床	5.80	m
②-11	コンクリートクラック 0.50mm	エポキシ樹脂注入 E P 塗装	2.20 1.17	m ㎡
②-12	コンクリートクラック 0.40mm	エポキシ樹脂注入 E P 塗装	1.50 0.96	m ㎡
②-13	コンクリートクラック 0.40mm	エポキシ樹脂注入 E P 塗装	1.30 0.80	m ㎡
②-14	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	17.55	㎡
②-15	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	2.86	㎡
②-16	コンクリートクラック 0.50mm	エポキシ樹脂注入 E P 塗装	3.00 5.28	m ㎡
②-17	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	4.62	㎡
②-18	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	5.50	㎡
②-19	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	4.62	㎡
②-20	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	7.26	㎡
②-21	コンクリートクラック 0.55mm	エポキシ樹脂注入 E P 塗装	4.30 16.56	m ㎡
②-27	天井照明落下	天井照明復旧 (4箇所×2)	8.00	箇所
②-28	渡り廊下接続部亀裂	欠損部補修 (幅100程度) 欠損部補修 (150×150以下) 複層塗材 E	2.20 1.00 4.54	m 箇所 ㎡
②-29	渡り廊下接続部亀裂	欠損部補修 (幅100程度) 複層塗材 E	2.20 4.54	m ㎡

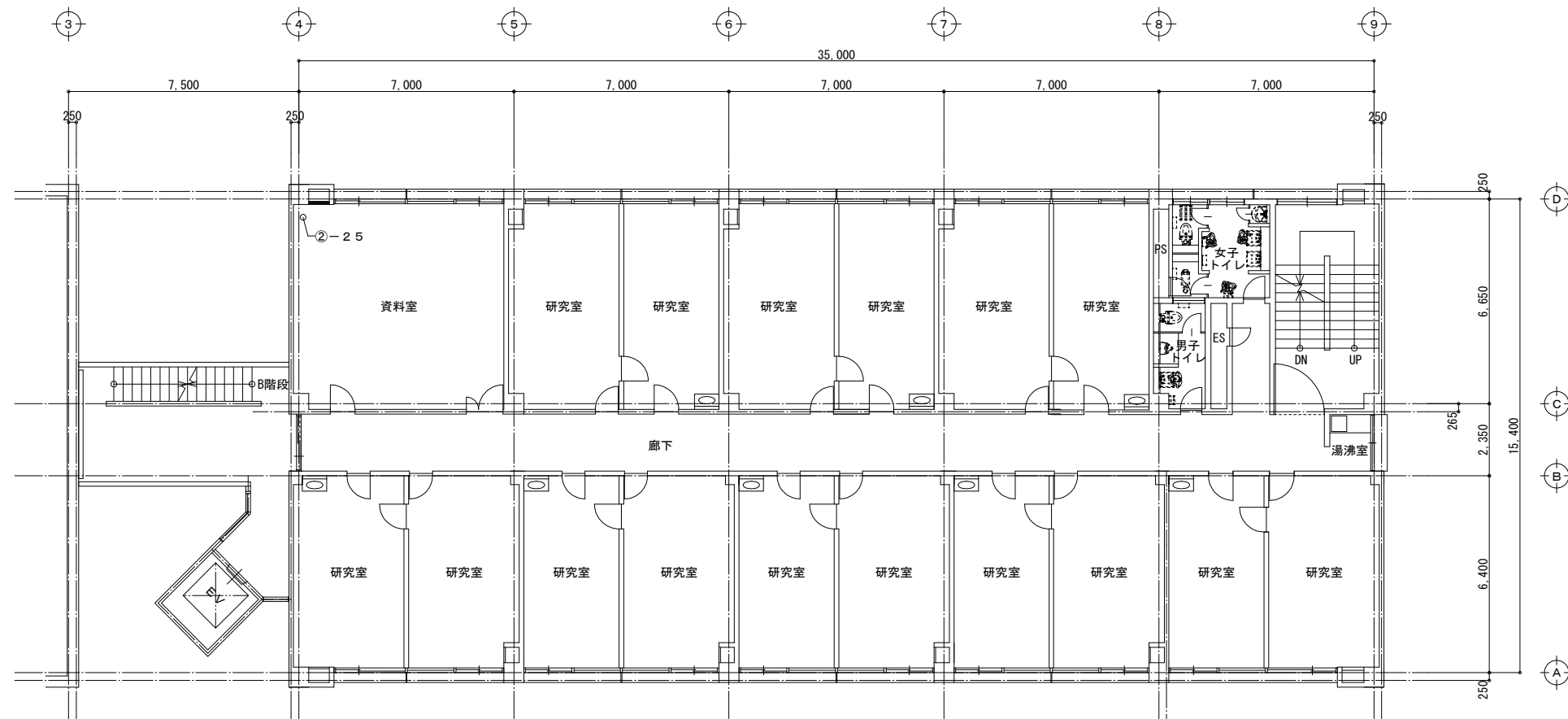


2階平面図

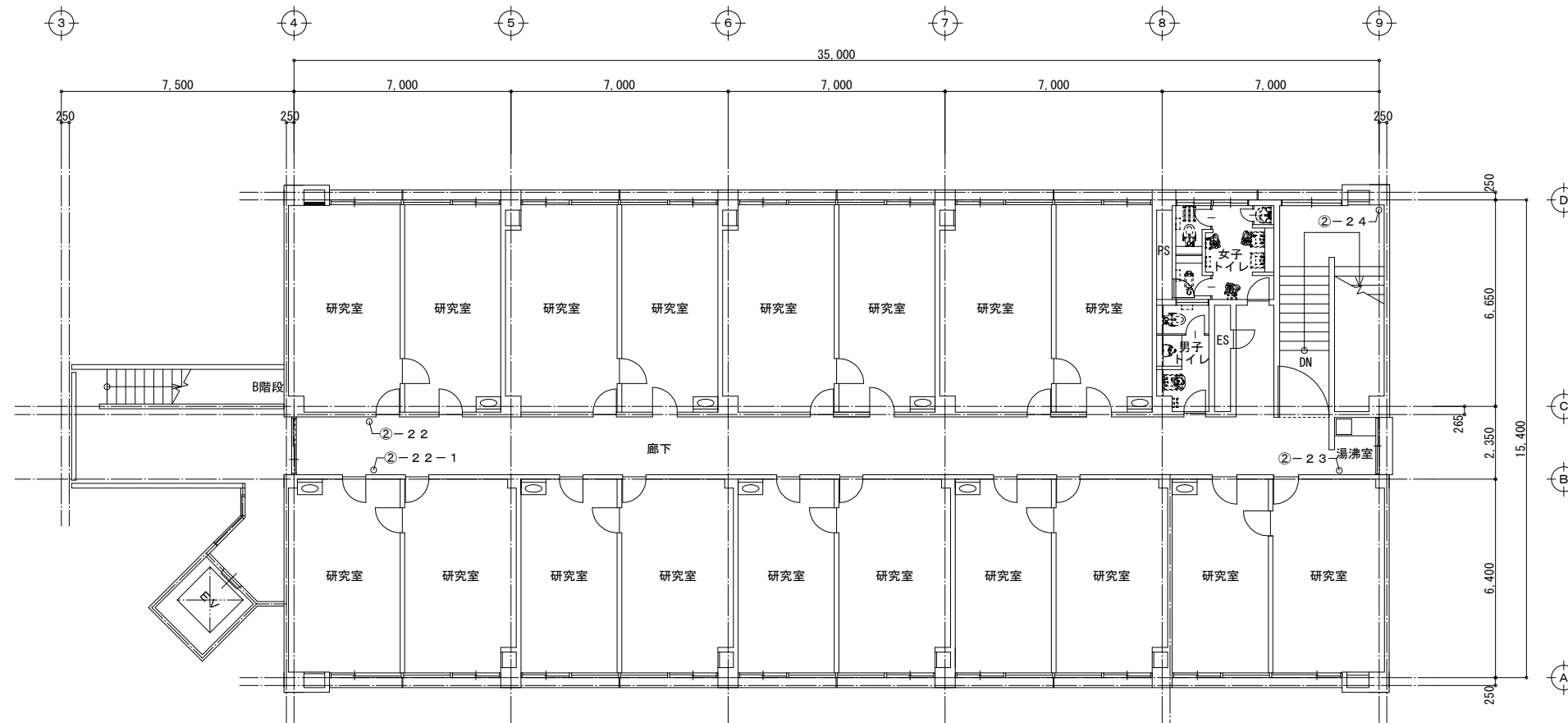


熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
②-25	ボード破損	ケイカル板 (t=6) 復旧	0.79	m ²
		E P 塗装	0.79	m ²



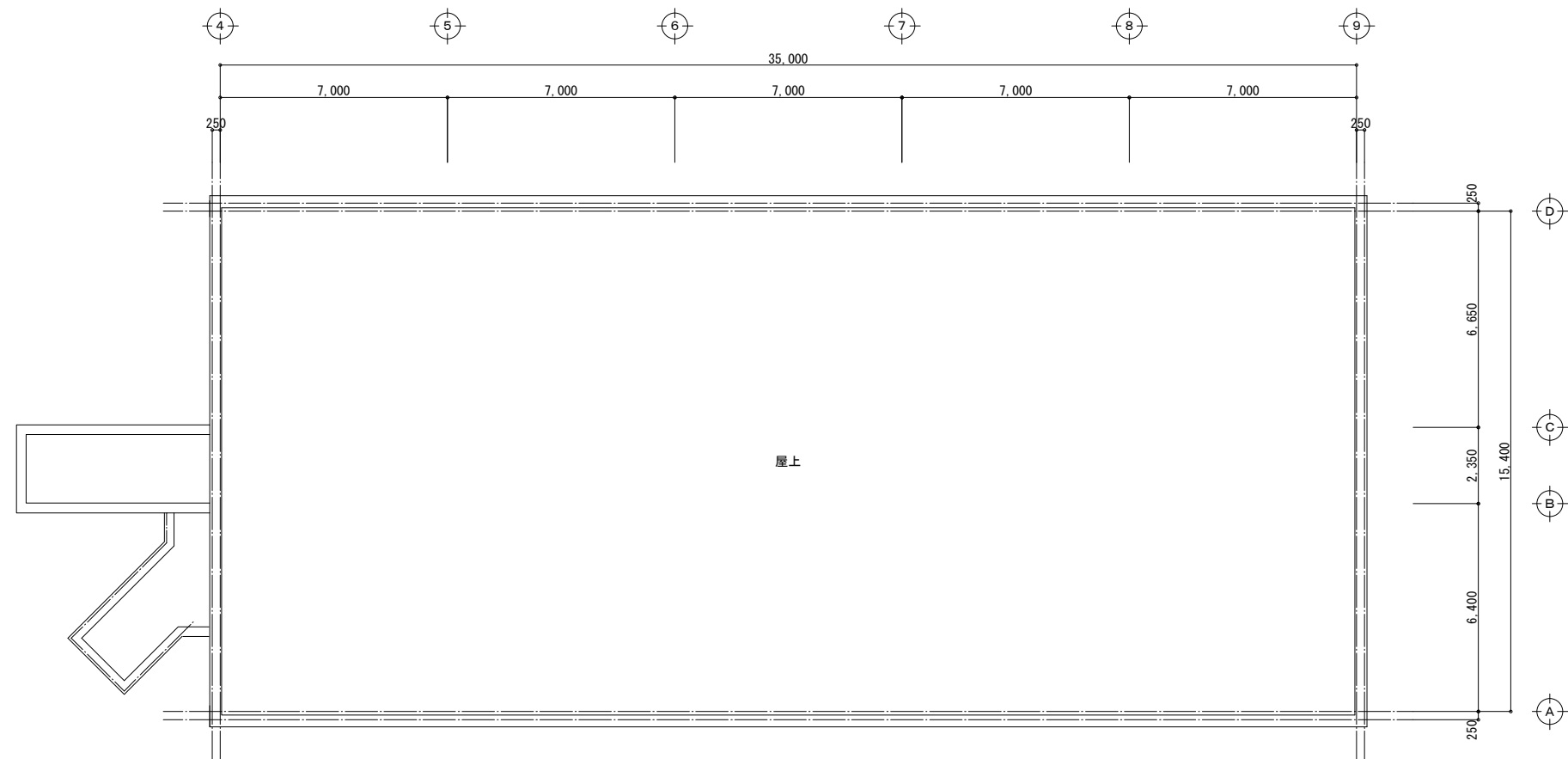
3階平面図



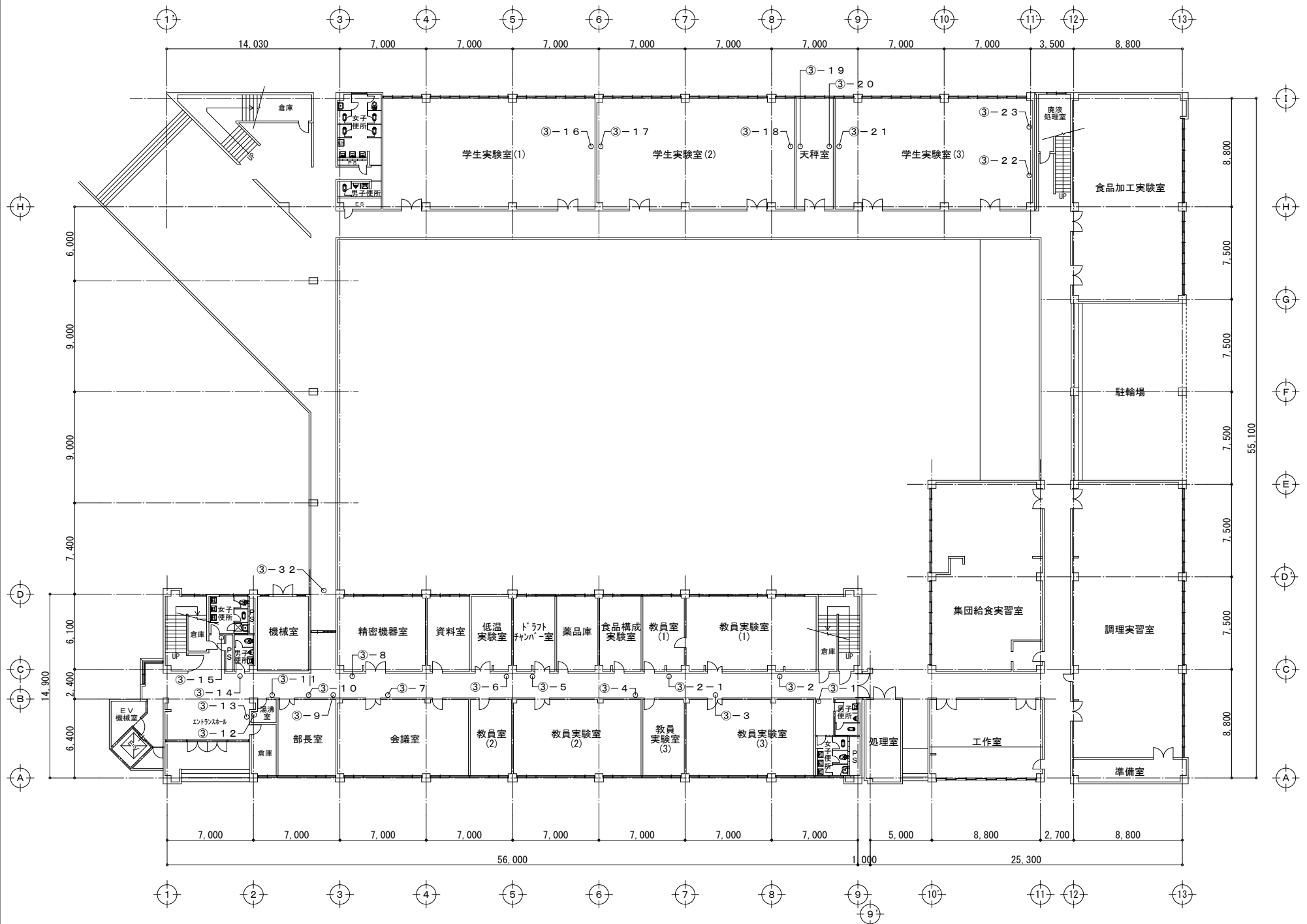
熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
②-22	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	0.91	m ²
②-22-1	コンクリートクラック 0.50mm	エポキシ樹脂注入	0.60	m
		E P 塗装	0.13	m ²
②-23	コンクリートクラック 0.50mm	エポキシ樹脂注入	2.50	m
		E P 塗装	4.94	m ²
②-24	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	2.40	m ²

4階平面図



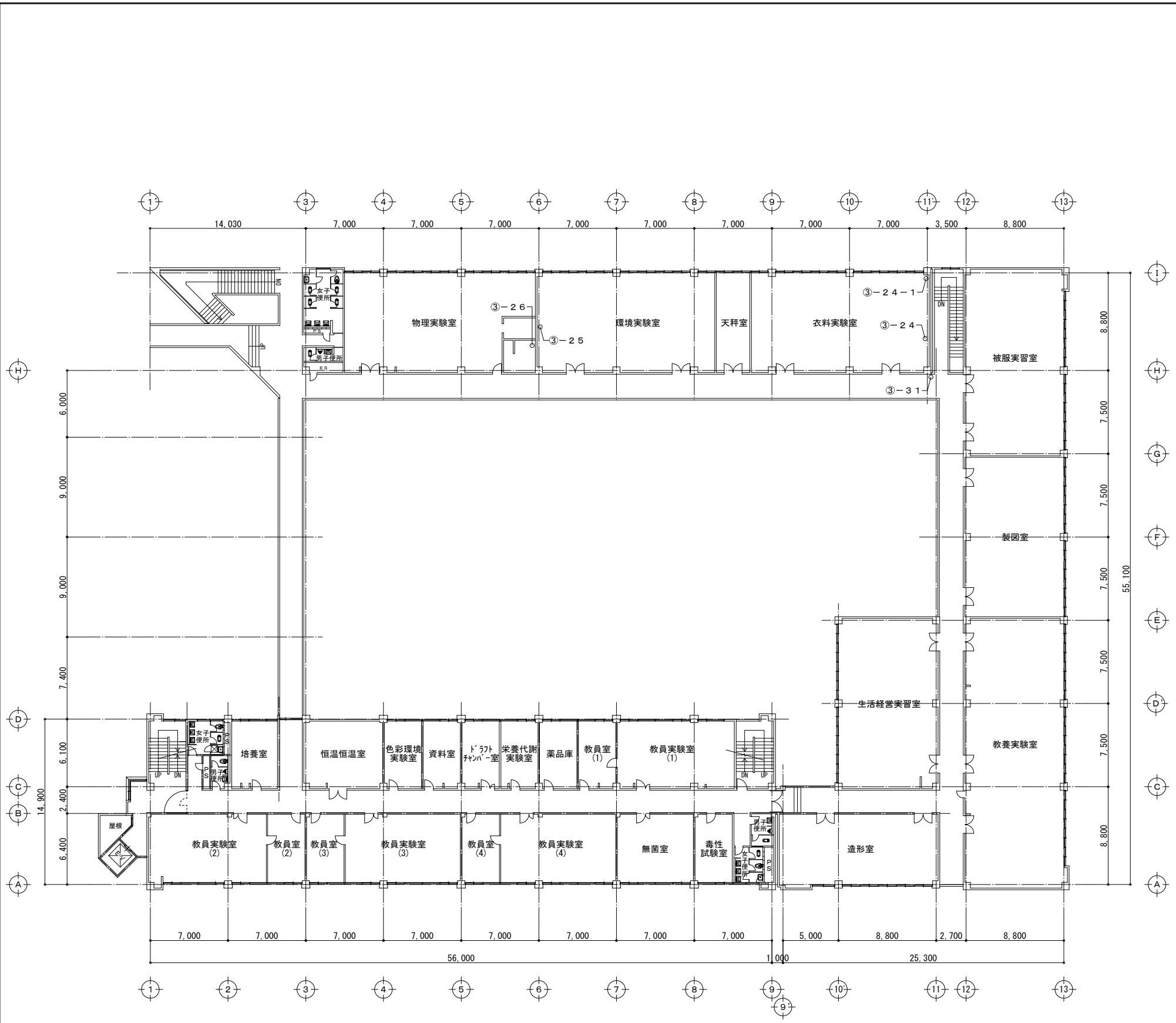
屋根伏図



1階平面図

熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

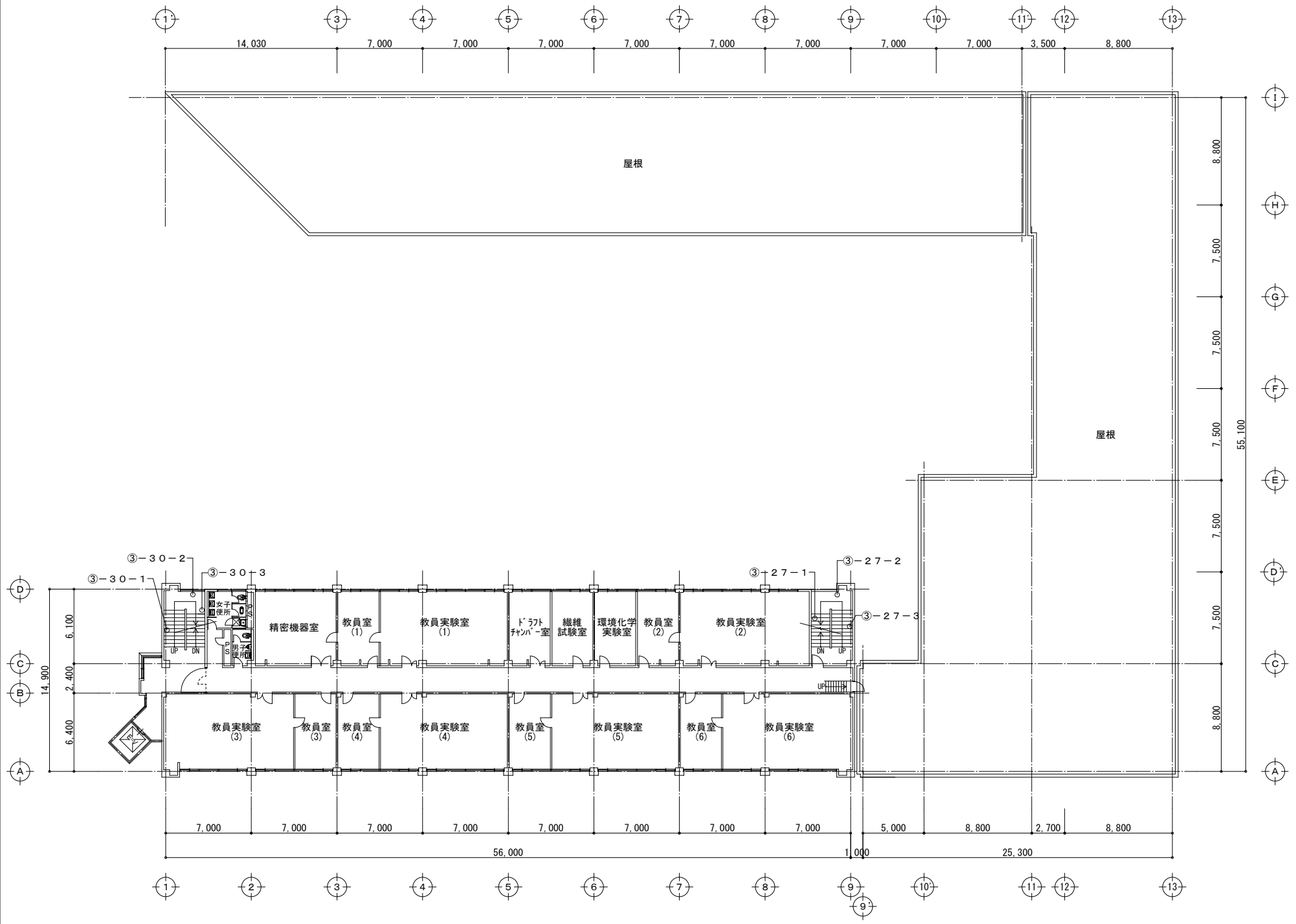
査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
③-1	コンクリートクラック 0.35mm	エポキシ樹脂注入	4.30	m
		E P 塗装	5.50	m ²
③-2	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	10.12	m ²
③-2-1	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	5.94	m ²
③-3	コンクリートクラック 0.90mm	エポキシ樹脂注入	1.20	m
		E P 塗装	0.88	m ²
③-4	コンクリートクラック 0.40mm	エポキシ樹脂注入	1.70	m
		E P 塗装	2.42	m ²
③-5	コンクリートクラック 0.35mm	エポキシ樹脂注入	1.30	m
		E P 塗装	0.28	m ²
③-6	コンクリートクラック 0.40mm	エポキシ樹脂注入	1.50	m
		E P 塗装	0.48	m ²
③-7	コンクリートクラック 0.35mm	エポキシ樹脂注入	3.10	m
		E P 塗装	4.40	m ²
③-8	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	1.44	m ²
③-9	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	1.04	m ²
③-10	コンクリートクラック 0.40mm	エポキシ樹脂注入	3.30	m
		E P 塗装	5.39	m ²
③-11	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	0.40	m ²
③-12	コンクリートクラック 0.30mm	エポキシ樹脂注入	3.00	m
		E P 塗装	5.06	m ²
③-13	コンクリートクラック 0.30mm	エポキシ樹脂注入	2.30	m
		E P 塗装	2.64	m ²
③-14	コンクリートクラック 0.40mm	エポキシ樹脂注入	0.50	m
		E P 塗装	0.45	m ²
③-15	コンクリートクラック 0.30mm	エポキシ樹脂注入	2.20	m
		E P 塗装	0.33	m ²
③-16	コンクリートクラック 1.00mm	エポキシ樹脂注入	20.00	m
		E P 塗装	32.68	m ²
③-17	コンクリートクラック 0.70mm	エポキシ樹脂注入	20.00	m
		E P 塗装	30.40	m ²
③-18	コンクリートクラック 0.50mm	エポキシ樹脂注入	32.00	m
		E P 塗装	30.80	m ²
③-19	コンクリートクラック 0.35mm	エポキシ樹脂注入	14.00	m
		E P 塗装	30.80	m ²
③-20	コンクリートクラック 0.60mm	エポキシ樹脂注入	24.00	m
		E P 塗装	30.80	m ²
③-21	コンクリートクラック 0.30mm	エポキシ樹脂注入	18.00	m
		E P 塗装	15.40	m ²
③-22	コンクリートクラック 0.75mm	エポキシ樹脂注入	3.10	m
		E P 塗装	1.75	m ²
③-23	コンクリートクラック 0.75mm	エポキシ樹脂注入	4.60	m
		E P 塗装	3.50	m ²
③-32	エキスパンション部躯体欠損	欠損部補修 (300×300以下)	1.00	箇所
		複層塗材 E	2.00	m ²



2階平面図

熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

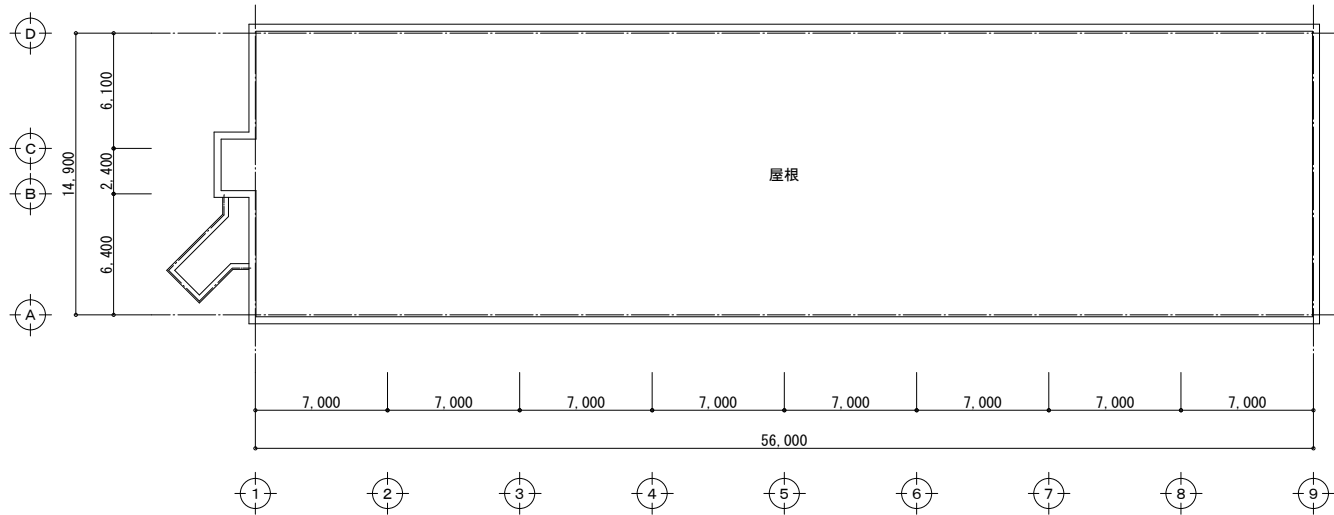
査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
③-24	壁剥落	欠損部補修	9.92	m ²
		E P 塗装	9.92	m ²
③-24-1	壁欠損	欠損部補修 (狭幅部)	3.10	m
		E P 塗装	0.47	m ²
③-25	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	3.75	m ²
③-26	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	2.50	m ²
③-31	エキスパンションジョイントカバー破損	エキスパンションジョイント カバー取替 (W=150) 壁	4.10	m
		エキスパンションジョイント カバー取替 (W=150) 天井	4.00	m
		エキスパンションジョイント カバー取替 (L=300) 柱木	2.00	箇所
		欠損部補修 (W=100) H=4,100	2.00	箇所
		複層塗材 E	0.82	m ²



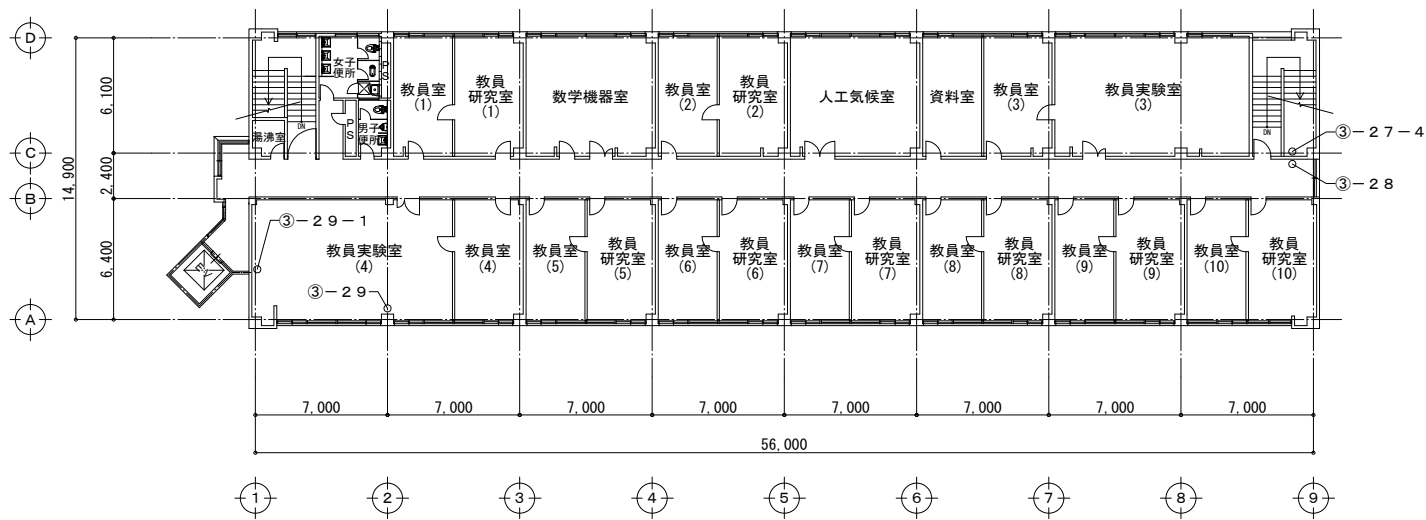
3階平面図

熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
③-27-1	コンクリートクラック 0.40mm	エポキシ樹脂注入	12.00	m
		EP塗装	26.22	m ²
③-27-2	コンクリートクラック 0.70mm	エポキシ樹脂注入	12.50	m
		EP塗装	10.35	m ²
③-27-3	コンクリートクラック 0.30mm未満	EP塗装	26.22	m ²
③-30-1	コンクリートクラック 0.30mm未満	EP塗装	17.82	m ²
③-30-2	コンクリートクラック 0.60mm	エポキシ樹脂注入	9.70	m
		EP塗装	10.35	m ²
③-30-3	コンクリートクラック 0.30mm未満	EP塗装	26.22	m ²



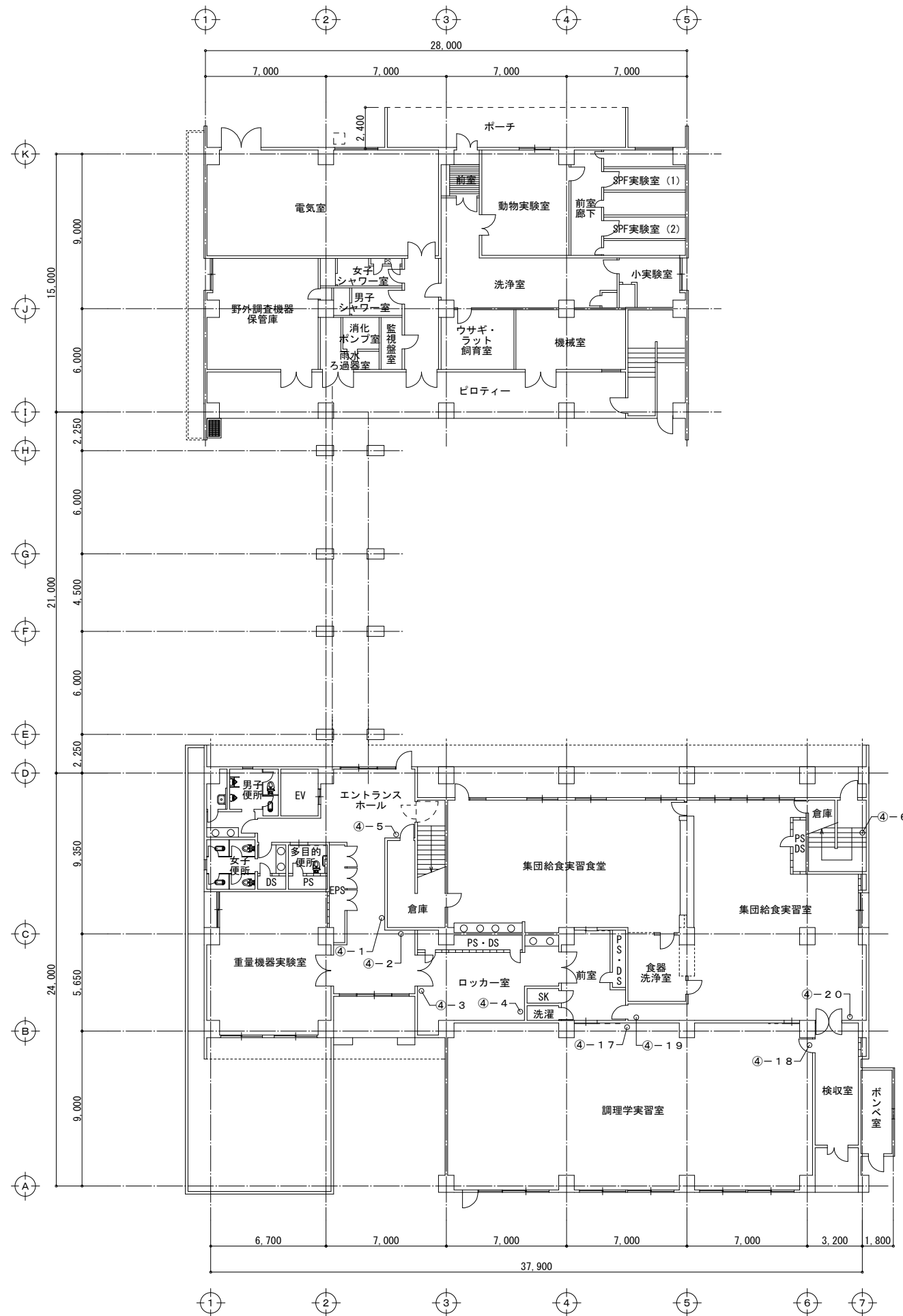
屋根伏図



4階平面図

熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

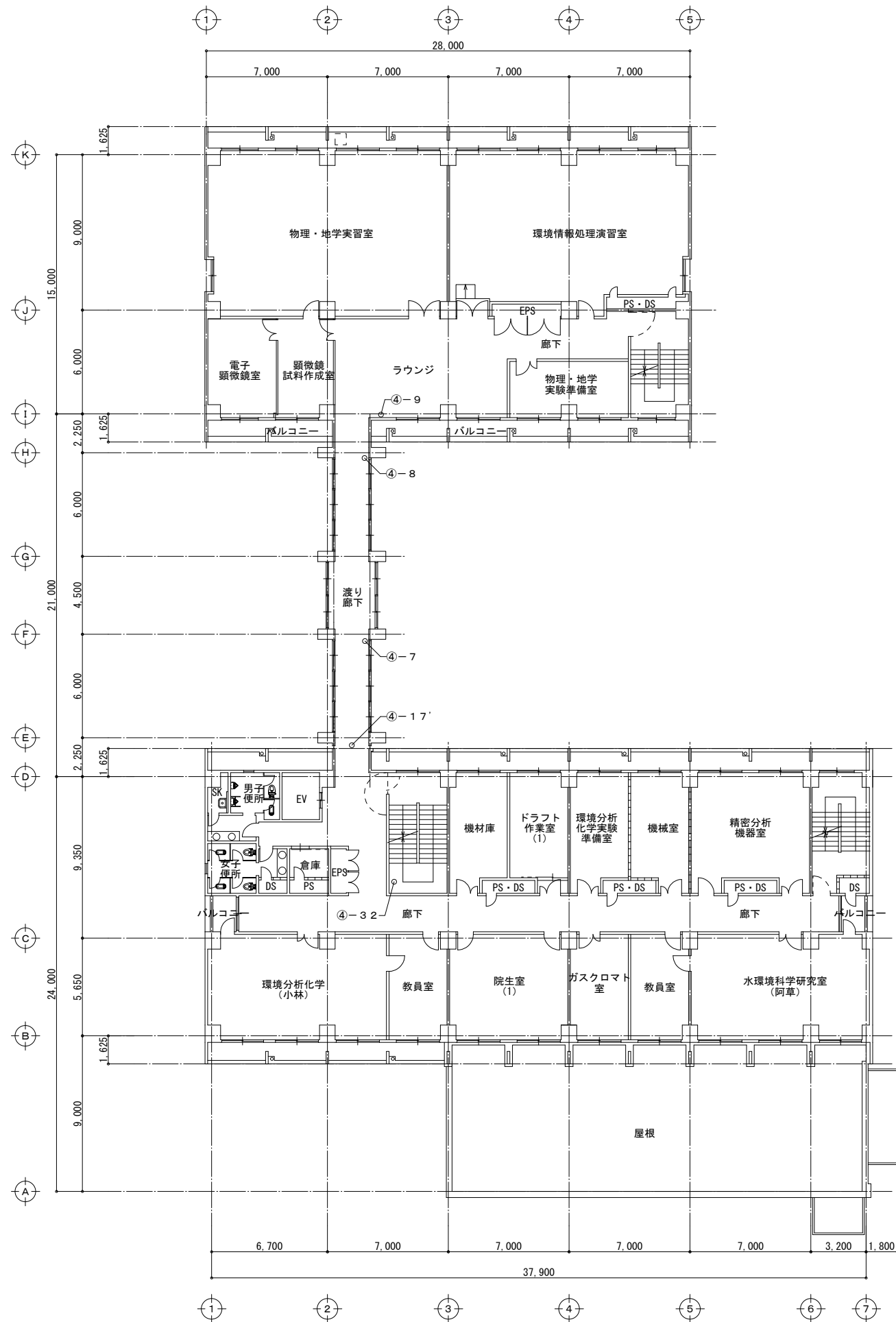
査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
③-27-4	コンクリートクラック 0.50mm	エポキシ樹脂注入	4.10	m
		E P 塗装	11.22	m ²
③-28	コンクリートクラック 0.40mm	エポキシ樹脂注入	4.00	m
		E P 塗装	5.06	m ²
③-29	天井石膏ボード破損	化粧石膏ボード (t=9) 復旧 (910角)	2.00	枚
③-29-1	壁ボード破損	ケイカル板 (t=6) 復旧	0.12	m ²
		E P 塗装	0.12	m ²



1階平面図

熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

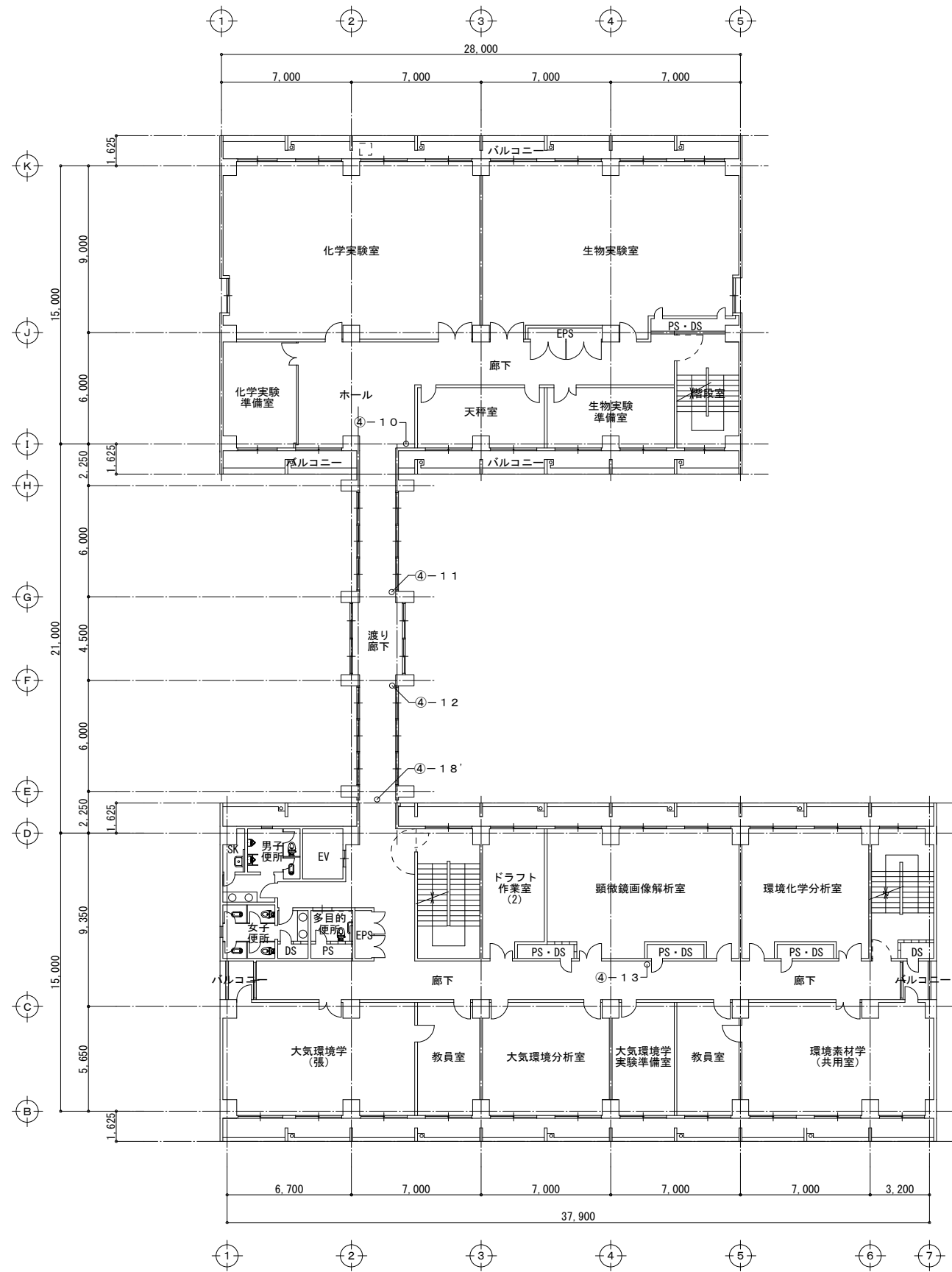
査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
④-1	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	1.30	m ²
④-2	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	5.25	m ²
④-3	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	0.36	m ²
④-4	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	0.36	m ²
④-5	コンクリートクラック 0.60mm	エポキシ樹脂注入 E P 塗装	0.80 0.96	m m ²
④-6	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	8.20	m ²
④-17	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	1.85	m ²
④-18	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	1.27	m ²
④-19	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	0.72	m ²
④-20	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	2.25	m ²



2階平面図

熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
④-7	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	0.32	m ²
④-8	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	0.32	m ²
④-9	コンクリートクラック 0.50mm	エポキシ樹脂注入 E P 塗装	7.80 3.75	m m ²
④-17'	エキスパンションジョイントカバー破損 (内部)	エキスパンションジョイント カバー取替 (W=150) 天井	1.90	m
④-32	コンクリートクラック 0.35mm	エポキシ樹脂注入 E P 塗装	2.50 0.25	m m ²



3階平面図

熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

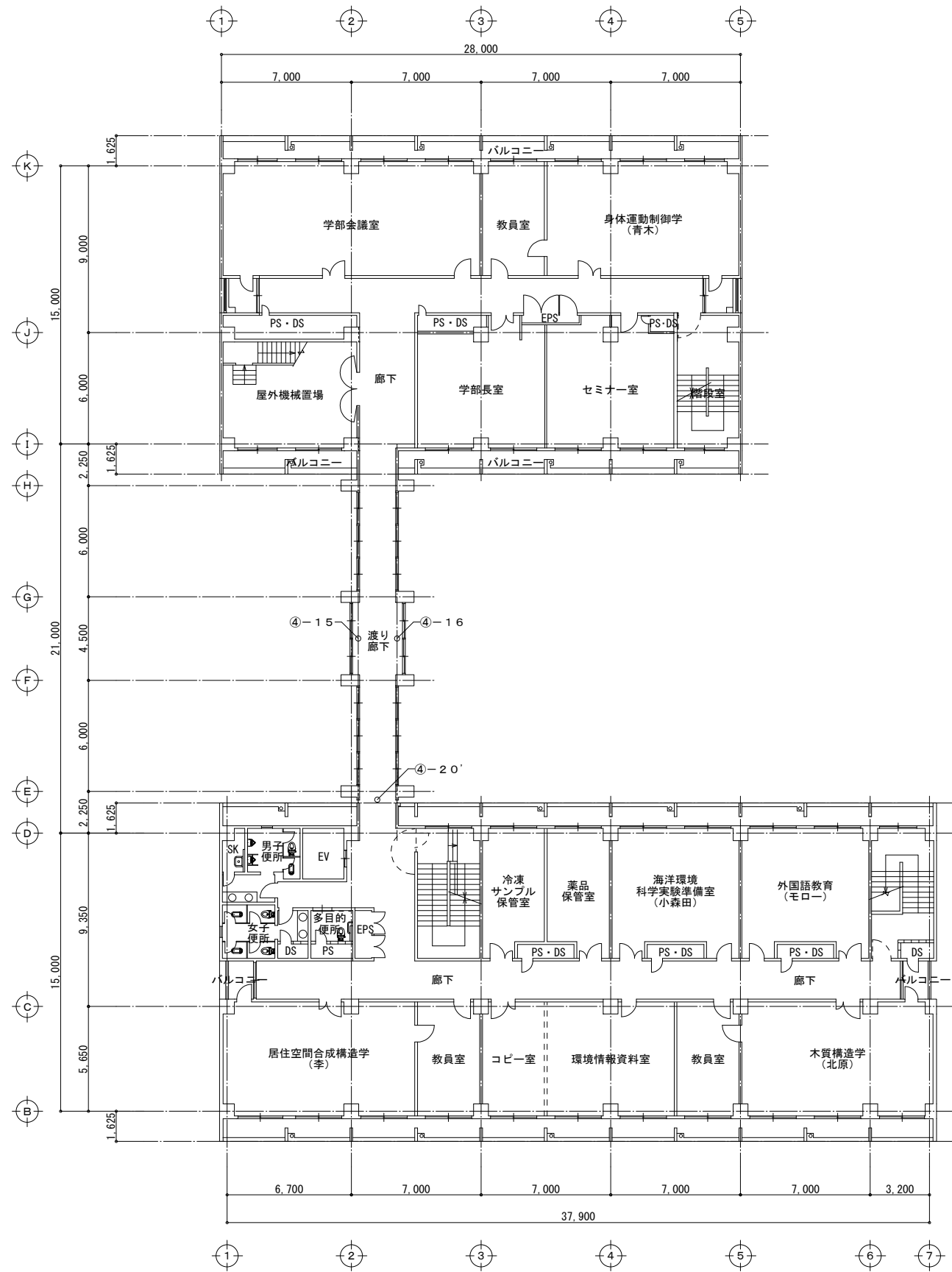
査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
④-10	コンクリートクラック 0.50mm	エポキシ樹脂注入	4.30	m
		E P 塗装	2.75	m ²
④-11	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	0.32	m ²
④-12	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	0.32	m ²
④-13	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	0.40	m ²
④-18'	エキスパンションジョイントカバー破損 (内部)	エキスパンションジョイント カバー取替 (W=150) 壁	5.00	m
		エキスパンションジョイント カバー取替 (W=150) 天井	1.90	m



4階平面図

熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

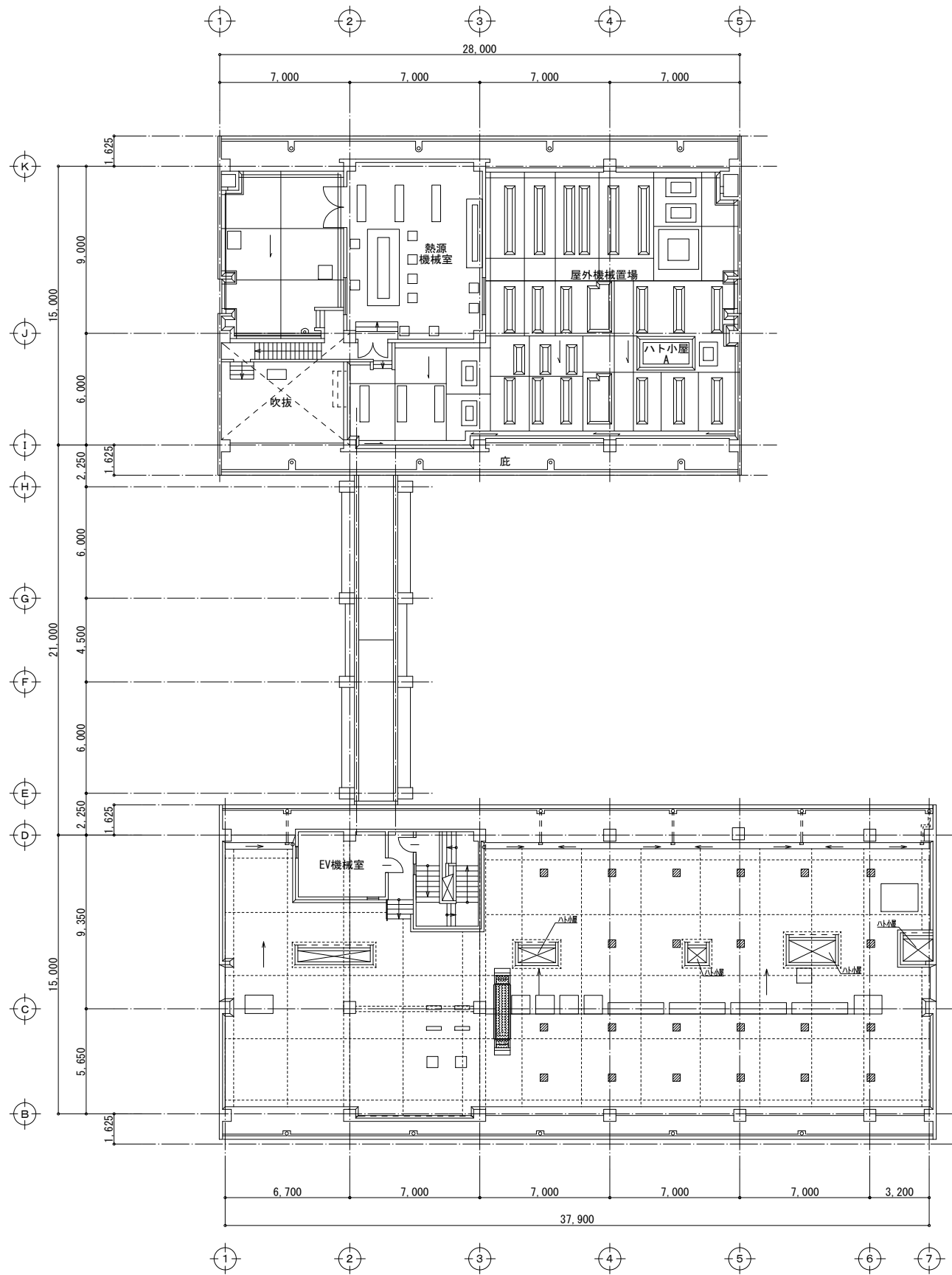
査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
④-14	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	1.37	m ²
④-19'	エキスパンションジョイントカバー破損 (内部)	エキスパンションジョイント カバー取替 (W=150) 壁	5.00	m
		エキスパンションジョイント カバー取替 (W=150) 天井	1.90	m
④-31	コンクリートクラック 0.50mm	エポキシ樹脂注入	4.30	m
		E P 塗装	2.75	m ²



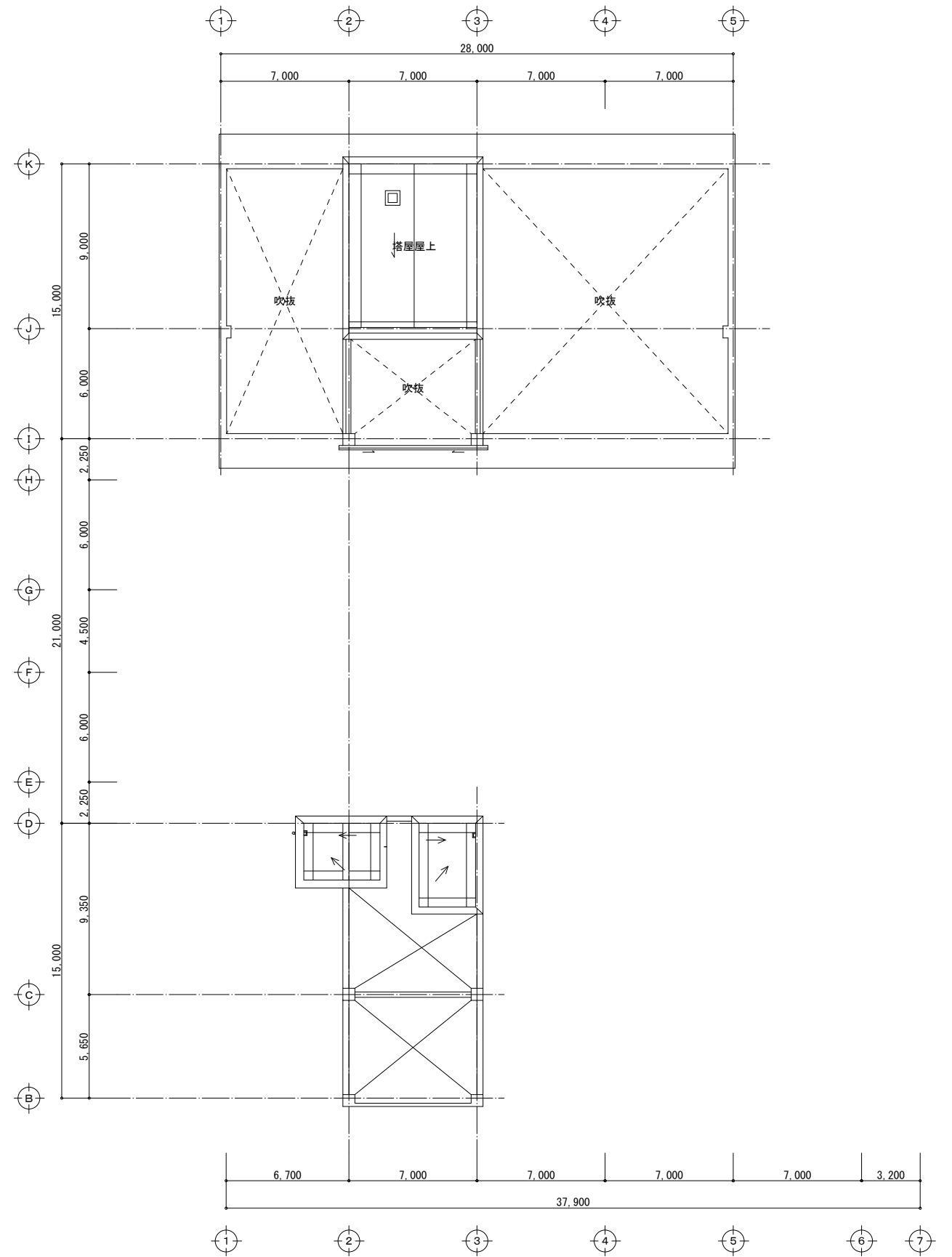
5階平面図

熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

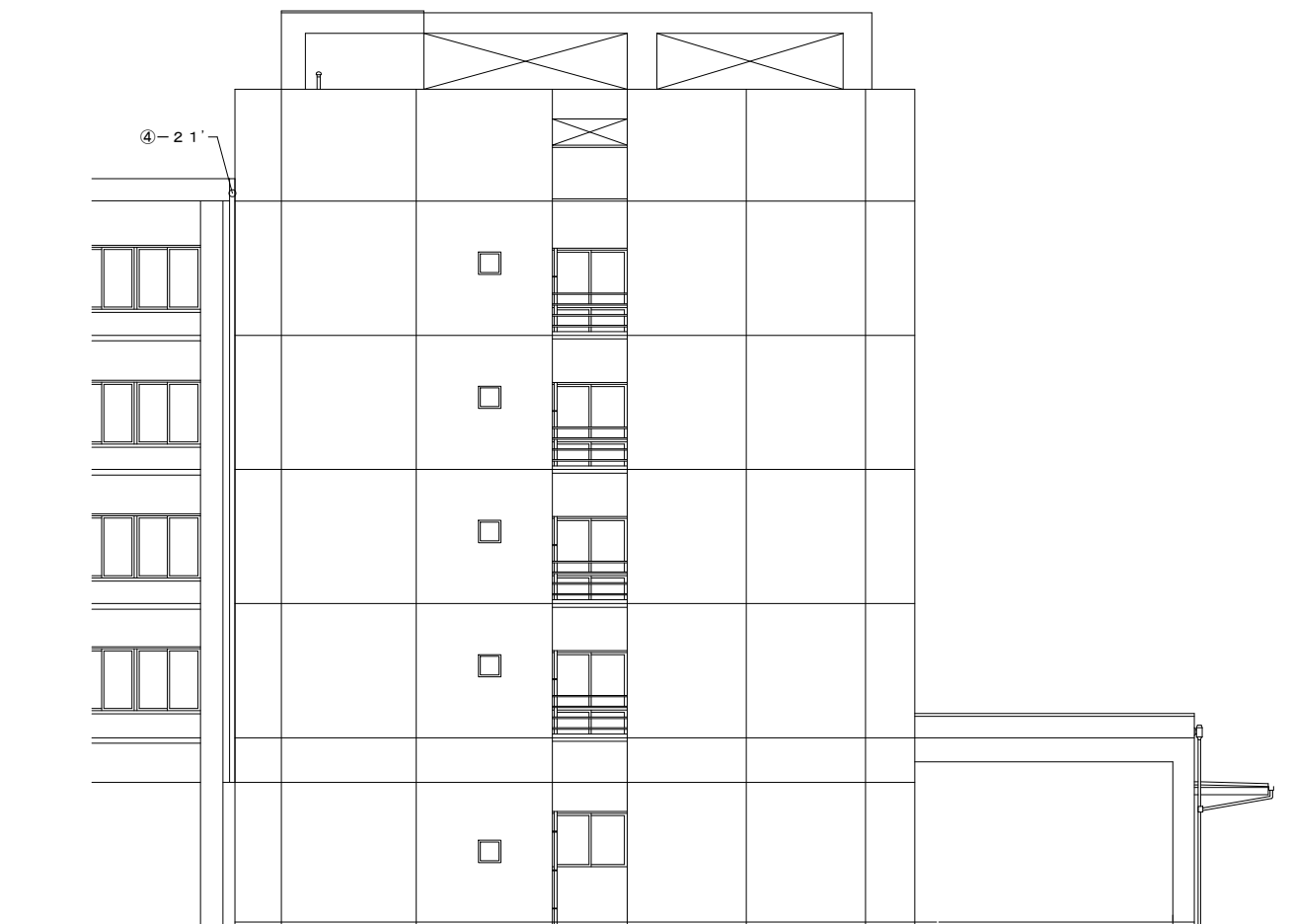
査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
④-15	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	2.93	m ²
④-16	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	1.37	m ²
④-20'	エキスパンションジョイントカバー破損 (内部)	エキスパンションジョイント カバー取替 (W=150) 壁	5.00	m
		エキスパンションジョイント カバー取替 (W=150) 天井	1.90	m



6階平面図



屋根伏図



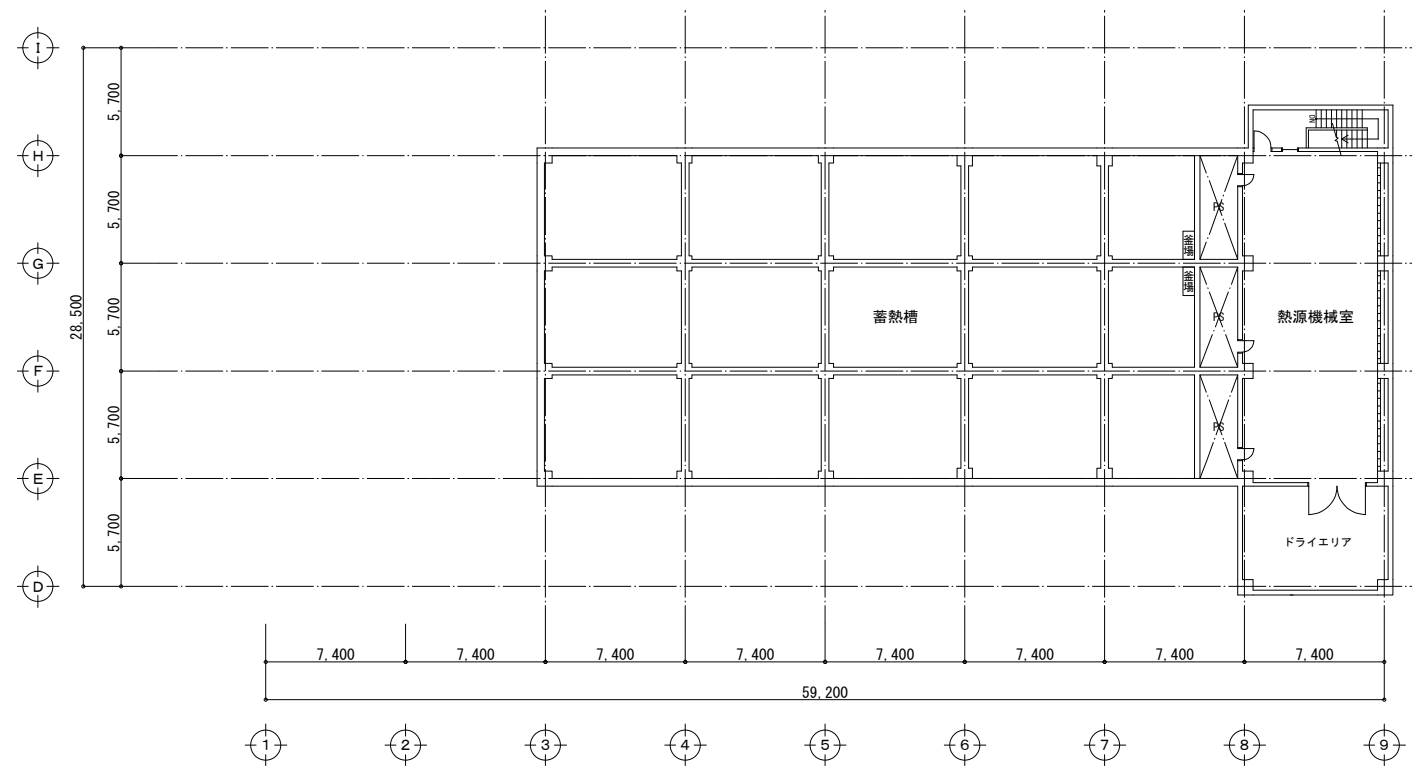
西側立面図



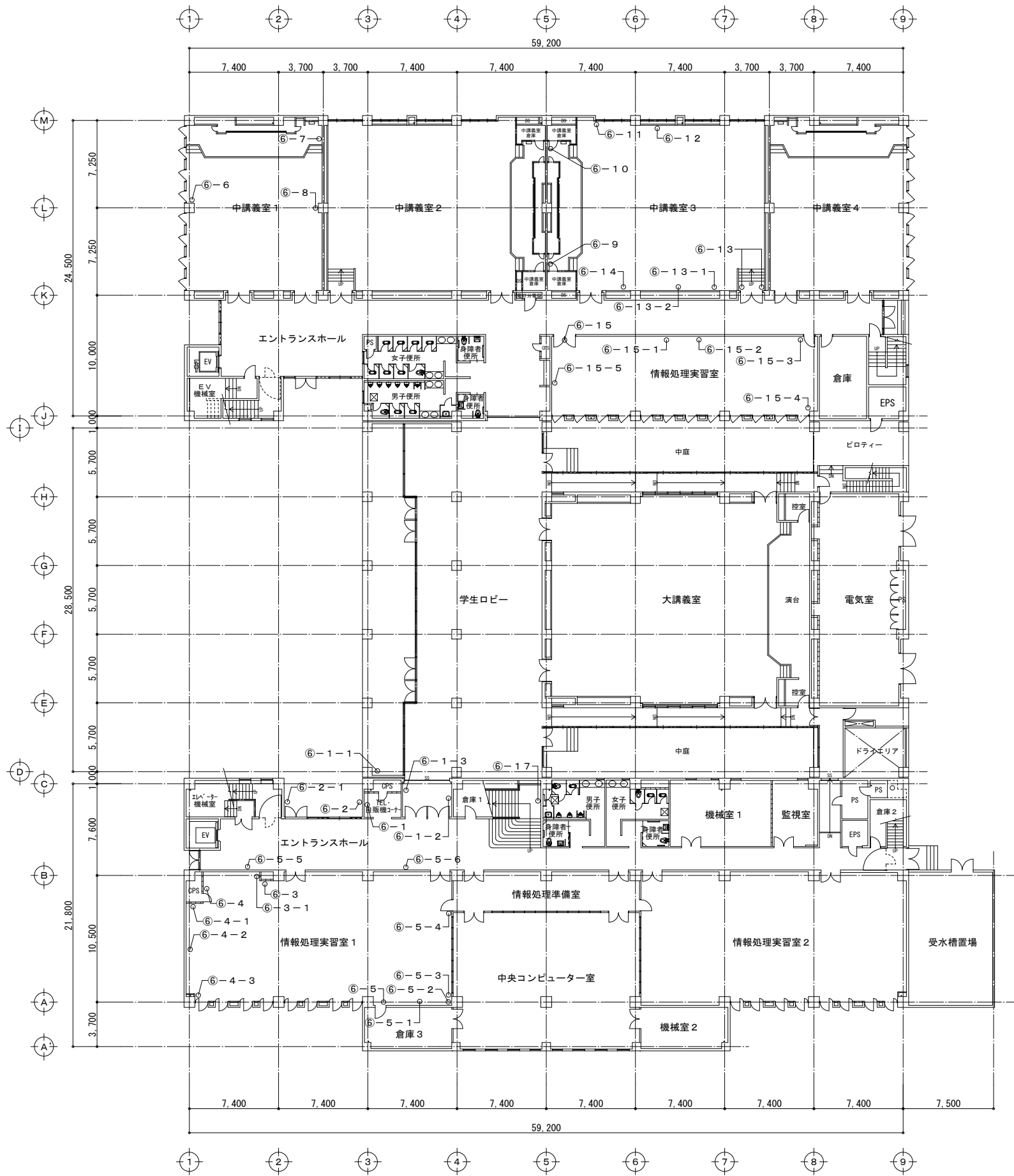
東側立面図

熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
④-21'	エキスパンションジョイント破損 (外部)	エキスパンションジョイントカバー取替 (W=150) 壁	16.15	m



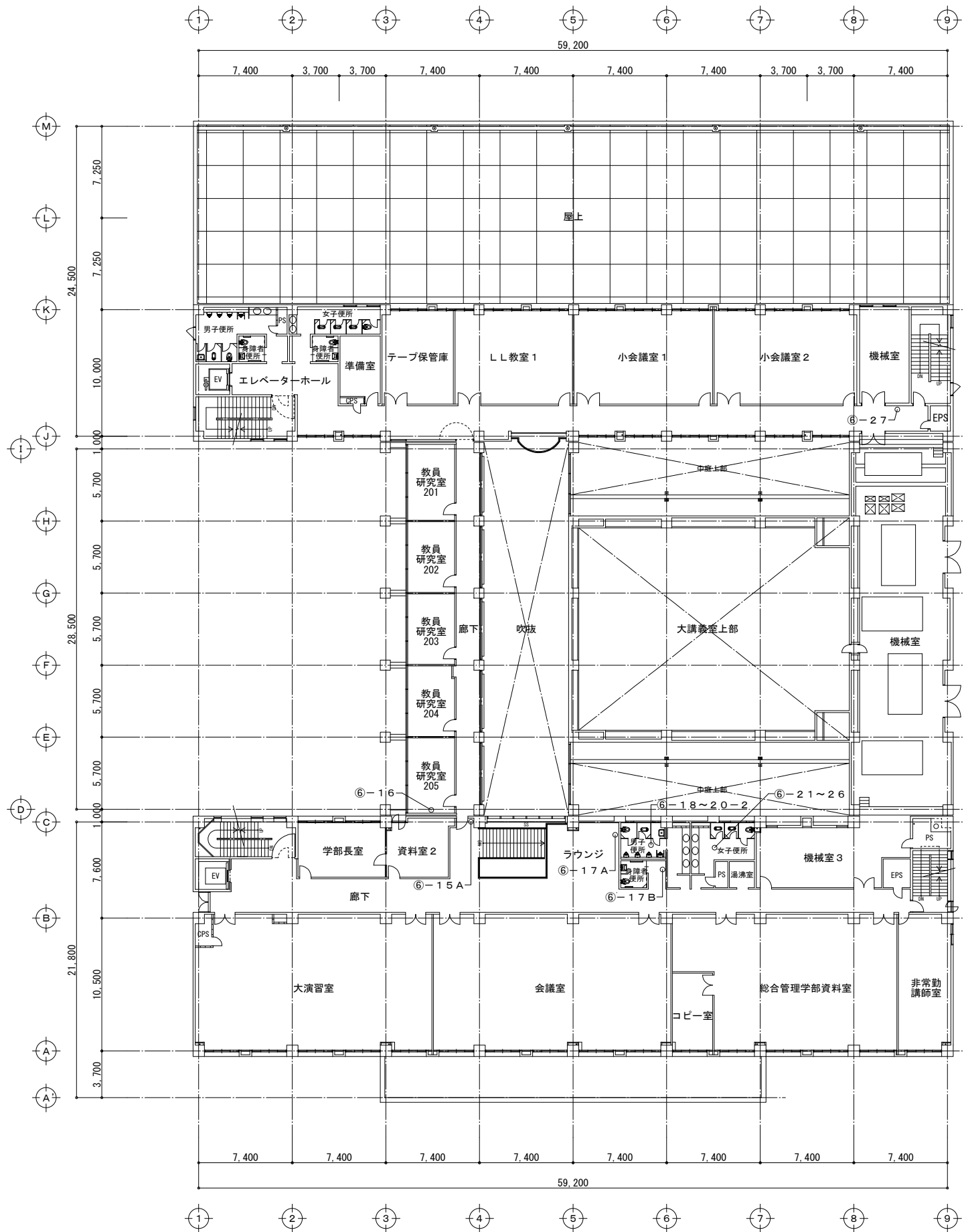
地階平面図



1階平面図

熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

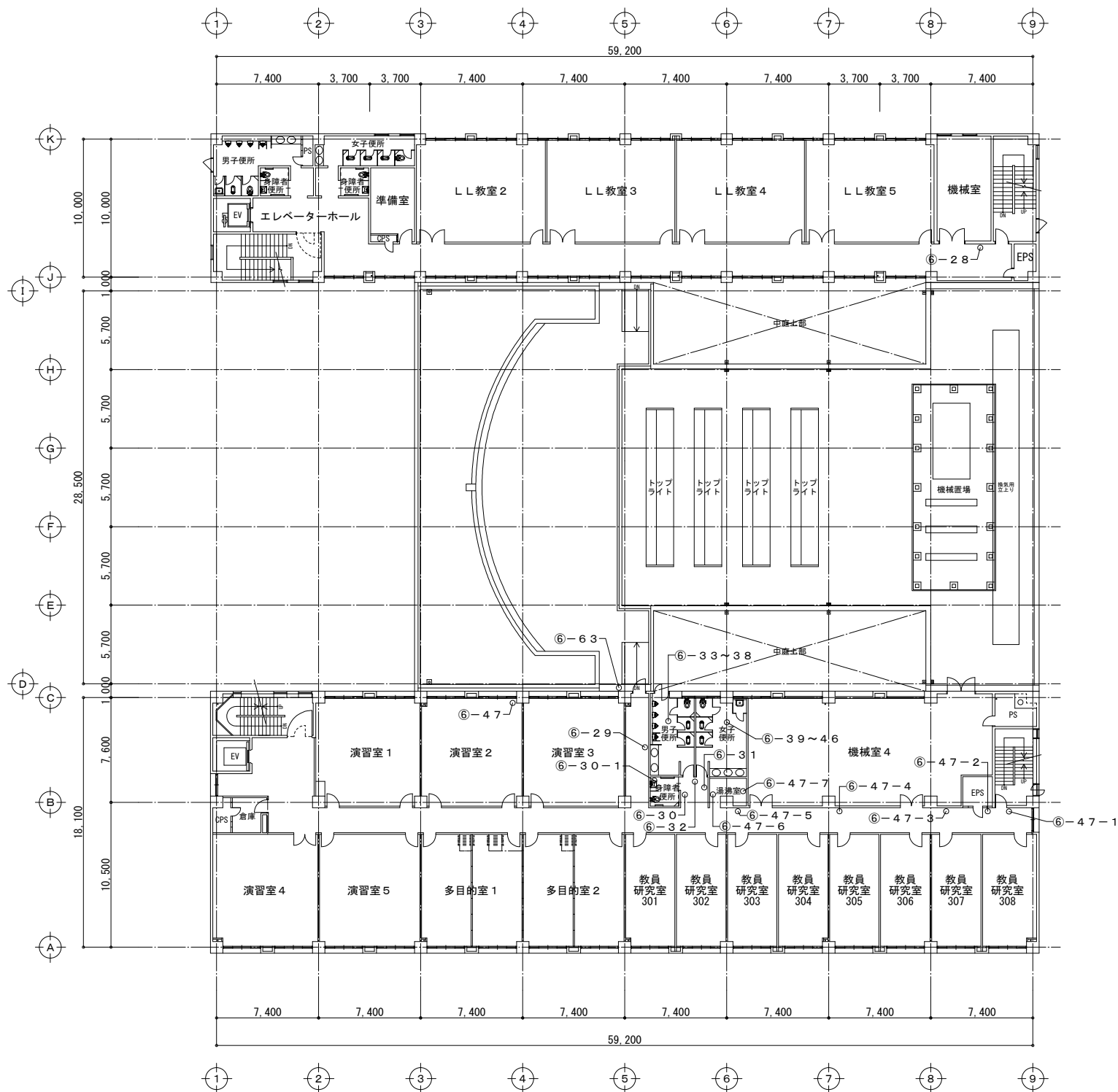
査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
⑥-1	コンクリートクラック 0.30mm未満 コンクリートクラック 0.80mm	エポキシ樹脂注入	1.85	m
		E P 塗装	3.25	m
⑥-1-1	コンクリートクラック 0.30mm未満 ビーコン剥離・浮き	ビーコン欠損部補修 (100×100)	19.00	箇所
		E P 塗装	0.27	m ²
⑥-1-2	コンクリートクラック 0.30mm未満 コンクリートクラック 0.80mm	エポキシ樹脂注入	2.00	m
		E P 塗装	6.36	m ²
⑥-1-3	コンクリートクラック 0.30mm未満 コンクリートクラック 0.60mm	エポキシ樹脂注入	0.65	m
		E P 塗装	7.08	m ²
⑥-2	コンクリートクラック 0.30mm未満 コンクリートクラック 0.60mm	エポキシ樹脂注入	2.50	m
		タイル復旧	9.15	m ²
⑥-2-1	コンクリートクラック 0.30mm未満 コンクリートクラック 0.35mm	エポキシ樹脂注入	2.10	m
		タイル復旧	9.15	m ²
⑥-3	コンクリートクラック 0.35mm コンクリートクラック 0.40mm コンクリートクラック 0.50mm	エポキシ樹脂注入	2.90	m
		E P 塗装	1.05	m ²
⑥-3-1	コンクリートクラック 0.35mm コンクリートクラック 0.40mm コンクリートクラック 0.70mm	エポキシ樹脂注入	2.30	m
		E P 塗装	2.10	m ²
⑥-4	コンクリートクラック 0.30mm コンクリートクラック 0.50mm コンクリートクラック 0.65mm	エポキシ樹脂注入	3.75	m
		E P 塗装	7.68	m ²
⑥-4-1	コンクリートクラック 0.30mm未満 コンクリートクラック 0.40mm	エポキシ樹脂注入	2.56	m
		E P 塗装	3.84	m ²
⑥-4-2	ケイカル板クラック 0.30mm未満	E P 塗装	0.44	m ²
⑥-4-3	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	0.12	m ²
⑥-5	コンクリートクラック 0.30mm未満 コンクリートクラック 0.30mm コンクリートクラック 0.35mm コンクリートクラック 0.45mm	エポキシ樹脂注入	5.80	m
		E P 塗装	19.20	m ²
⑥-5-1	コンクリートクラック 0.30mm未満 コンクリートクラック 0.30mm コンクリートクラック 0.35mm	エポキシ樹脂注入	3.30	m
		E P 塗装 (⑥-5に合算)	-	m ²
⑥-5-2	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	2.19	m ²
⑥-5-3	ケイカル板クラック 0.30mm未満	E P 塗装	0.05	m ²
⑥-5-4	ケイカル板クラック 0.30mm未満	E P 塗装	0.07	m ²
⑥-5-5	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	0.12	m ²
⑥-5-6	コンクリートクラック 0.30mm未満 コンクリートクラック 0.35mm	エポキシ樹脂注入	3.30	m
		E P 塗装	0.58	m ²
⑥-6	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	0.33	m ²
⑥-7	ケイカル板クラック 0.30mm未満	E P 塗装	21.63	m ²
⑥-8	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	0.49	m ²
⑥-9	コンクリートクラック 0.30mm	エポキシ樹脂注入 E P 塗装	1.30 0.14	m m ²
⑥-10	コンクリートクラック 0.30mm未満 コンクリートクラック 0.30mm コンクリートクラック 0.40mm	エポキシ樹脂注入	3.60	m
		E P 塗装	0.44	m ²
⑥-11	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	0.09	m ²
⑥-12	コンクリートクラック 0.30mm未満 コンクリートクラック 0.55mm	エポキシ樹脂注入	2.85	m
		E P 塗装	1.62	m ²
⑥-13	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	0.60	m ²
⑥-13-1	ケイカル板クラック 0.30mm未満	E P 塗装	0.06	m ²
⑥-13-2	コンクリートクラック 0.30mm未満 コンクリートクラック 0.35mm	エポキシ樹脂注入	4.80	m
		E P 塗装	2.63	m ²
⑥-14	コンクリートクラック 0.30mm未満 コンクリートクラック 0.30mm コンクリートクラック 0.30mm	エポキシ樹脂注入	0.20	m
		E P 塗装	0.62	m ²
⑥-15	コンクリートクラック 0.30mm未満 コンクリートクラック 0.30mm コンクリートクラック 0.45mm	エポキシ樹脂注入	5.05	m
		E P 塗装	6.53	m ²
⑥-15-1	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	1.82	m ²
⑥-15-2	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	31.30	m ²
⑥-15-3	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装 (⑥-15-2に合算)	-	m ²
⑥-15-4	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	0.10	m ²
⑥-15-5	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	15.18	m ²
⑥-17	コンクリートクラック 0.30mm未満 コンクリートクラック 0.35mm	エポキシ樹脂注入	7.60	m
		E P 塗装	7.57	m ²



2階平面図

熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

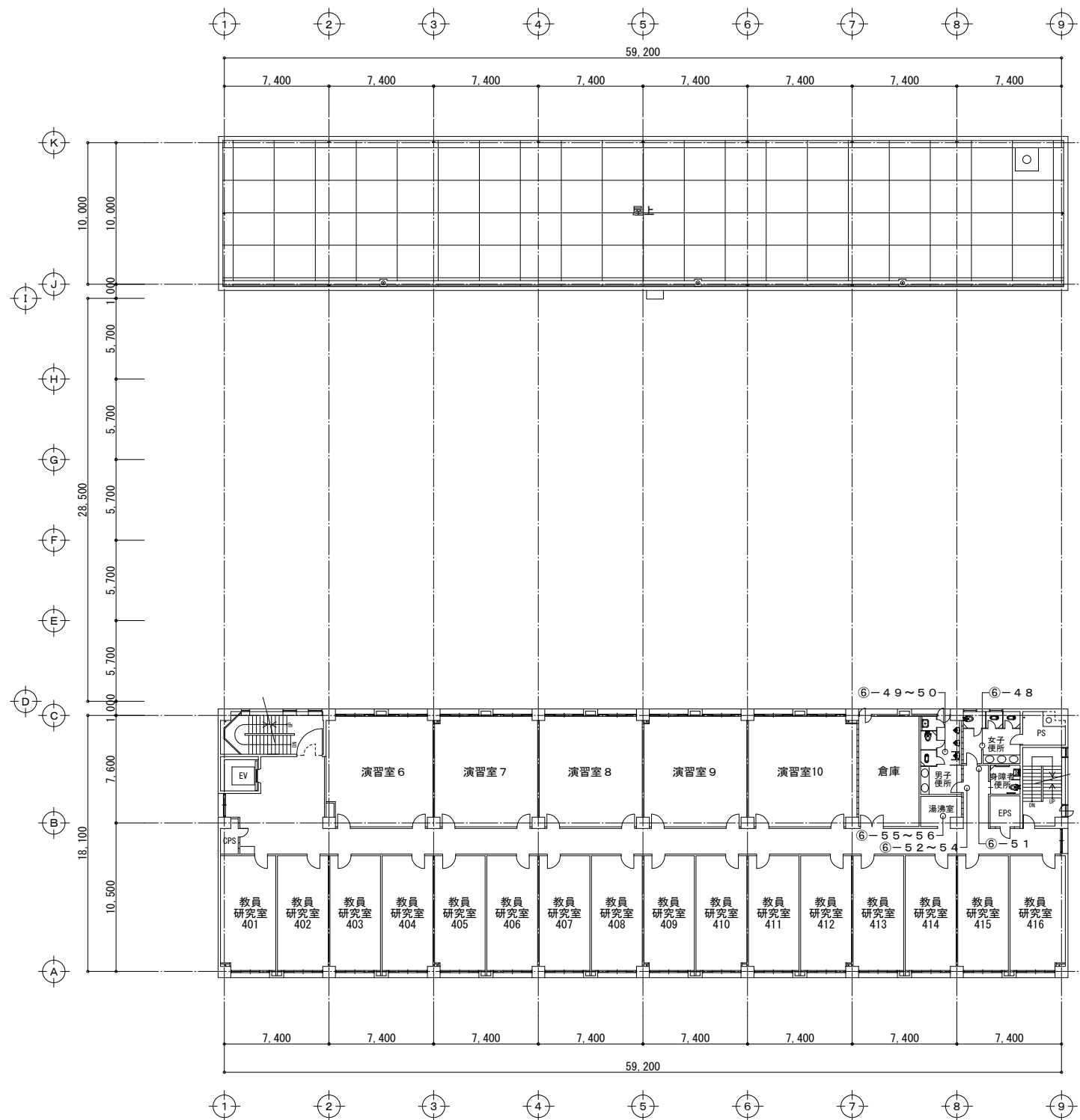
査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
⑥-15A	コンクリートクラック 0.30mm未満 ビーコン剥離・浮き	ビーコン欠損部補修 (100×100)	5.00	箇所
		E P 塗装	0.13	m ²
⑥-16	コンクリートクラック 0.30mm未満 コンクリートクラック 0.50mm コンクリート欠損 ビーコン剥離・浮き	エポキシ樹脂注入	10.60	m
		欠損部補修 (150×150)	1.00	箇所
		ビーコン欠損部補修 (100×100)	14.00	箇所
		E P 塗装	8.88	m ²
⑥-17A	コンクリートクラック 0.30mm未満 コンクリートクラック 0.60mm	エポキシ樹脂注入	3.40	m
		E P 塗装	0.53	m ²
⑥-17B	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	0.36	m ²
⑥-18	タイル浮き・亀裂	タイル復旧	2.11	m ²
⑥-18-1	タイル浮き・亀裂	タイル復旧	0.98	m ²
⑥-19	タイル浮き・亀裂	タイル復旧	0.04	m ²
⑥-19-1	タイル浮き・亀裂	タイル復旧	0.09	m ²
⑥-20	タイル浮き・亀裂	タイル復旧	1.32	m ²
⑥-20-1	タイル浮き・亀裂	タイル復旧	0.05	m ²
⑥-20-2	タイル浮き・亀裂	タイル復旧	1.76	m ²
⑥-21	タイル浮き・亀裂	タイル復旧	3.08	m ²
⑥-22	タイル浮き・亀裂	タイル復旧	0.19	m ²
⑥-22-1	タイル浮き・亀裂	タイル復旧	0.19	m ²
⑥-22-2	タイル浮き・亀裂	タイル復旧	0.19	m ²
⑥-23	タイル浮き・亀裂	タイル復旧	0.19	m ²
⑥-24	タイル浮き・亀裂	タイル復旧	0.02	m ²
⑥-25	タイル浮き・亀裂	タイル復旧	0.30	m ²
⑥-25-1	タイル浮き・亀裂	タイル復旧	0.35	m ²
⑥-26	タイル浮き・亀裂	タイル復旧	0.04	m ²
⑥-27	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	0.30	m ²



3階平面図

熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

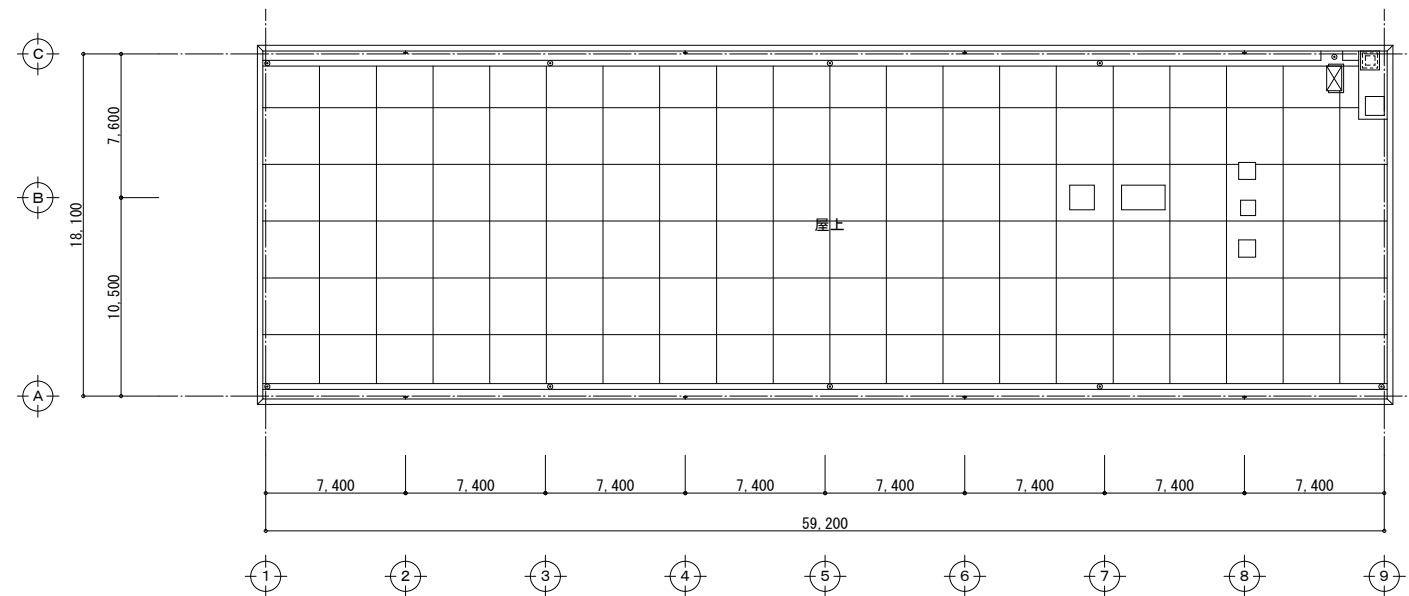
査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
6-28	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	0.30	m ²
6-29	コンクリートクラック 0.30mm未満	エポキシ樹脂注入	9.20	m
	コンクリートクラック 0.40mm	E P 塗装	20.70	m ²
6-30	コンクリートクラック 0.30mm未満	エポキシ樹脂注入	1.00	m
	コンクリートクラック 0.40mm	E P 塗装	2.66	m ²
6-30-1	コンクリートクラック 0.30mm未満	エポキシ樹脂注入	2.80	m
	コンクリートクラック 0.45mm	E P 塗装	4.14	m ²
6-31	コンクリートクラック 0.45mm	エポキシ樹脂注入	3.60	m
6-32	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	5.29	m ²
	コンクリートクラック 0.35mm	エポキシ樹脂注入	2.10	m
6-33	コンクリートクラック 0.35mm	E P 塗装	1.63	m ²
	タイル浮き・亀裂	タイル復旧	3.38	m ²
6-34	タイル浮き・亀裂	タイル復旧	1.98	m ²
6-35	タイル剥離・亀裂	タイル復旧	5.20	m ²
6-36	タイル浮き・亀裂	タイル復旧	0.12	m ²
6-36-1	タイル浮き・亀裂	タイル復旧	1.75	m ²
6-37	タイル浮き・亀裂	タイル復旧	0.79	m ²
6-38	タイル浮き・亀裂	タイル復旧	4.00	m ²
6-39、40	タイル浮き・亀裂	タイル復旧	1.32	m ²
6-41、42	タイル浮き・亀裂	タイル復旧	2.60	m ²
6-43~45	タイル浮き・亀裂	タイル復旧	6.25	m ²
6-46	タイル浮き・亀裂	タイル復旧	4.00	m ²
6-47	モルタル浮き・亀裂	モルタル浮き復旧	0.04	m ²
6-47-1	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	4.84	m ²
6-47-2	コンクリートクラック 0.40mm	エポキシ樹脂注入	2.10	m
	コンクリートクラック 0.40mm	E P 塗装	3.46	m ²
6-47-3	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	7.18	m ²
6-47-4	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	21.39	m ²
6-47-5	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	5.54	m ²
6-47-6	コンクリートクラック 0.30mm未満	エポキシ樹脂注入	2.00	m
	コンクリートクラック 0.35mm	E P 塗装	3.91	m ²
6-47-7	コンクリートクラック 0.35mm	エポキシ樹脂注入	1.70	m
	コンクリートクラック 0.35mm	E P 塗装	2.55	m ²
6-63	エキスパンションジョイントカバー変形	エキスパンションジョイント カバー調整	3.35	m



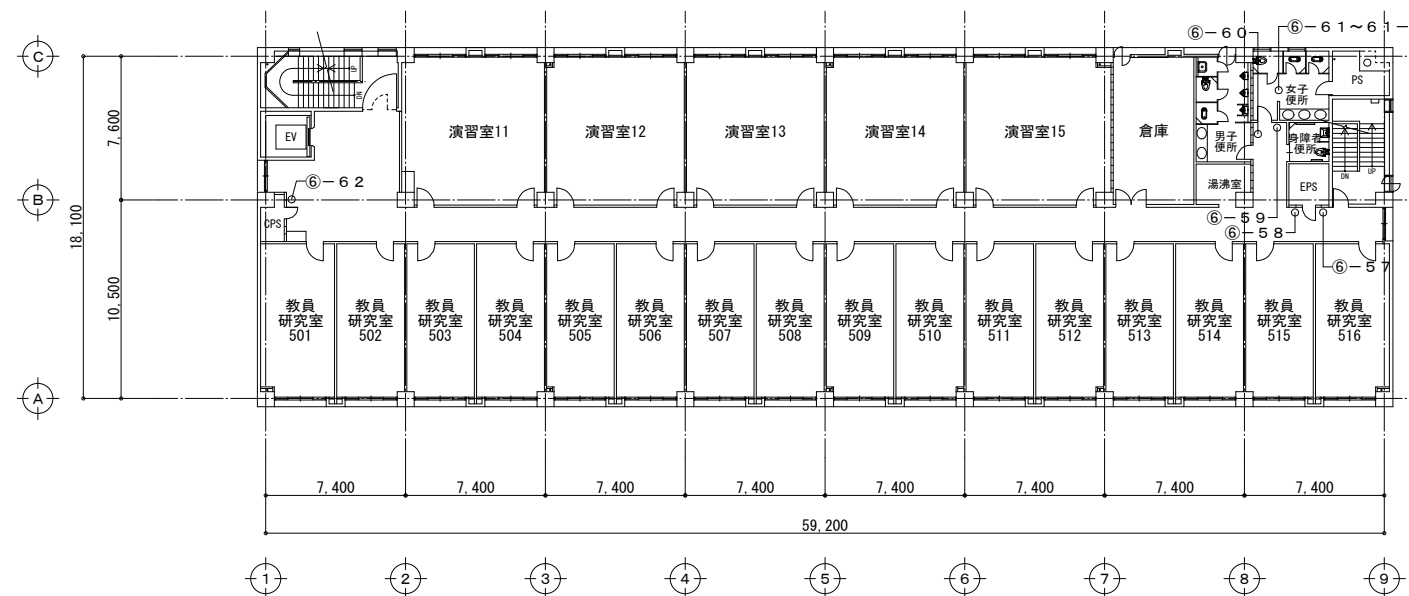
4階平面図

熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
⑥-48	タイル浮き・亀裂	タイル復旧	0.22	m ²
⑥-49	タイル浮き・亀裂	タイル復旧	0.50	m ²
⑥-50	タイル浮き・亀裂	タイル復旧	0.50	m ²
⑥-51	コンクリートクラック 0.30mm未満 コンクリートクラック 0.50mm	エポキシ樹脂注入	0.40	m
		E P 塗装	2.54	m ²
⑥-52	コンクリートクラック 0.35mm	エポキシ樹脂注入	1.10	m
		E P 塗装	2.53	m ²
⑥-53	コンクリートクラック 0.35mm	エポキシ樹脂注入	0.30	m
		E P 塗装 (⑥-54に合算)	-	m ²
⑥-54	コンクリートクラック 0.35mm	エポキシ樹脂注入	0.30	m
		E P 塗装	6.91	m ²
⑥-55	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	6.67	m ²
⑥-55-1	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	3.45	m ²
⑥-56	コンクリートクラック 0.35mm	エポキシ樹脂注入	1.00	m
		E P 塗装	1.05	m ²



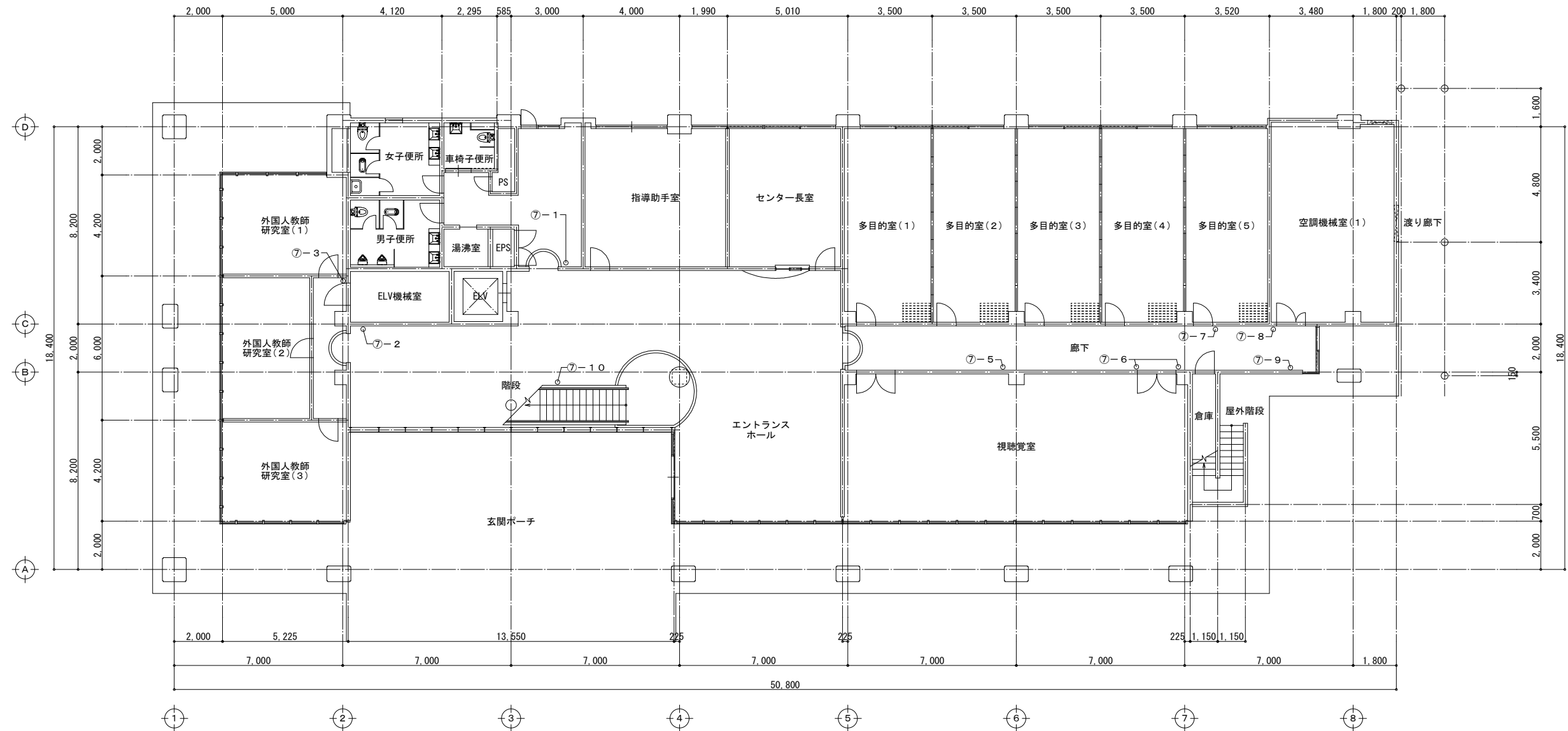
屋根伏図



5階平面図

熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

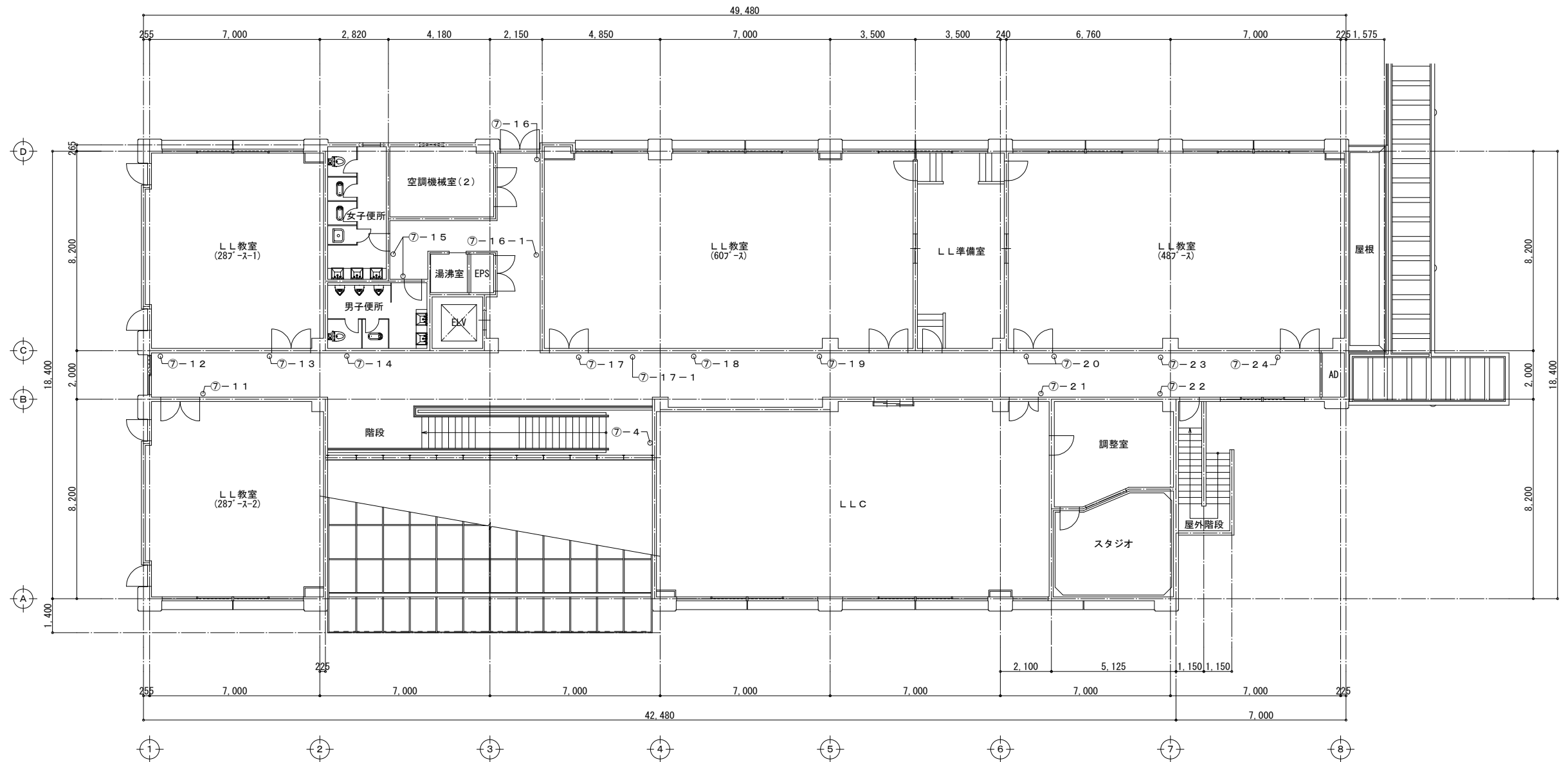
査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
⑥-57	コンクリートクラック 0.50mm	エポキシ樹脂注入	0.70	m
		E P 塗装	3.23	m ²
⑥-58	コンクリートクラック 0.50mm	エポキシ樹脂注入	0.20	m
		E P 塗装 (⑥-57に合算)	-	m ²
⑥-59	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	0.23	m ²
⑥-60	コンクリートクラック 0.30mm未満 コンクリートクラック 0.50mm	エポキシ樹脂注入	1.10	m
		E P 塗装	6.91	m ²
⑥-61	タイル浮き・剥離	タイル復旧	0.34	m ²
⑥-61-1	タイル割れ	タイル復旧	0.09	m ²
⑥-62	コンクリートクラック 0.30mm未満 コンクリートクラック 0.50mm コンクリートクラック 0.70mm	エポキシ樹脂注入	2.30	m
		E P 塗装	3.23	m ²



熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
⑦-1	コンクリートクラック 0.30mm未満 コンクリートクラック 0.50mm	エポキシ樹脂注入	0.40	m
		E P 塗装	4.36	m ²
⑦-2	コンクリートクラック 0.30mm未満	タイル復旧	2.24	m ²
⑦-3	コンクリートクラック 0.70mm	エポキシ樹脂注入	1.60	m
		E P 塗装	1.61	m ²
⑦-5	コンクリートクラック 0.50mm	エポキシ樹脂注入	2.50	m
		E P 塗装	1.13	m ²
⑦-6	コンクリートクラック 0.65mm	エポキシ樹脂注入	1.00	m
		E P 塗装	1.00	m ²
⑦-7	コンクリートクラック 0.30mm未満 コンクリートクラック 0.55mm	エポキシ樹脂注入	0.50	m
		E P 塗装	0.80	m ²
⑦-8	コンクリートクラック 0.50mm	エポキシ樹脂注入	1.20	m
		E P 塗装	0.80	m ²
⑦-9	コンクリートクラック 0.50mm	エポキシ樹脂注入	1.90	m
		E P 塗装	5.50	m ²
⑦-10	コンクリートクラック 0.55mm	エポキシ樹脂注入	6.30	m
		E P 塗装	4.50	m ²

1階平面図



熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

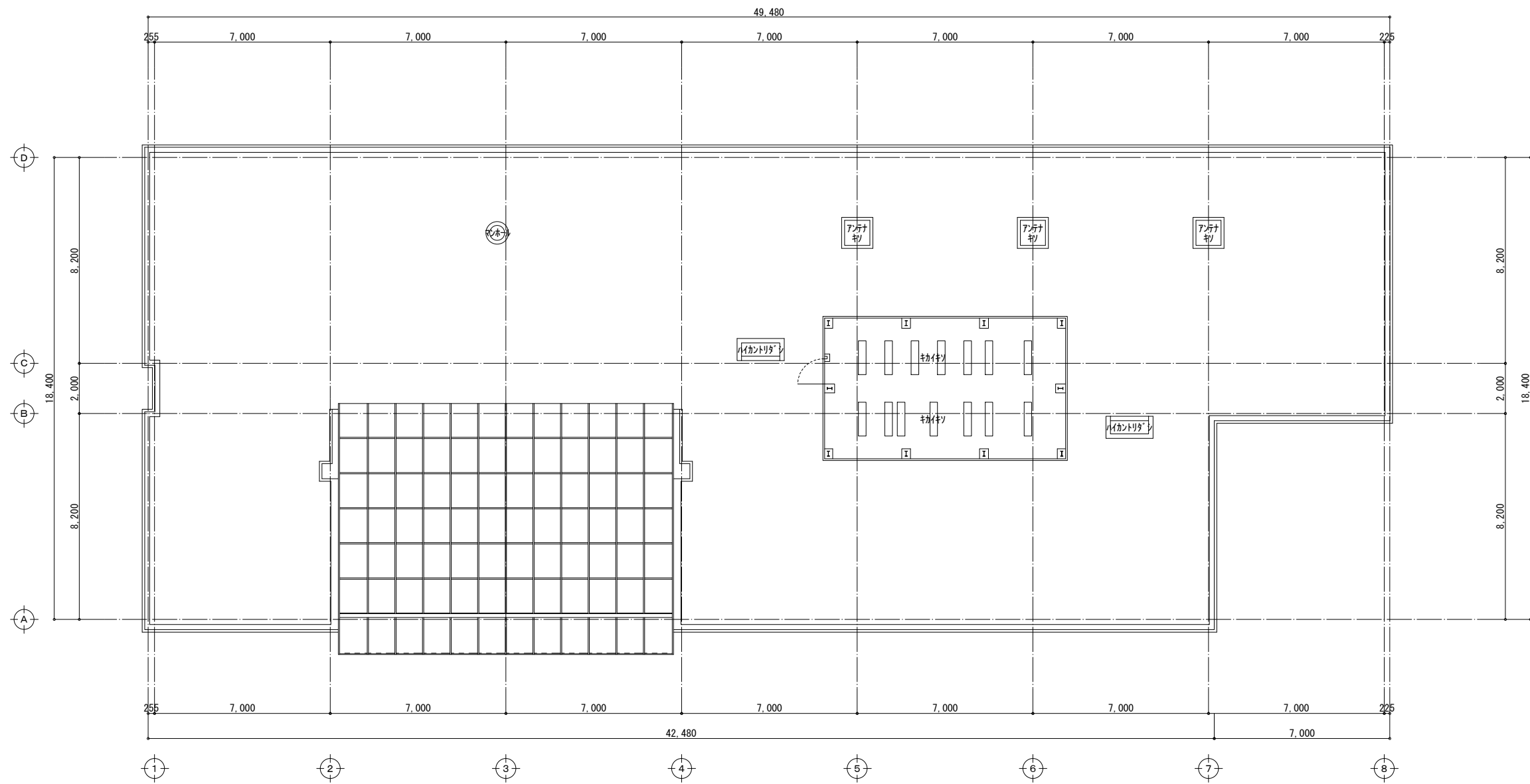
査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
⑦-4	タイル剥離	タイル復旧	0.01	m ²
⑦-11	コンクリートクラック 0.30mm未満	エポキシ樹脂注入	0.50	m
	コンクリートクラック 0.50mm	E P 塗装	4.00	m ²
⑦-12	コンクリートクラック 0.60mm	エポキシ樹脂注入	1.00	m
		E P 塗装	2.40	m ²
⑦-13	コンクリートクラック 0.30mm未満	エポキシ樹脂注入	0.50	m
	コンクリートクラック 0.75mm	E P 塗装	2.56	m ²
⑦-14	コンクリートクラック 0.45mm	エポキシ樹脂注入	1.20	m
		E P 塗装	6.00	m ²
⑦-15	コンクリートクラック 0.80mm	エポキシ樹脂注入	1.00	m
		E P 塗装	0.75	m ²
⑦-16	コンクリートクラック 0.30mm未満	エポキシ樹脂注入	1.60	m
	コンクリートクラック 1.00mm	E P 塗装	3.84	m ²
⑦-16-1	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	3.84	m ²
⑦-17	コンクリートクラック 0.30mm未満	エポキシ樹脂注入	1.00	m
	コンクリートクラック 0.60mm	E P 塗装	3.04	m ²

熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

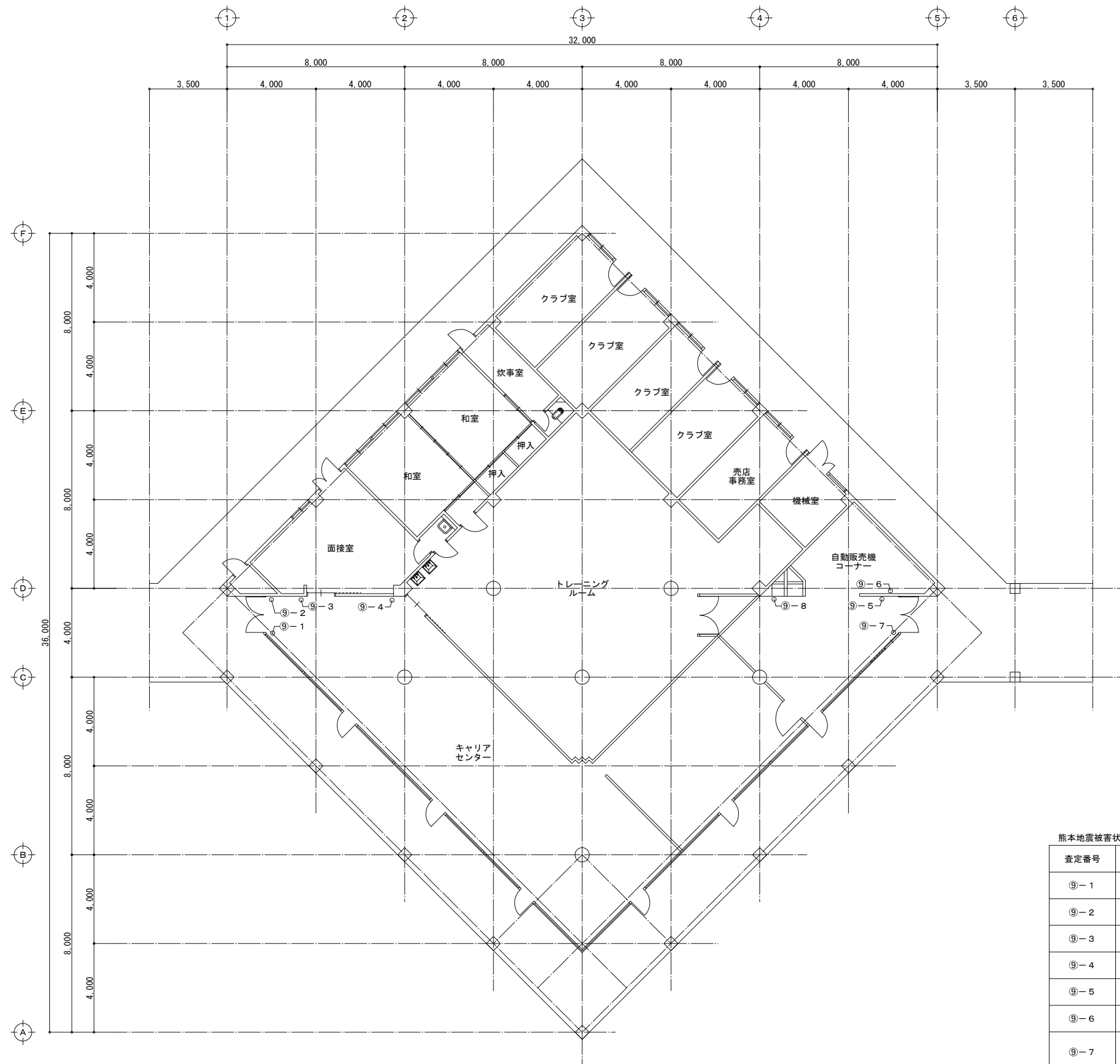
査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
⑦-17-1	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	5.28	m ²
⑦-18	コンクリートクラック 1.20mm	エポキシ樹脂注入	2.40	m
		E P 塗装	1.20	m ²
⑦-19	コンクリートクラック 0.30mm未満	E P 塗装	0.48	m ²
⑦-20	コンクリートクラック 0.30mm未満	エポキシ樹脂注入	1.00	m
	コンクリートクラック 0.90mm	E P 塗装	1.50	m ²
⑦-21	コンクリートクラック 0.30mm未満	エポキシ樹脂注入	0.50	m
	コンクリートクラック 0.80mm	E P 塗装	0.95	m ²
⑦-22	コンクリートクラック 0.30mm未満	エポキシ樹脂注入	1.50	m
	コンクリートクラック 0.55mm	E P 塗装	5.68	m ²
⑦-23	コンクリートクラック 0.50mm	エポキシ樹脂注入	4.80	m
		E P 塗装	3.12	m ²
⑦-24	コンクリートクラック 0.30mm未満	エポキシ樹脂注入	1.50	m
	コンクリートクラック 1.00mm	E P 塗装	6.00	m ²

2階平面図

凡例
※タイルが剥離している箇所においては、打診調査を行うこと。



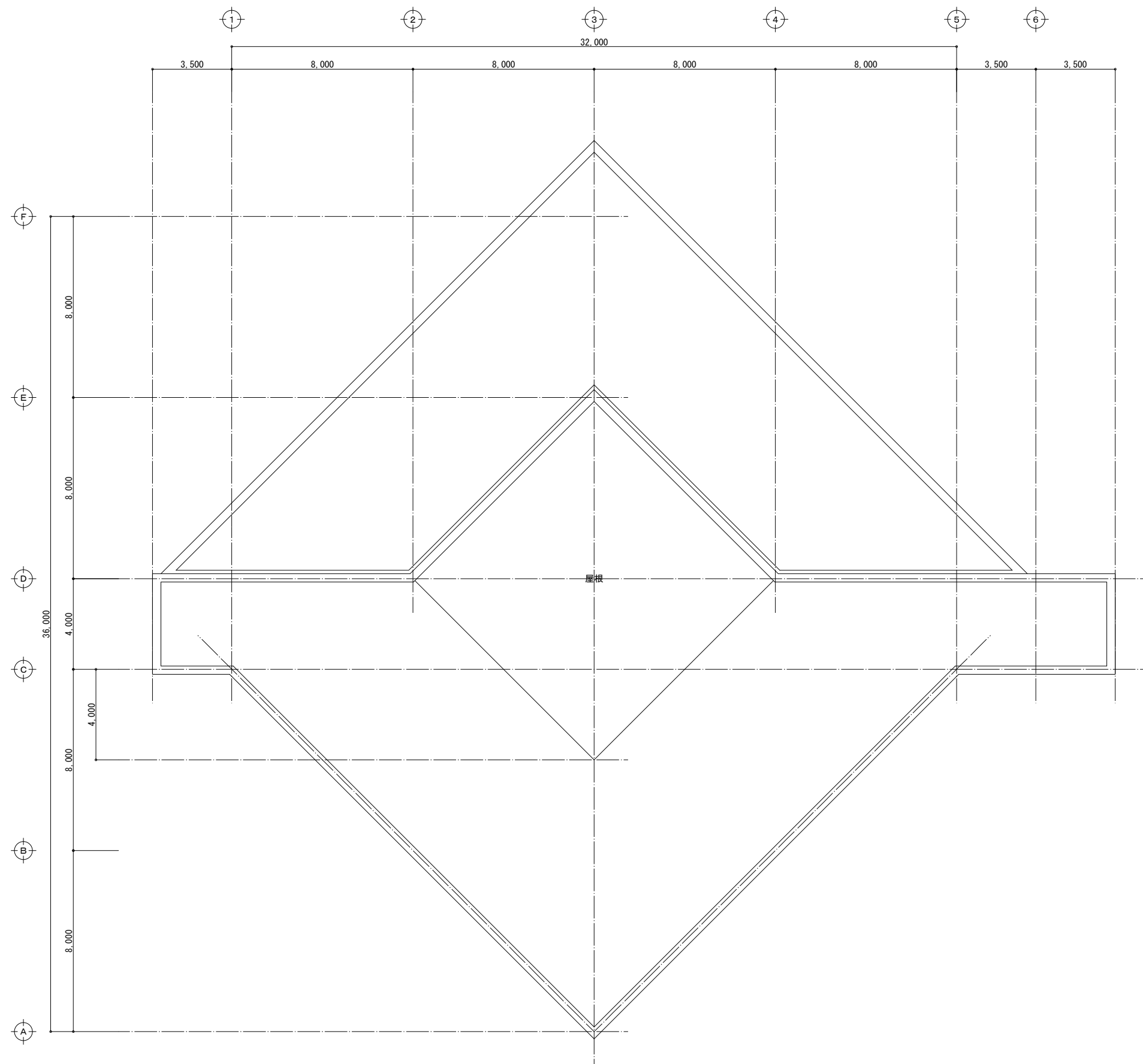
屋根伏図



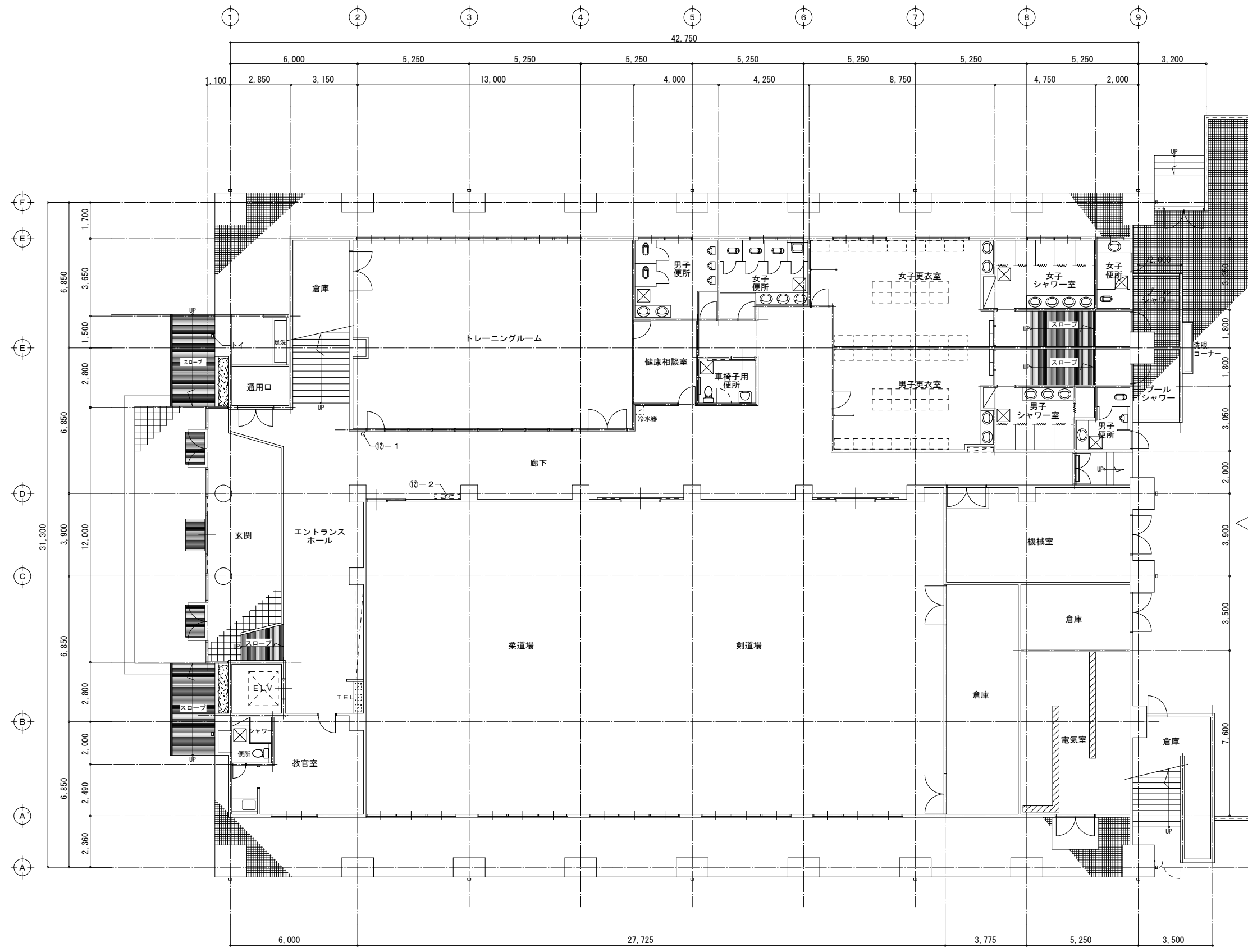
1階平面図

熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
⑨-1	コンクリートクラック 0.75mm	エポキシ樹脂注入	1.00	m
		EP塗装	0.25	m ²
⑨-2	コンクリートクラック 0.75mm	エポキシ樹脂注入	0.50	m
		EP塗装	0.30	m ²
⑨-3	コンクリートクラック 0.30mm未満	EP塗装	1.80	m ²
⑨-4	コンクリートクラック 0.50mm	エポキシ樹脂注入	3.00	m
		EP塗装	1.50	m ²
⑨-5	コンクリートクラック 0.30mm	エポキシ樹脂注入	6.90	m
		EP塗装	3.36	m ²
⑨-6	コンクリートクラック 0.30mm	エポキシ樹脂注入	10.00	m
		EP塗装	4.18	m ²
⑨-7	コンクリートクラック 0.30mm	エポキシ樹脂注入	1.00	m
		EP塗装	0.40	m ²
		欠損部補修 (狭幅部)	0.50	m
⑨-8	コンクリートクラック 0.30mm未満	EP塗装	1.95	m ²



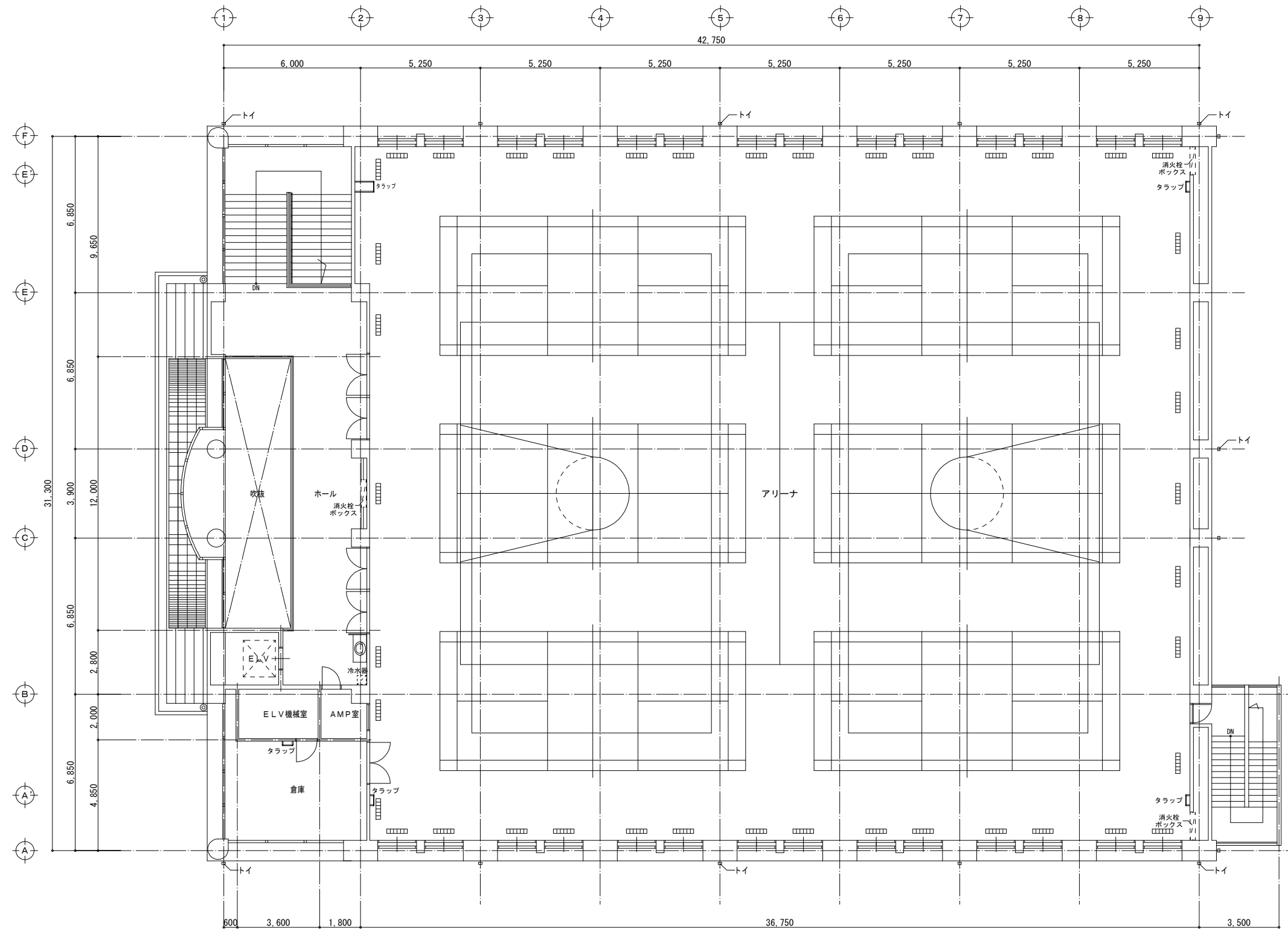
屋根伏図



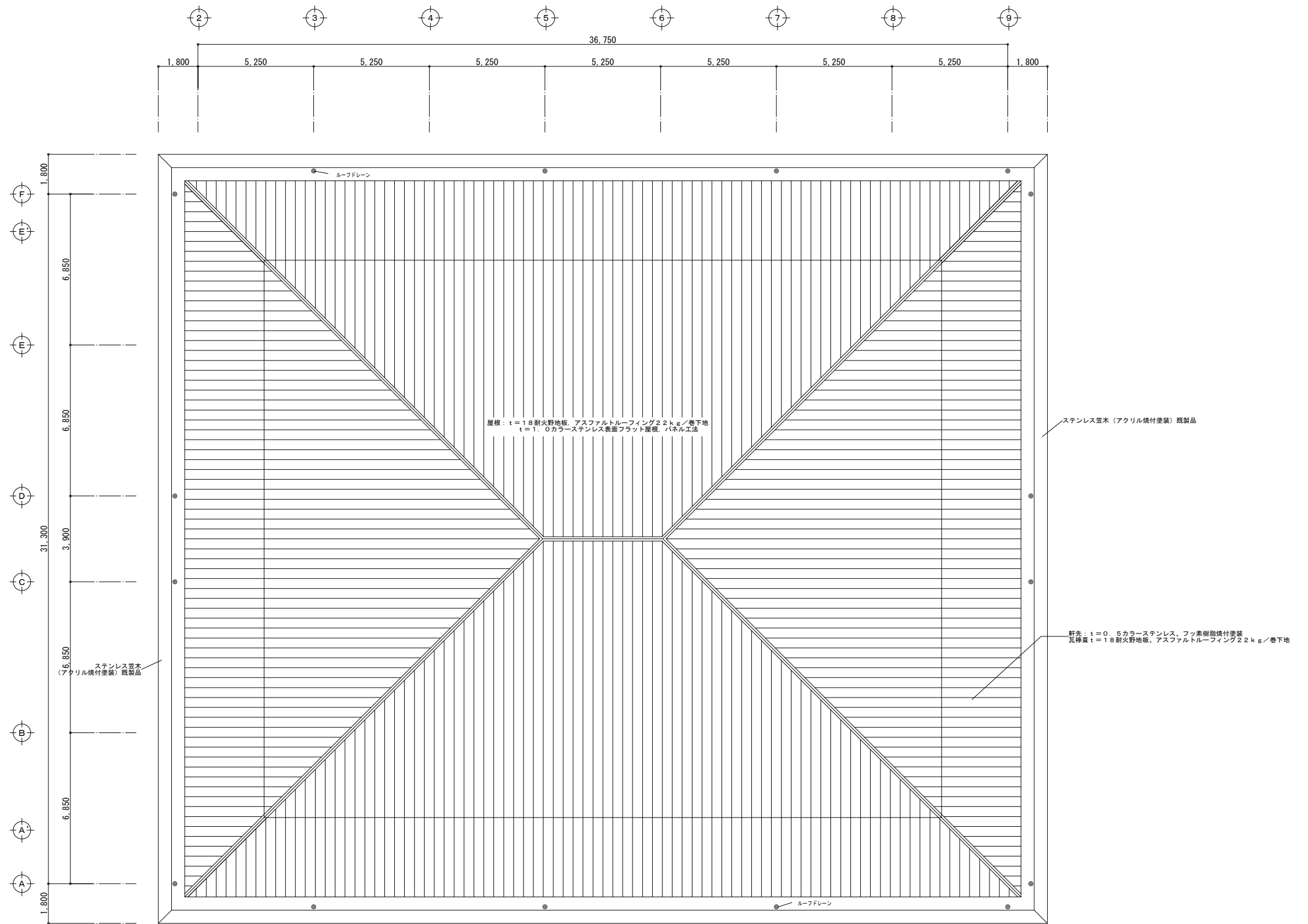
1階平面図

熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

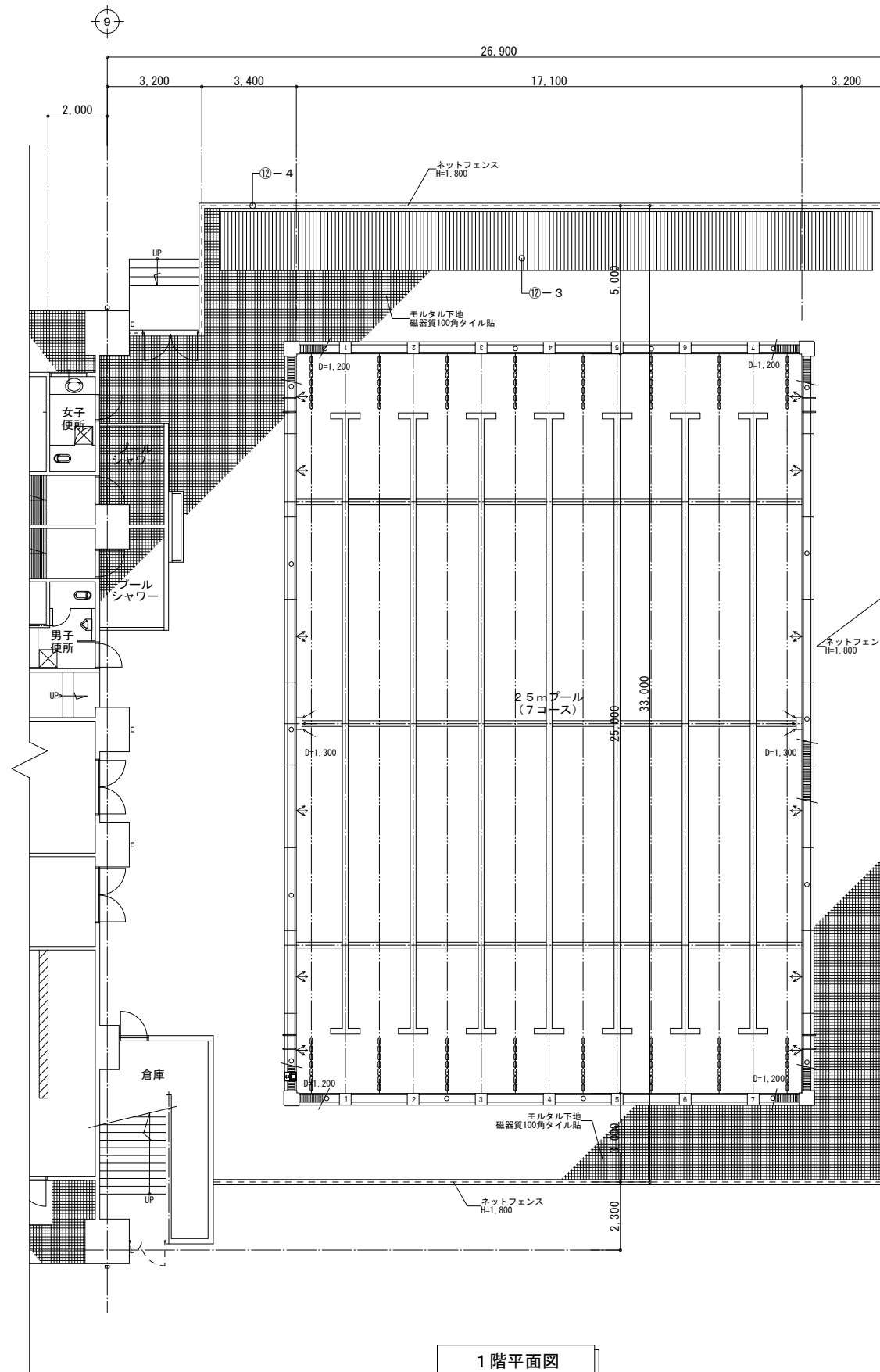
査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
⑫-1	コンクリートクラック 0.30mm未満 コンクリートクラック 0.50mm	エポキシ樹脂注入	1.20	m
		E P 塗装	6.27	m ²
⑫-2	コンクリートクラック 0.50mm	エポキシ樹脂注入	1.70	m
		E P 塗装	4.11	m ²



2階平面図



屋根伏図

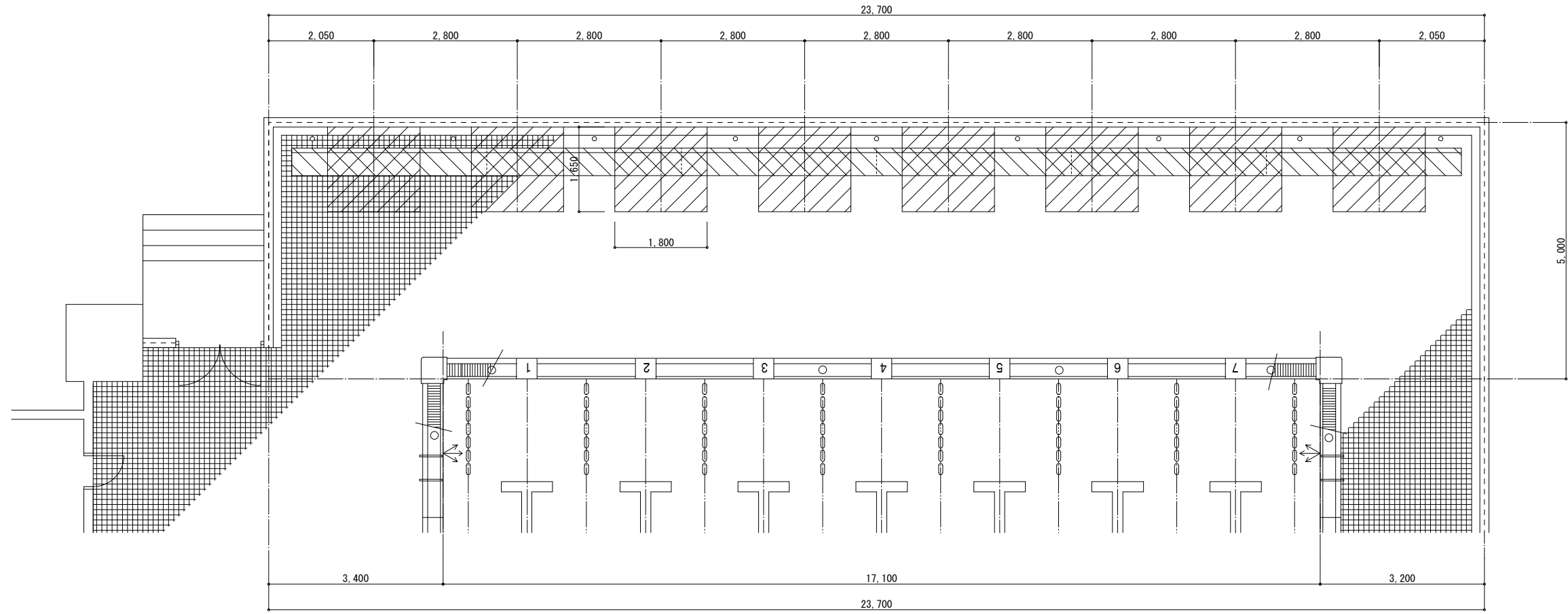


1階平面図

熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
⑫-3	プールサイド日除け傾斜	日除け撤去・復旧	1.00	箇所
⑫-4	ネットフェンス倒れ	ネットフェンス倒れ直し	1.00	列

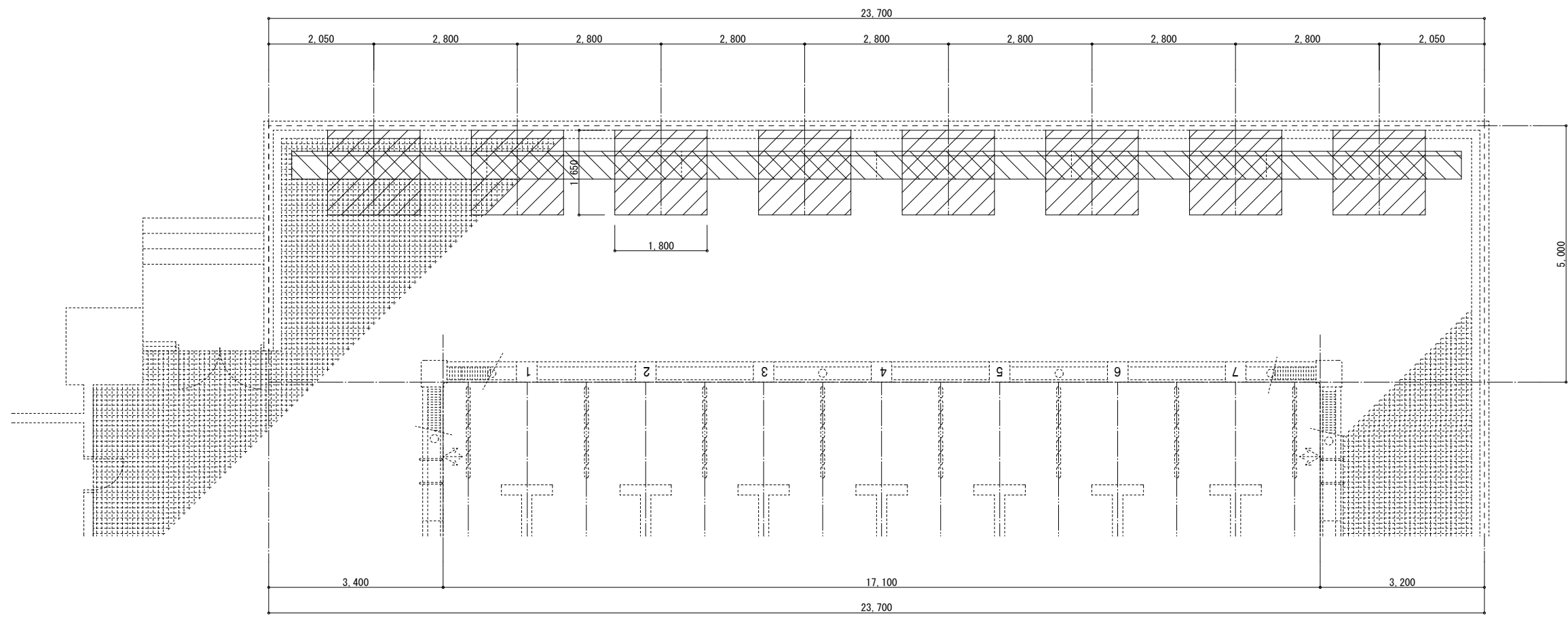
改修前



凡例
 斜線 タイル及びスラブ撤去範囲を示す。
 (周辺部鉄筋は残しとする。)
 斜線 コースロープ収納ボックス移設範囲を示す。



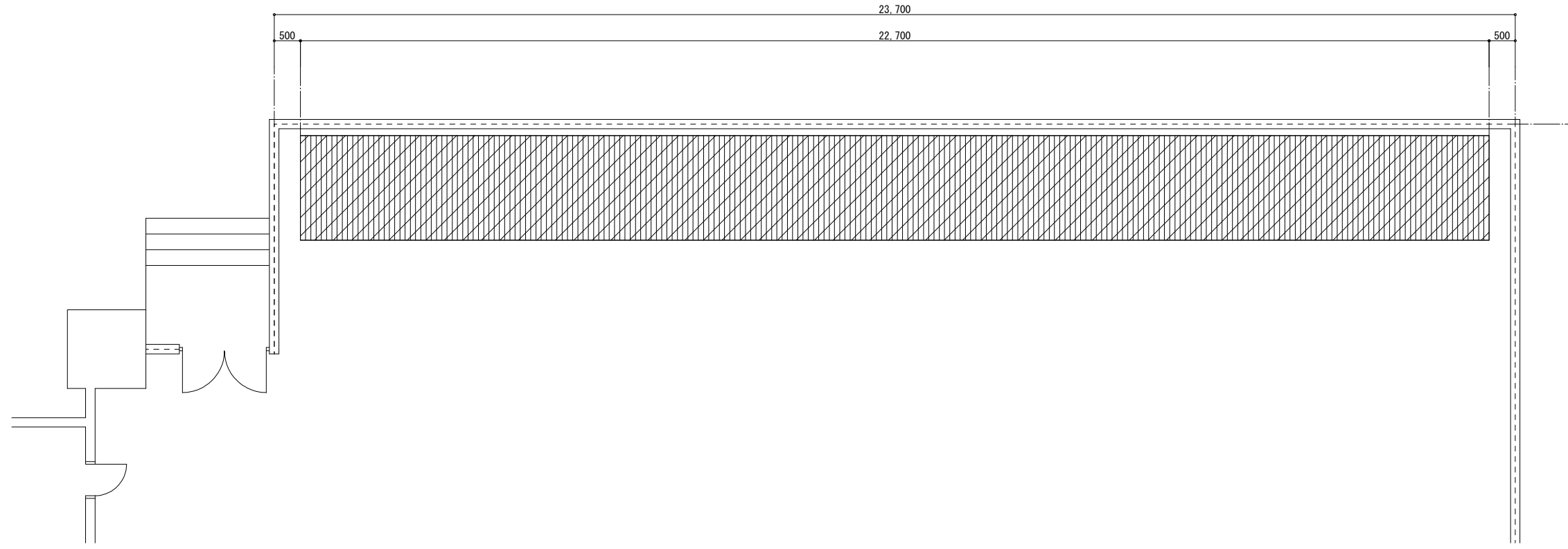
改修後




凡例
 斜線 タイル及びスラブ復旧範囲を示す。
 斜線 コースロープ収納ボックス復旧範囲を示す。

床仕様
 スラブ厚: t120
 スラブ配筋: D10@200シングル 行ヨ共
 床仕上げ: モルタル下地 磁器質100角タイル貼

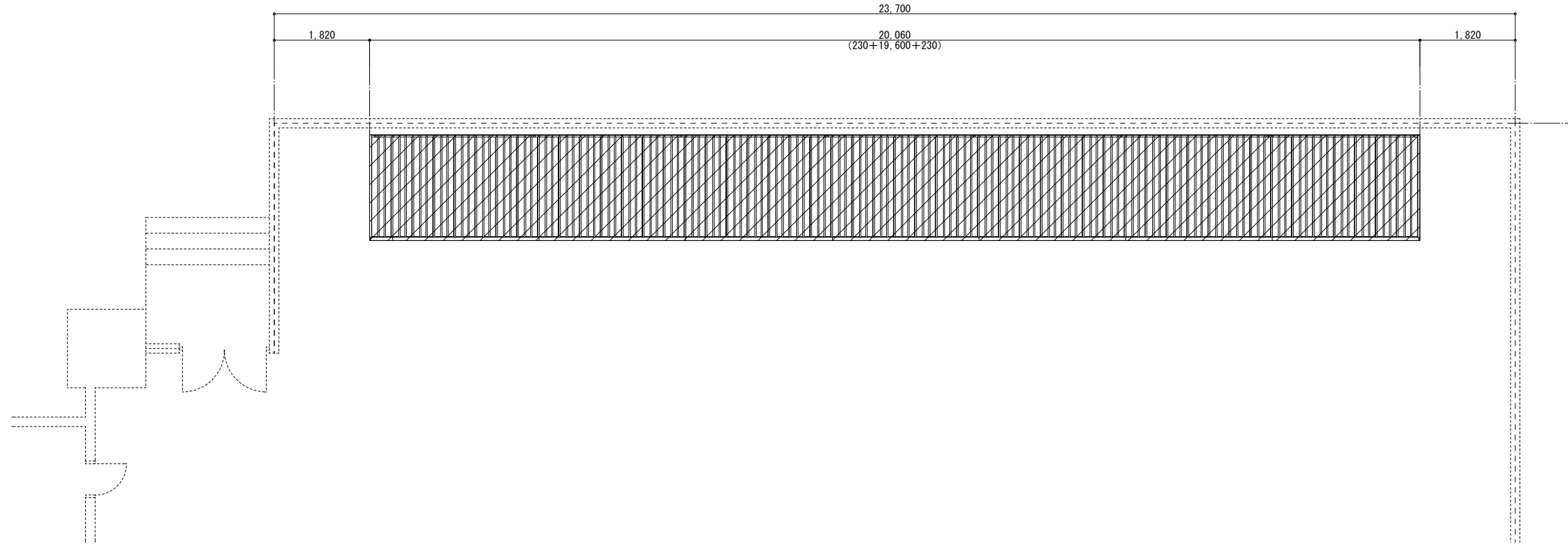
改修前




凡例
 プールサイド日除け撤去範囲を示す。

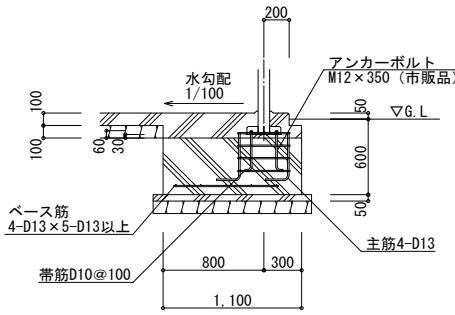
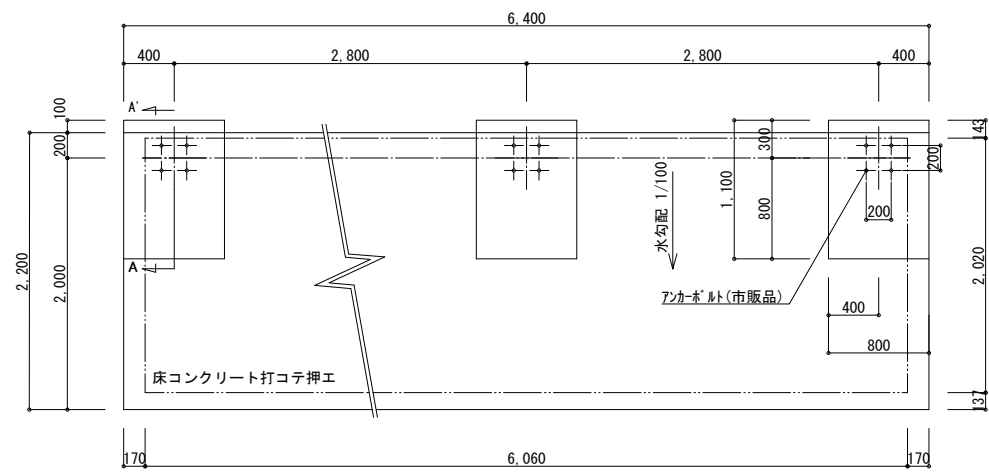


改修後

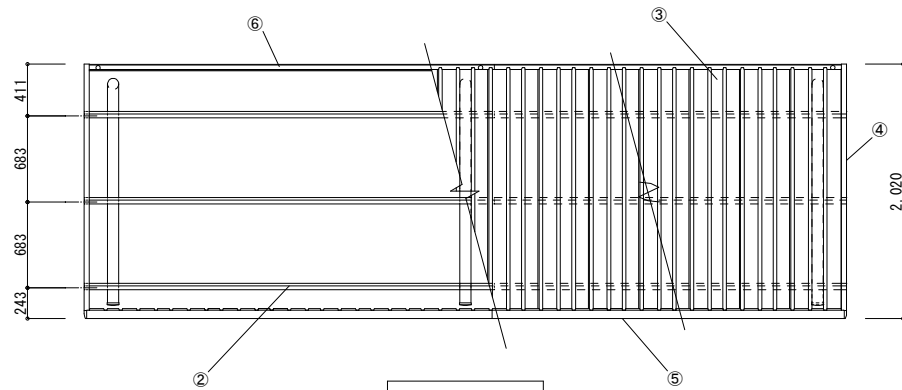


凡例
 プールサイド日除け復旧範囲を示す。

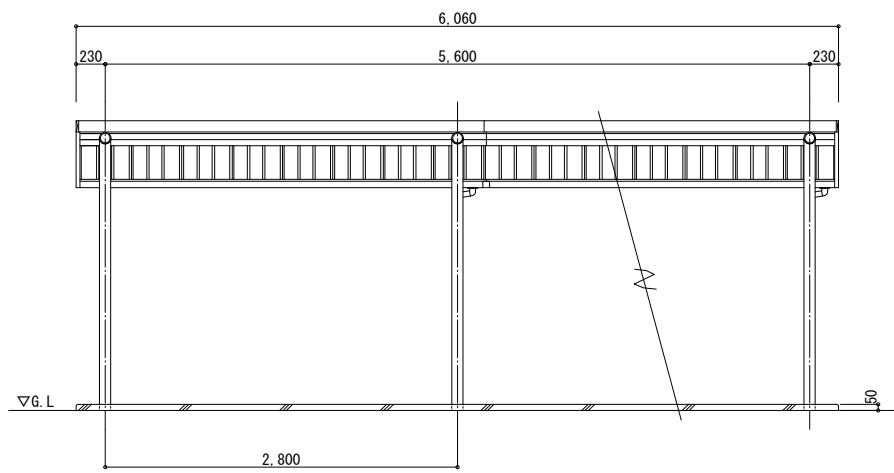
標準図



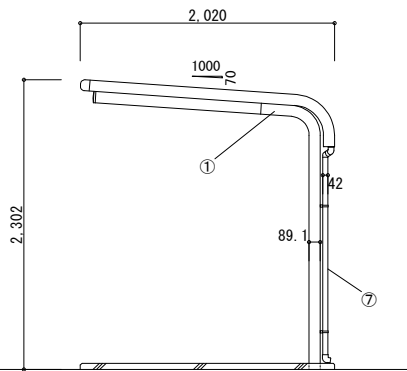
A-A' 断面



平面図



正面図



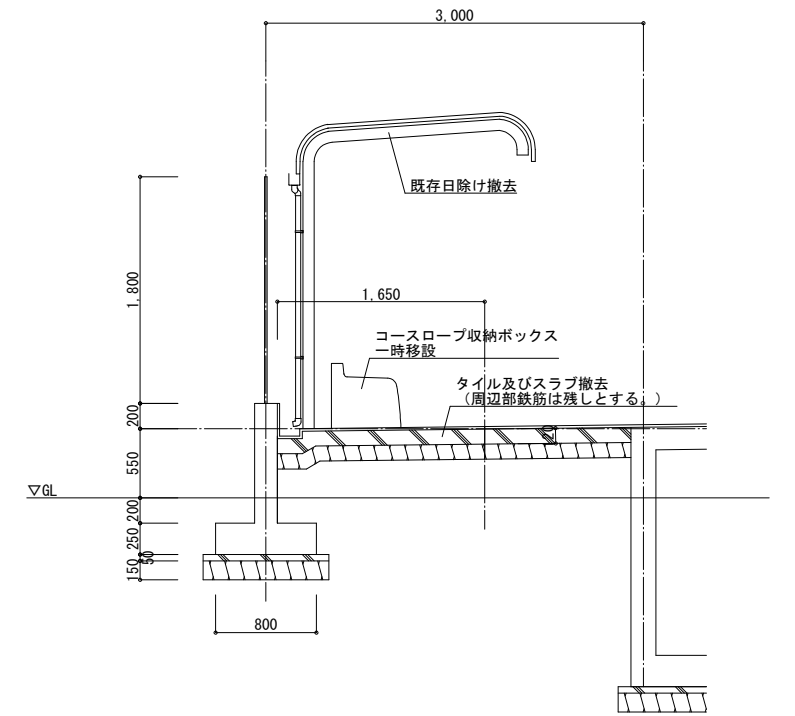
側面図

機種名：株式会社稲葉製作所 BP-28PL 同等品とする

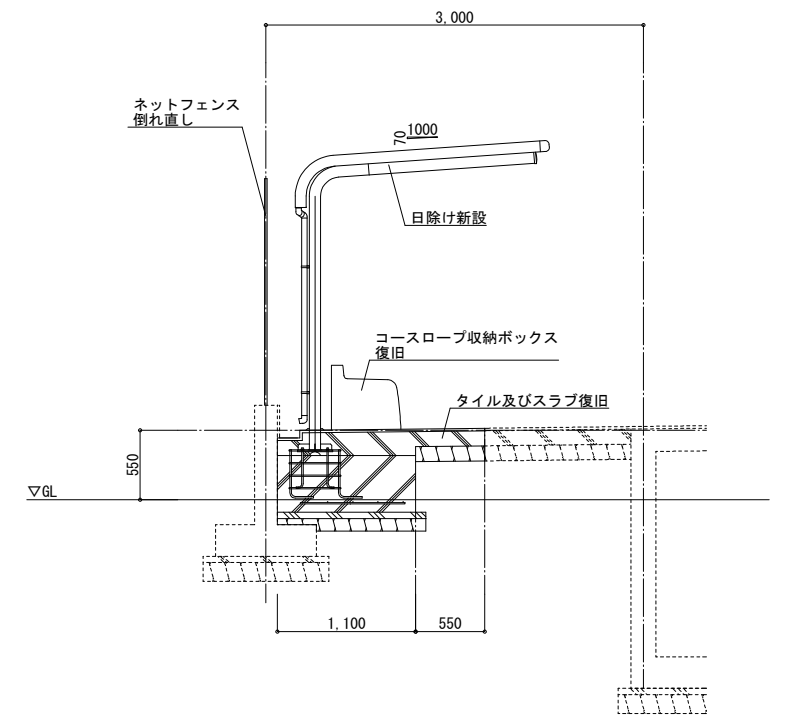
品番	部品名	材料(材質)	単位mm
1	柱・梁	一般構造用炭素鋼鋼管	4.2
2	母屋	溶融亜鉛めっき鋼板	1.6
3	屋根パネル	溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板	0.5
4	妻板	"	0.7
5	鼻隠シ前	"	0.7
6	軒とい	塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板	0.6
7	雨とい	ASA樹脂	

一般構造用炭素鋼鋼管→Y12 (JIS G 3444)
 溶融亜鉛めっき鋼板→F12 (JIS G 3302)
 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板→Y10 (JIS G 3317)
 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板→AZ150 (JIS G 3322)

改修前



改修後

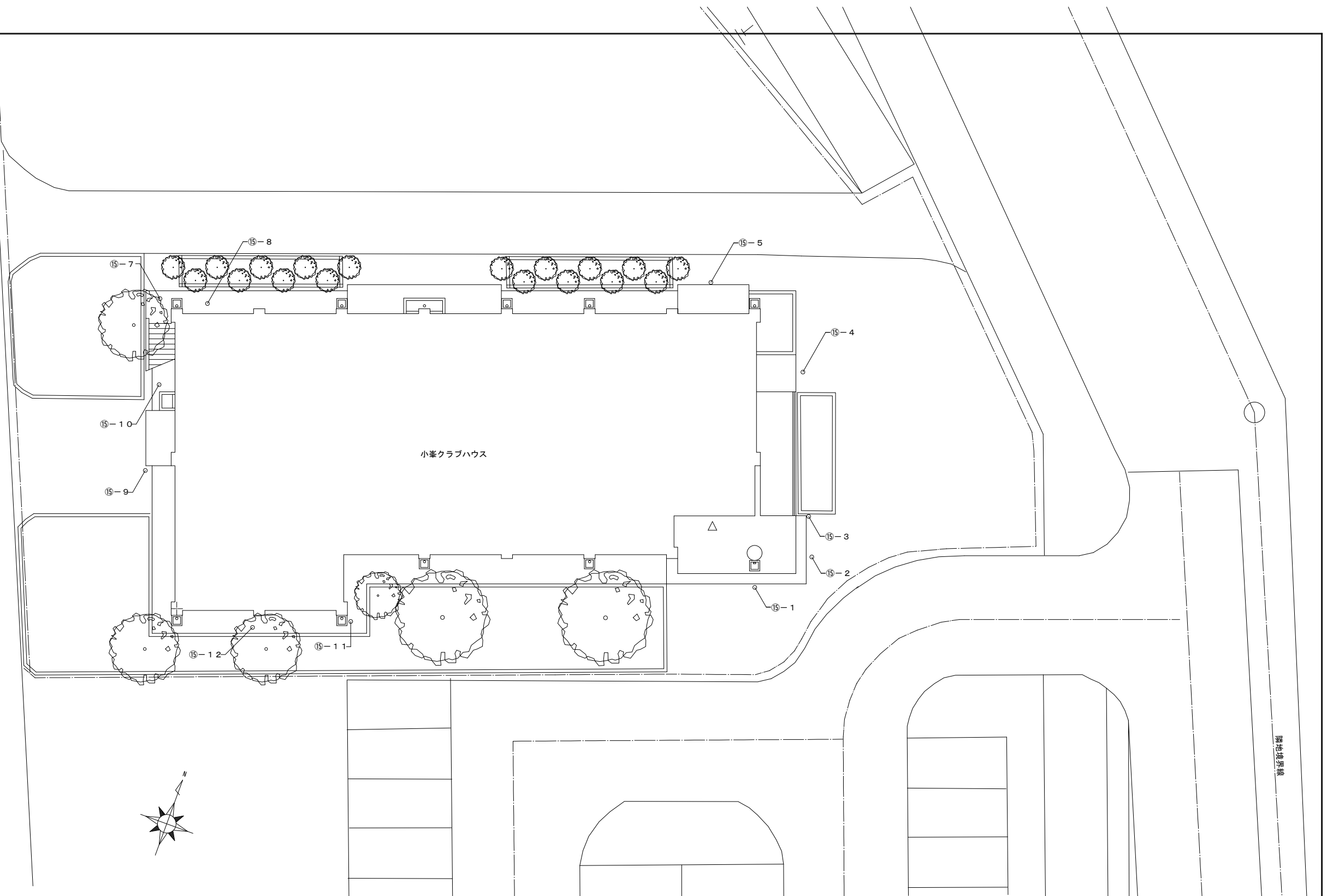


床仕様
 スラブ厚：t120
 スラブ配筋：D10@200シングル 9x30共
 床仕上げ：モルタル下地 磁器質100角タイル貼

隣地境界線

隣地境界線

隣地境界線



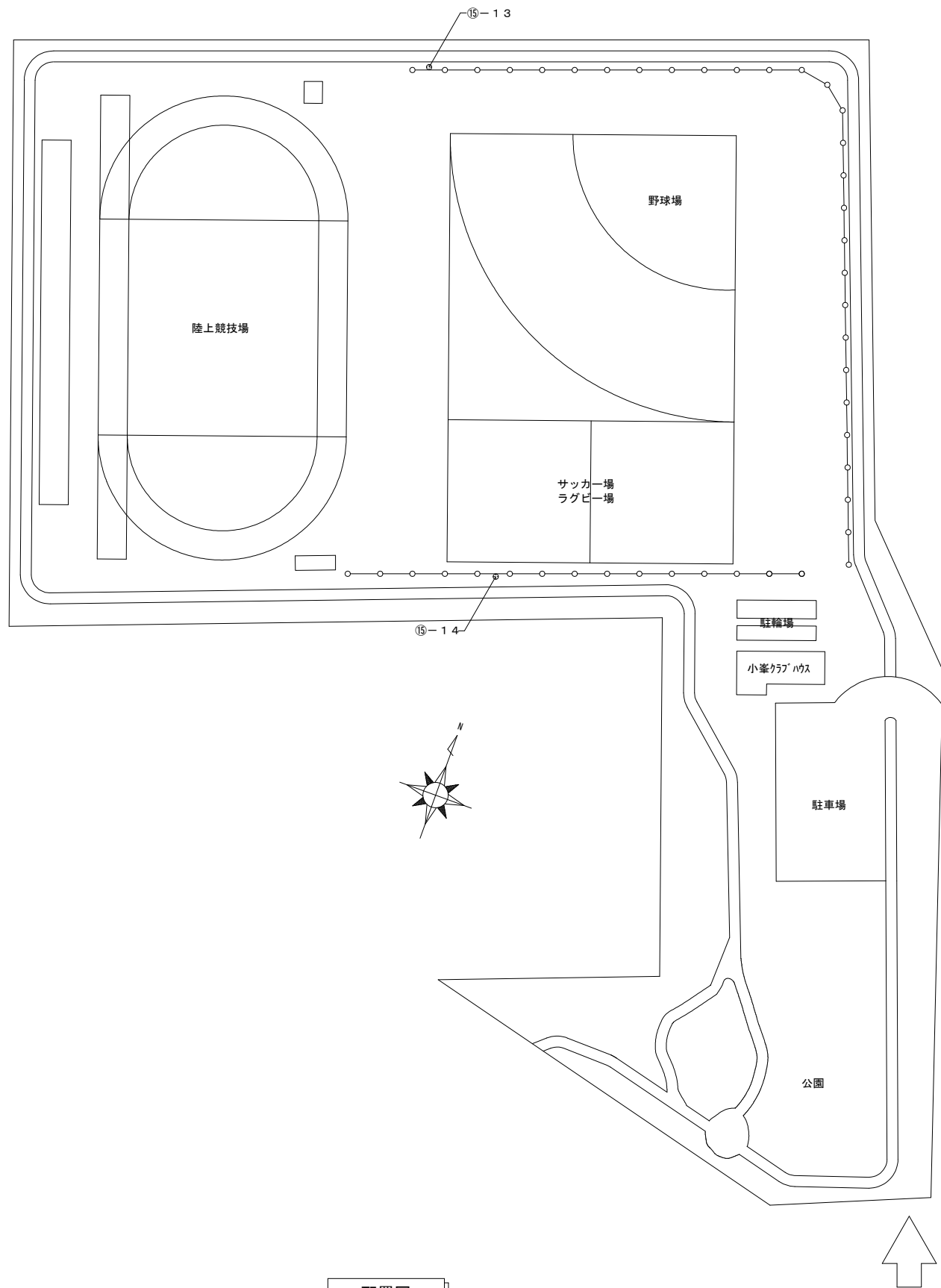
熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
15-1	インターロッキング破損	インターロッキング復旧 (W6800×D700)	1.00	箇所
15-2	インターロッキング破損	インターロッキング復旧 (W3300×D400)	1.00	箇所
15-3	インターロッキング破損	インターロッキング復旧 (W200×L500)	1.00	箇所
15-4	インターロッキング破損	インターロッキング復旧 (W1800×L800)	1.00	箇所
15-5	インターロッキング破損	インターロッキング復旧 (W2400×D600、W3500×D900)	1.00	箇所
15-6	欠番			

熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
15-7	インターロッキング破損	インターロッキング復旧 (W1350×D1500)	1.00	箇所
15-8	地盤陥没	地盤陥没部復旧 (W4000×D1200×H300)	1.00	箇所
15-9	インターロッキング破損	インターロッキング復旧 (W6500×D700)	1.00	箇所
15-10	地盤陥没	地盤陥没部復旧 (W2200×D1450×H300)	1.00	箇所
15-11	地盤陥没	地盤陥没部復旧 (W1000×D1000×H500)	1.00	箇所
15-12	地盤陥没	地盤陥没部復旧 (W8000×D1200×H300)	1.00	箇所

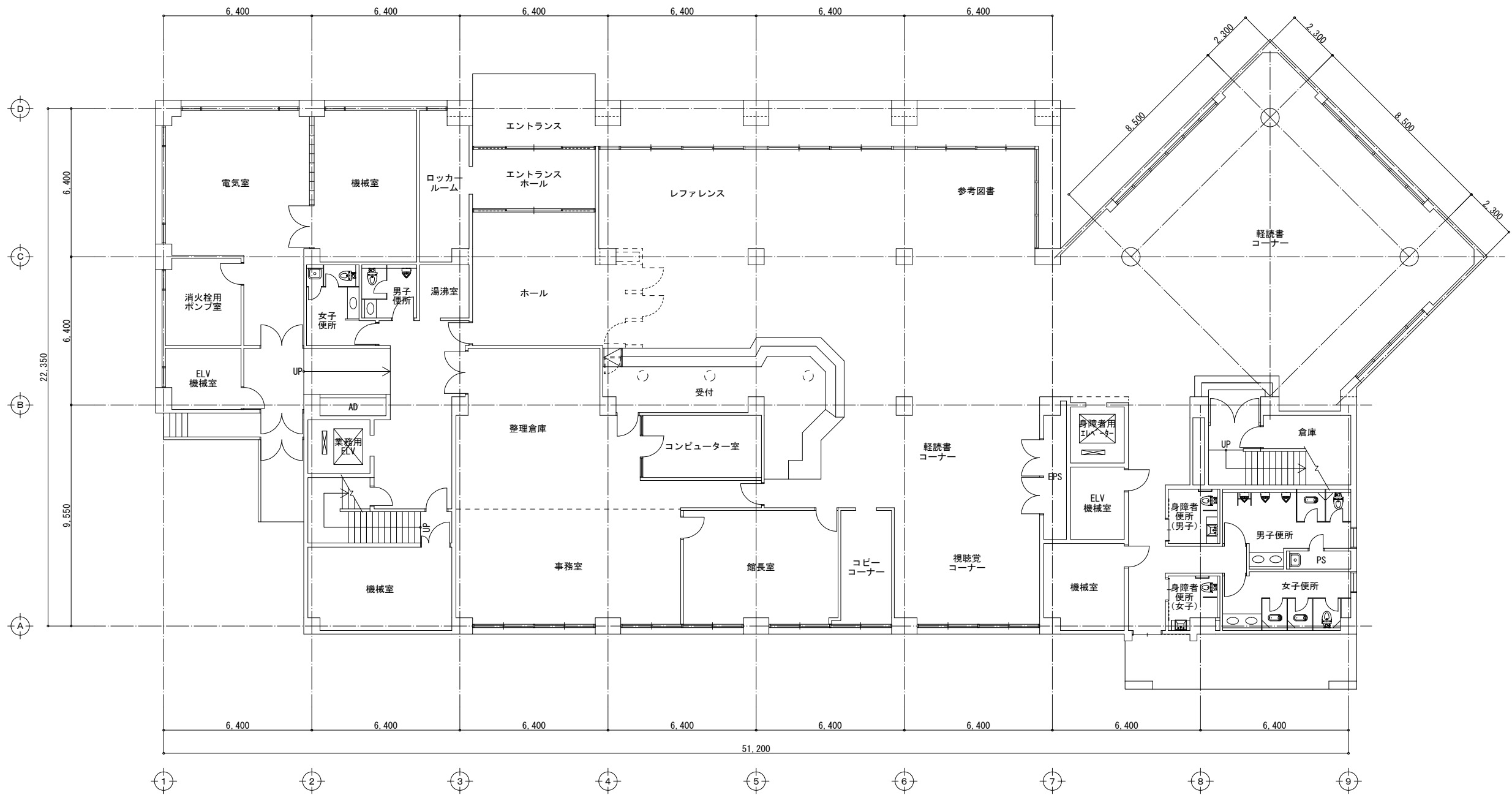
配置図



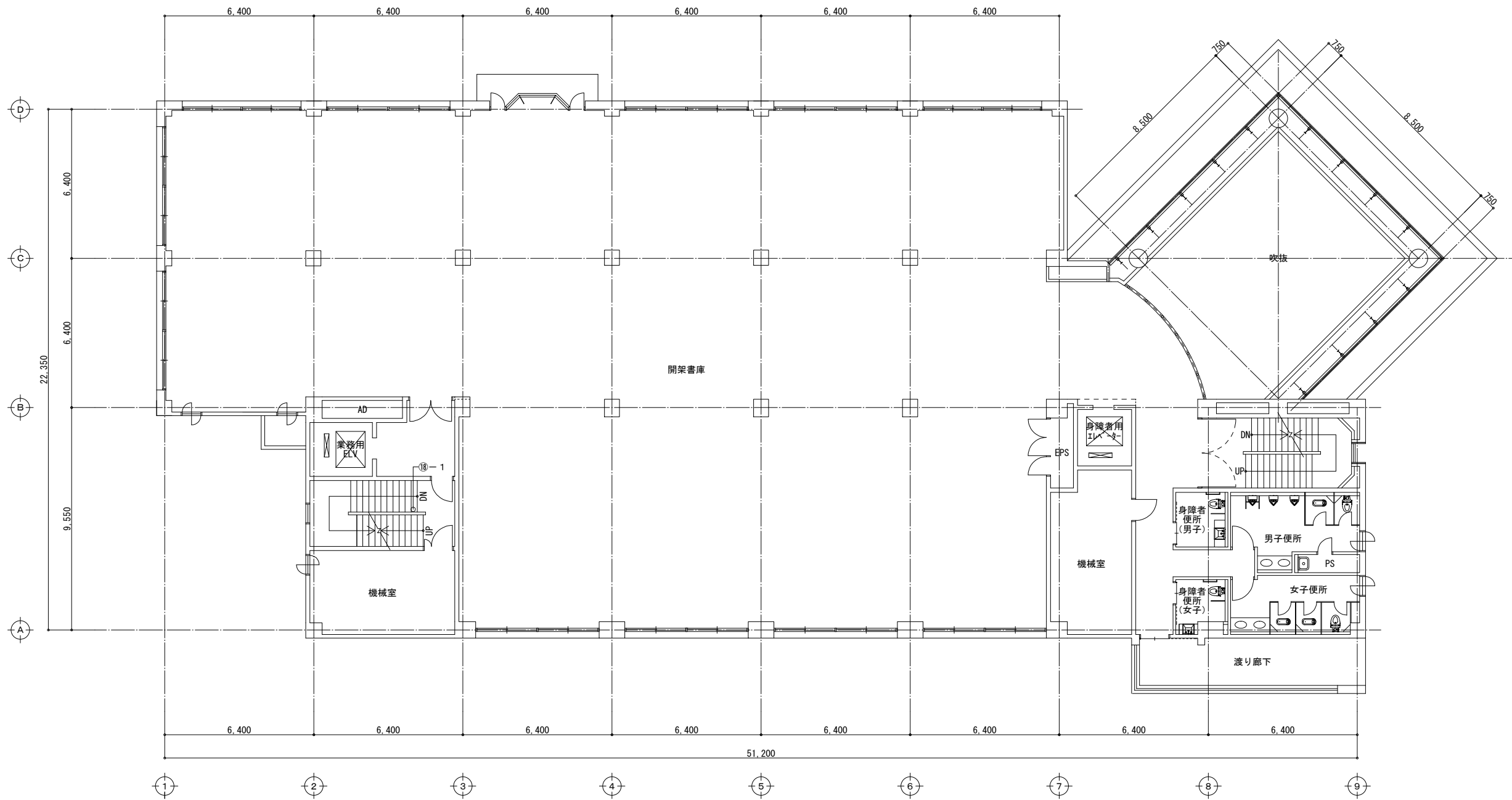
配置図

熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
⑮-13	防球ネットワイヤーロープ破損	巻き付けグリッブ取替え	1.00	箇所
⑮-14	防球ネットワイヤーロープ破損	防球ネットワイヤー取付部調整	1.00	箇所
防球ネット 全面	防球ネットワイヤーロープ緩み	防球ネットワイヤーロープ調整	84.00	箇所



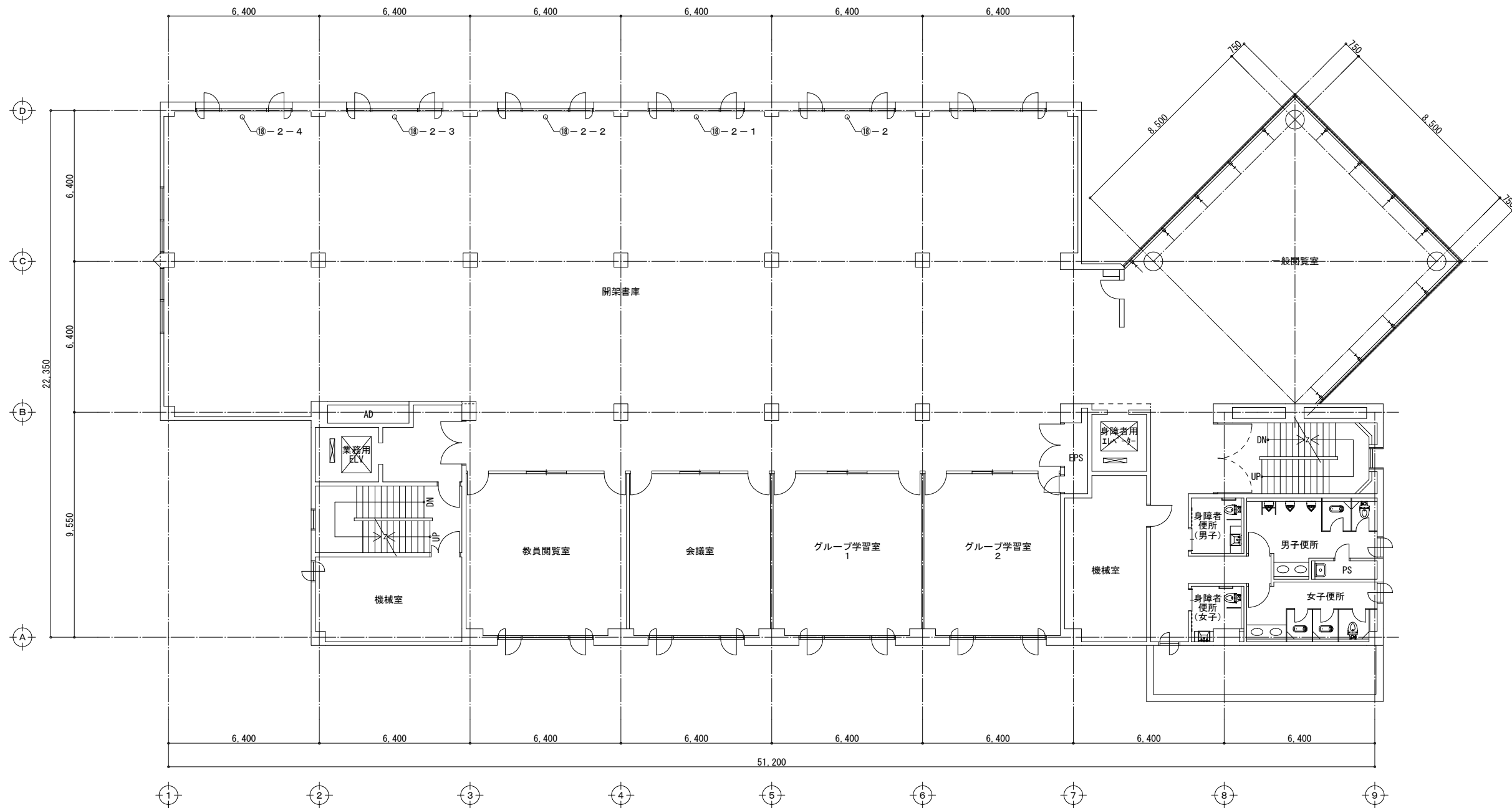
1階平面図



熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
⑩-1	コンクリートクラック 0.45mm	エポキシ樹脂注入	0.80	m
		EP塗装	1.00	m ²

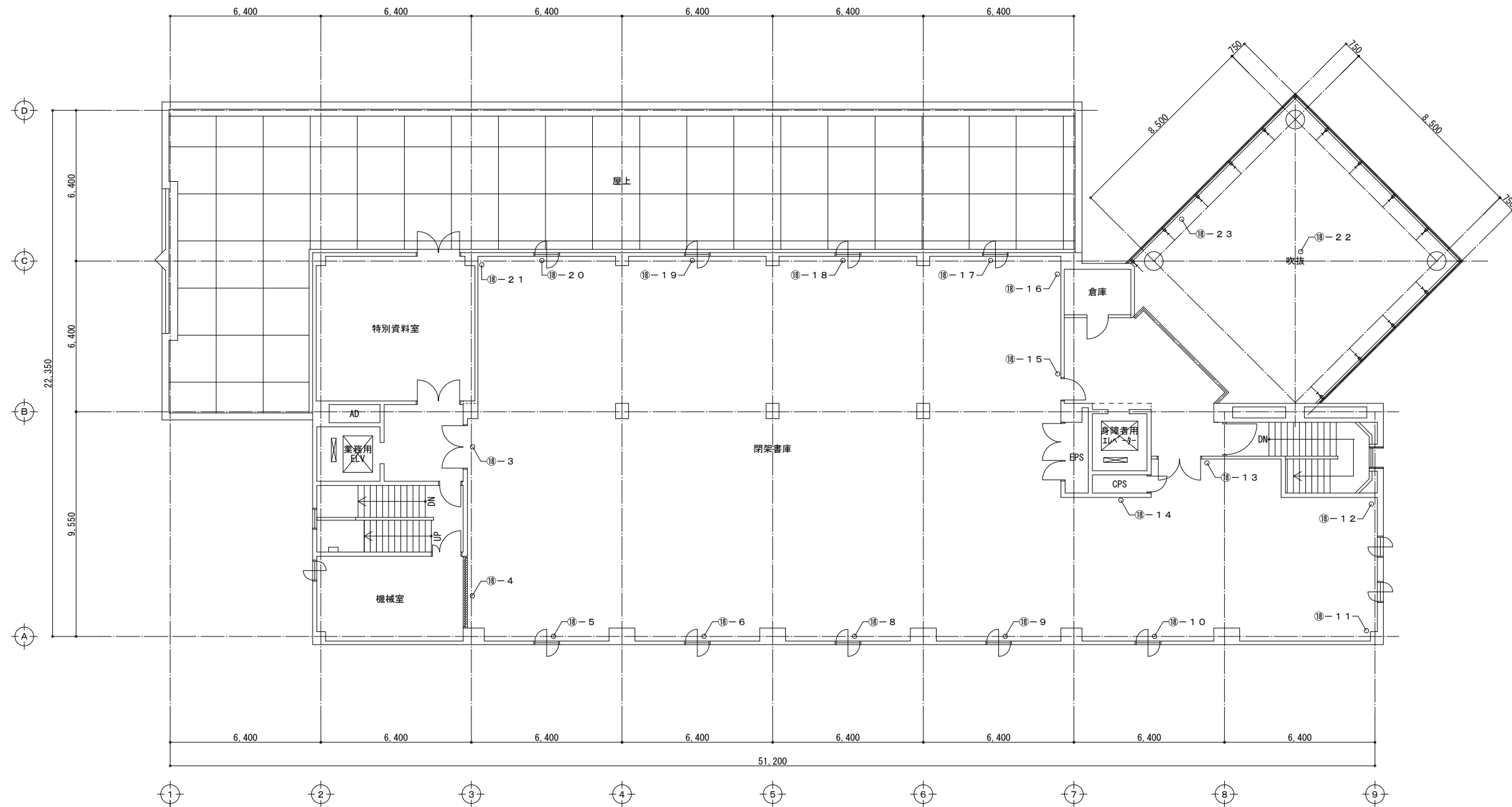
2階平面図



熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
⑩-2	天井ボード破損	岩綿吸音板 (t=12) 復旧 (200×5000)	1.00	箇所
	スリット落下	スリット取替 (L2000)	1.00	箇所
⑩-2-1	天井ボード破損	岩綿吸音板 (t=12) 復旧 (200×5000)	1.00	箇所
⑩-2-2	天井ボード破損	岩綿吸音板 (t=12) 復旧 (200×5000)	1.00	箇所
⑩-2-3	天井ボード破損	岩綿吸音板 (t=12) 復旧 (200×5000)	1.00	箇所
⑩-2-4	天井ボード破損	岩綿吸音板 (t=12) 復旧 (200×5000)	1.00	箇所

3階平面図



熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
18-3	コンクリートクラック 0.30mm未満	EP塗装	1.54	m ²
18-4	コンクリートクラック 0.30mm未満	EP塗装	1.20	m ²
18-5	コンクリートクラック 0.30mm未満	EP塗装	19.74	m ²
18-6	コンクリートクラック 0.30mm未満	EP塗装	19.74	m ²
18-8	コンクリートクラック 0.30mm未満	EP塗装	19.74	m ²
18-9	コンクリートクラック 0.30mm未満	EP塗装	19.74	m ²
18-10	コンクリートクラック 0.30mm未満	EP塗装	19.74	m ²

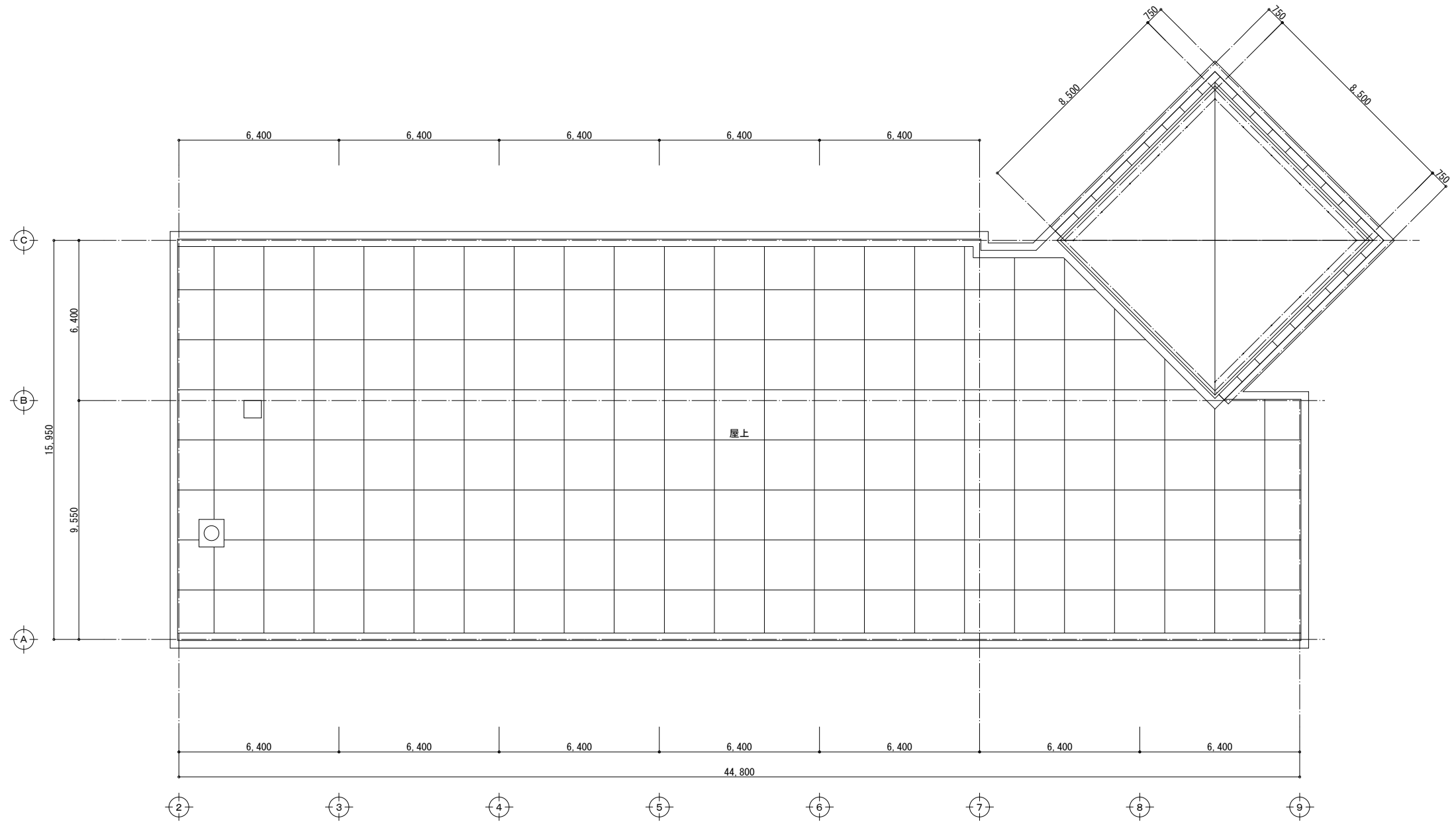
熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
18-11	コンクリートクラック 0.30mm未満	EP塗装	2.39	m ²
18-12	コンクリートクラック 0.30mm未満	EP塗装	7.59	m ²
18-13	コンクリートクラック 0.30mm未満	EP塗装	2.00	m ²
18-14	コンクリートクラック 0.30mm未満	EP塗装	0.21	m ²
18-15	コンクリートクラック 0.30mm未満	EP塗装	7.44	m ²
18-16	コンクリートクラック 0.50mm	エポキシ樹脂注入 EP塗装	6.00 6.60	m m ²
18-17	コンクリートクラック 0.30mm未満	EP塗装	19.74	m ²

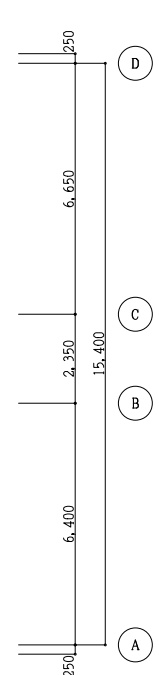
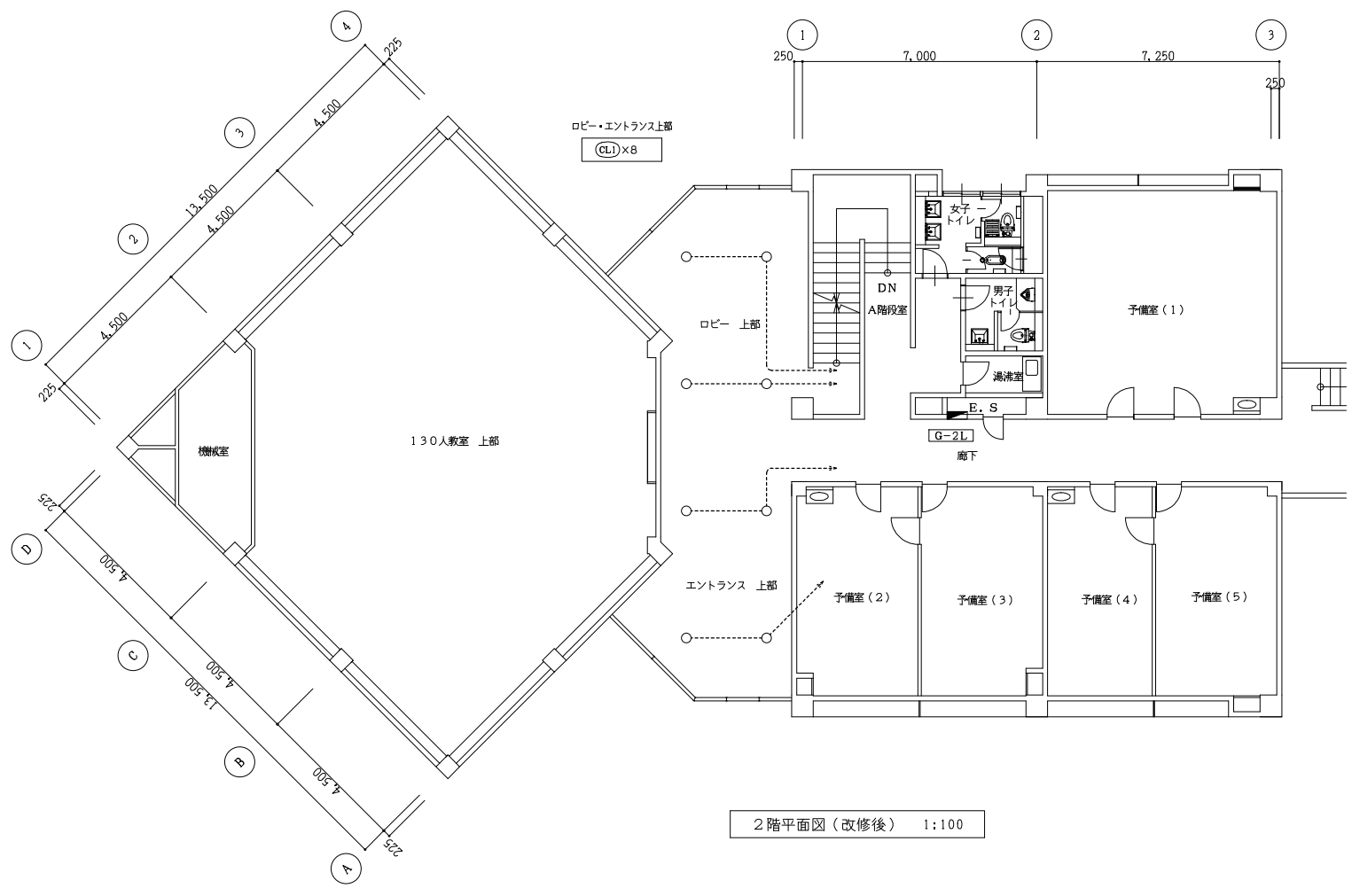
熊本地震被害状況及び復旧方法一覧

査定番号	被害状況	復旧方法		
		復旧工法	数量	単位
18-18	コンクリートクラック 0.30mm未満	EP塗装	19.74	m ²
18-19	コンクリートクラック 0.30mm未満	EP塗装	19.74	m ²
18-20	コンクリートクラック 0.30mm未満	EP塗装	19.74	m ²
18-21	コンクリートクラック 0.30mm未満	EP塗装	23.20	m ²
18-22	天井仕上材取合部破損	取合部シーリング	16.00	m
18-23	サッシ部漏水	シーリング	4.00	m

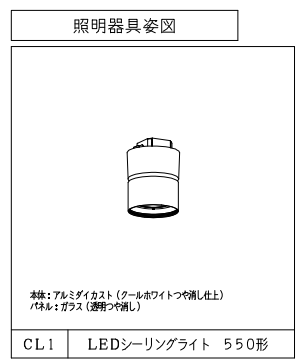
4階平面図



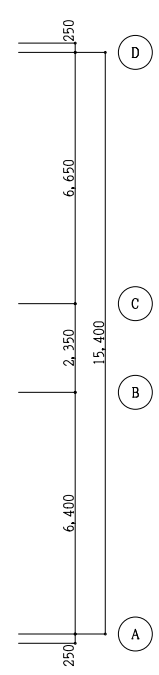
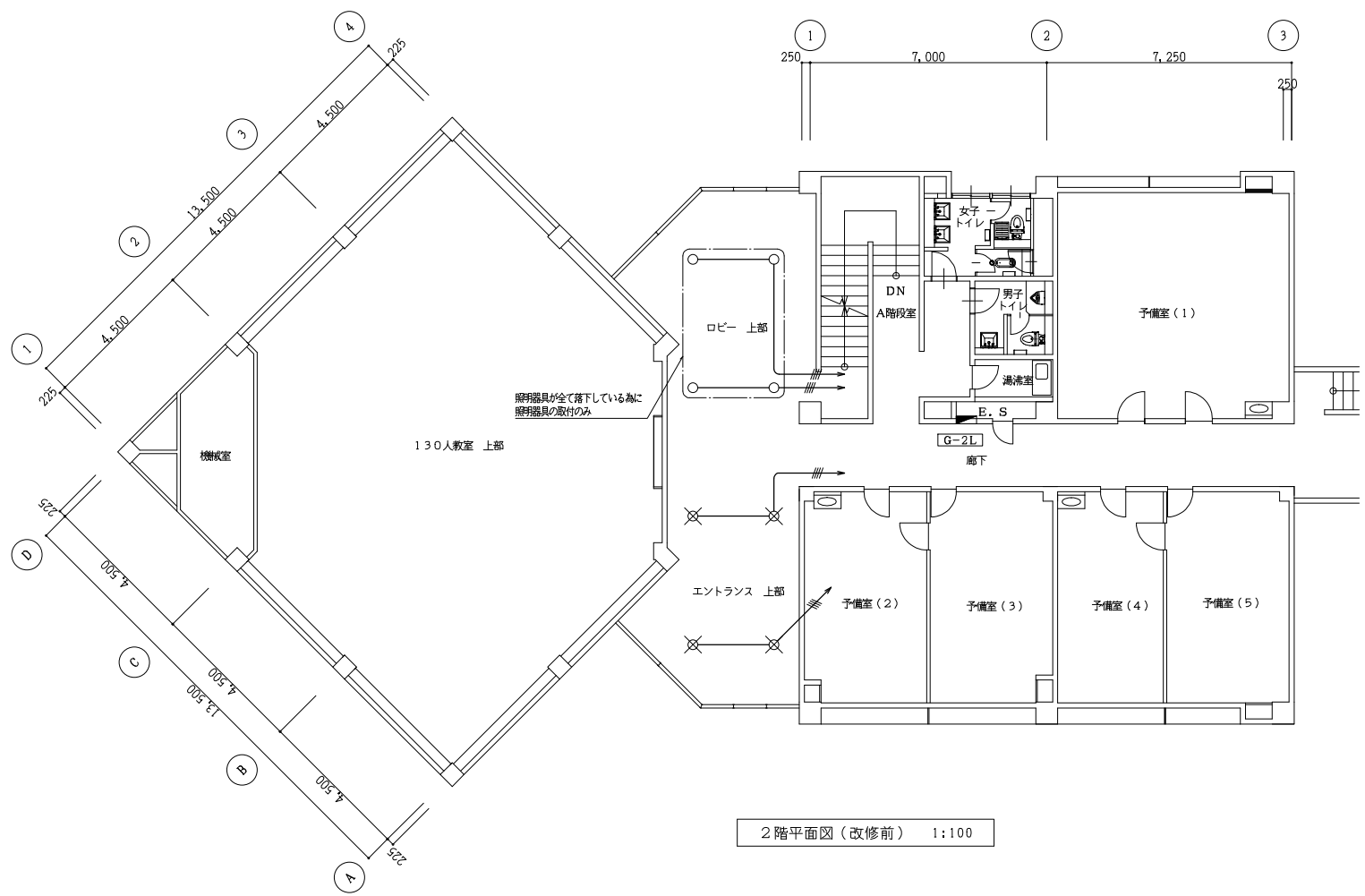
屋根伏図



改修内容
・震災による照明器具落下による照明器具の取替え



注記)
特記なき配線・配管は下記とする。
----- 隠蔽を示す



改修内容
・震災による照明器具落下による照明器具の取替え

撤去機器リスト

室名	機器名称	仕様・形状	数量	備考
エントランス上部	照明器具	MF250W 直付型	4	再使用しない

注記)
特記なき配線・配管は下記とする。
—— IV2.0x2 (EP19)
—— IV2.0x4 (EP25)
・段中×は撤去を示す。